

第四部 第十六類

第九十回 帝國議會 貴族院

帝國憲法改正案特別委員會議事速記録第二十號

付託議案

○帝國憲法改正案

昭和二十一年九月二十三日(月曜日)午前九時四十八分開會

○委員長(安倍能成君)ソレデハ

會議ヲ開キマス、第六章ノ司法、七條ヲ一括シテ、議題ニ供シマス、牧野委員、諄イヤウデスガ、出來ルダケ簡單ニ願ヒマス

○牧野英一君 簡單ニヤリマス、

八點バカリノ疑ガゴザイマスルゾデ御伺ヒ致シマスルガ、先ツ第一ニハ、彈劾審査及ビ任期ヲ限ツテアルト云フコトノ件デアリマス、特ニ彈劾ニ付テハ前ニモ申上ガマシタガ、司法權ノ獨立ト云フモノヲ完ウスル爲ニハ、佐々木委員ノ

說ニ依ルト、俗論カラモ獨立セシメル工夫ヲシナケレバナリマセヌゾデ、彈劾ト云フヤウナ制度ハドウ云フモノノカト考ヘマス、審査モサウデアリ、任期ノ點モサウデアリマスガ、是ハ實ハ前ニ一應、此ノ政府ノ御説明モ伺ツタコトデゴザイマスルカラ、今日ハ重ねテ申

上ガマセヌ、唯斯ウ云フコトガ司法ノ將來ニ於ケル第一ノ疑デアルト云フコトヲ申上ガテ置キマス、ソコデ第二ノ質問ト致シマシテハ、斯様ニ彈劾ノ制度ガ設ケラレテ居リマスルガ、彈劾ト云フコト

ニ付テハ直接ノ規定ガ見エナイヤウニ思フゾデス、何處カニ彈劾ト云フコトガ豫定サレテ居ツテ、サウシテ其ノ爲ニ、例ヘバ修正案第六十四條ノヤウナ規定ガアリ、又修正案第七十八條ノヤウナ規定ガゴザイマスゾデ、サウ云フコトヲ豫定シナイ、唯素直ニ法ヲ讀ンデ見マスト云フト、體何時何處デ彈劾サレルコトニナルノカト、斯ウ云フヤウナ疑ガ免レナイヤウニ思ヒマス、ソレデアリマスカラ、彈劾ト云フ制度、是ハ政府トシテハ、餘程御得意ノ制度デアルト、此ノ前モ仰シヤヒマシタゾデ、サウナレバ、彈劾ト云フコトニ積極的ノ規定ヲ設ケテ戴イタラドウ云フモノノカト思フゾデゴザイマス、是ハ規定ノ形式ノ議論ニナルカト思ヒマスケレドモ、彈劾ト云フコトガ、政府ノ特ニ重要視セラレテ居ル制度デアルダケニ、私ハ其ノ點ヲ特ニドウ云フモノノカト御説明ヲ伺ヒタイト思ヒマス、此ノ點ハ如何デゴザイマセウ

○委員長(安倍能成君) 司法大臣

デアリマスカ

○牧野英一君 是ハ金森國務相カラ

ラ、今迄御話ヲ伺ツタゾデスカラ、金森國務大臣カラ

○國務大臣(金森德次郎君) 彈劾

ト云フコトハ、固ヨリ具體的ニ致

シマスル時ハ、其ノ内容ガ秩序整

然ト規定セラレナケレバナリマセヌケレドモ、憲法ノ面ト致シマシテハ、大體彈劾ト云フ言葉デ、殊ニ公ト云フ言葉ヲ附ケマシテ、而モ裁制官ノ任務權限ノ方ニ於テ懲戒ヲ舉ゲ、一方ニ於テ、公ノ彈劾ト云フモノヲ舉ゲテ居リマスガ故ニ、目的ト公ト云フコトニ依リマシテ、手續ノ二ツノ意味ガ之ニ依ツテ明カニナツテ居リマシテ、サウシテ此ノ際裁制官ノ彈劾ト云フモノガ、國會ノ方ノ裁判所ニ依ツテ行ハレルト云フコトガ、私共、此ノ二ツノ所ニ規定ガアリマスル爲ニ、略ミ分ルモノト考ヘテ居リマス

○牧野英一君 サウ云フコトニナル今ノ御説明ノ御趣旨ハ、了解致シマシタ、私トシテハ明瞭ニ、積極的ニ裁制官ハ公ノ彈劾ニ依ツテ罷免セラレルコトガアルト云フコトヲ真正面カラ先ツ原則ヲ掲ゲテ、サウシテ第一ニハ、國會ガ彈劾ヲスル、第二ニハ、其ノ彈劾ニ依ルニ非ザレバ罷免セラレルコトガナイト、斯ウ云フヤウナ順序デ御書キ下サルト云フト、素直ニ我ノ頭ニ入りハシナイカト思フ、是ハ恐ラク規定ノ形式ノ話ニナリマセウガ、私共ノ、サウ素直ニモ

モ御考慮願ヘレバ、有願イト思ヒマス、折角、此ノ憲法ヲ誰ニデモ容易ク分ルト云フ趣旨デ、色々御苦心ニナツテ居ラレルゾデスカラ、突如トシテ、彈劾ト云フ言葉ガ出ルト云フヤウナ感ゾノナイヤウニ御配慮ヲ煩シタイト思フヤウナ次第デアリマス、ケレドモ、修正案第七十八條ニ公ノ彈劾ト、斯ウ書イテアレバ分ルデヤナイカ、斯ウ仰シヤレバソレダケノコトデ意見ノ相違ト云フコトニナリマセウ、今度ハ質問ノ第三ト致シマシテハ、下級裁判所ト云フ言葉ガ用ヒテアリマス、最高裁判所ニ對シテ、下級裁判所デアリマスガ、是ガ私自身異様ニ感ジマシタ、殊ニ此ノ憲法ノ下ニ各裁判所構成法、其ノ他ノ法規ノ立案ト云フコトヲ考ヘテ見マスト、今ノ此ノ下級裁判所ト云フコトガ耳障リニナル、下級裁判所ト云フコトデ、普通ノ人ガドウ云フコトヲ考ヘルカト思ツテ二、三人ニ聽イテ見マス

ト、區裁判所、セイム、地方裁判所程度ノコトヲ考ヘルゾデ、控訴院ト云フモノニナルト、下級裁判所ト云フ言葉デハ映リガ惡イト、斯ウ思ヒマス、是モ言葉ノ争ヒデアリマスガ、寧ロ差當リ私ガ考ヘテ居ル所デハ、普通裁判所トデモシテ戴イタラ、ドウ云フモノデゴ

ザイマセウカ英語ノ中ニハ、インフェリオルト云フ言葉ガ見エテ居リマスルガ、モウ少シ控訴院、而モ此ノ控訴院ハ御示シマシタ司法制度審議會ノ一應ノ中間報告ニ依ルト云フト、高等裁判所ト云フ名稱ガ附セラレテ居リマスガ、下級裁判所中ノ高等裁判所ナドト云フト、映リガドウ云フモノカ、是モマア、文字ノ詮議ニ歸着スルト仰シヤレバ、ソレ切りデアリマスガ、苟モ此ノ高等裁判所、重大ナル權限ヲ持ツ高等裁判所ガ憲法ニ於テ下級裁判所ト云フ言葉デアレバ、居ルト云フコトハ、思想トシテ裁判所ノ權威ニモ關スルト云フコトハ、私ハチト言ヒ過ギデゴザイマセウカ、是モ一應御考ノ願ヒタイ、唯是ハ文字ノ議論デアリマスゾデ、餘リニヤカマシク言フノハ恐縮デゴザイマスガ、如何ナモノデゴザイマセウカ、是ハ金森國務相カラ御答ヘ願フナラバ結構デゴザイマスケレドモ、寧ロ司法大臣ノ御心持、即チ控訴院ヲ現ニ引廻テオイデニナル司法大臣ノ御心持ヲ一ツ伺ヒタイ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答ヘ致シマス、一應尤モ御議論ノヤウニ拜承スルゾデアリマスルガ、此ノ下級裁判所ト云フ文字ヲ使ヒマシタノハ、最高裁判所カラ

見テノ下級裁判所デアリマス、此ノ下級裁判所トハ、今御話ノヤウニ控訴院ニ代ルベキ高等裁判所、地方裁判所、單位裁判所ト云フモノヲ包含セシメル意味デ使ツタノデアリマス、繰返シテ申シマスガ、最高裁判所カラ見テノ下級裁判所ト、斯ウ云フ意味デアリマス

○牧野英一君 誠ニ御尤モナ御説明デゴザイマスガ、高等裁判所ト云フモノハ、全ク偉イモノデ、控訴院以下ハ普通我々ノ考ヘル裁判所ダト、斯ウ云フ位ナ心持テ、私ハ普通ト云フ言葉ノ方ガ穩カデハナイカト思フノデアリマスガ、御説明ノ趣旨ハ誠ニ御尤モ存ジマス、ソレデ質疑ノ第四ニ移リマス

ルガ、是ハ最高裁判所ガ規則ヲ定メルコトガ出來ルト云フ修正案第七十七條デゴザイマスガ、「最高裁判所ハ、訴訟ニ關する手續、云々」ノ規則を定める權限を有する。是ハ此ノ最高裁判所ノ定メマスル規則ト法律トノ關係デゴザイマスガ、例ヘバ民事訴訟法、刑事訴訟法ト云フヤウナモノハ法律デ決ルニ違ヒアリマセヌガ、訴訟ニ關スル手續ニ付テ規則ヲ設ケルト云ヒマス、民事訴訟法、刑事訴訟法、此ノ規則トノ境ハ、ドウ云フヤウト所デ決ルモノデゴザイマセウカ、是モ司法大臣ノ御心持ヲ伺ヒタイ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答ヘ致シマス、申ス迄モナク、此ノ訴訟ニ關スル手續ト申シマシテモ、民事訴訟法、或ハ刑事訴訟法ノ如ク、一般國民ノ權利、義務ニ直接關係アルモノハ、此ノ中ニ入ラスコトハ、當然言フヲ俟タヌノデアリマス、此處ニ掲ゲマシタ、「訴訟ニ關する手續」ト言フノハ、實際ノ運營ニ當リマシテ、圓滑ニ進ミ得ル爲ノ手續デアリマス、現在ノ民事訴訟法、刑事訴訟法中ニモ、實ハ此ノ「訴訟ニ關する手續」ニ該當スベキモノハ多少アルダラウト思ヒマス、私ヨリ御説明申ス迄モナク、萬々御承知デアリマセウガ、現在ノ訴訟手續ニ於テモ、全クノ訴訟運營ニ關シテ、實際ニ適用スベキ手續關係ノ條文ハ幾ラモアリマス、其ノ限界ト云フモノハ、ナカノハツキリハ附ケラレマセヌ、併シ、今度ノ訴訟手續改正スルニ當リマシテハ、サウ云フコトハ十分考慮ヲ致シタイト思フノデアリマス、要ハ訴訟ニ關スル手續ト云フ、實際ノ訴訟事務ノ運營ニ當ツテノ所謂、「ブラクチカル・ルール」サウ云フモノヲ指シテ居ルノデアリマス

○牧野英一君 折角規則ヲ御捧ヘニナツテモ、法律ニ違反スルト云フコトデ、例ヘバ刑事訴訟法デゴザイマス、第三章ノ所ニ「何人モ、法律の定める手續によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない。」ト、斯ウ書イデアリマス

カラ、折角ノ規則ガ法律デ出來テ居ラヌト云フ爲ニ、最高裁判所デ憲法違反ノ宣言ヲ受ケルト云フヤウナコトニナルト残念ニ思ヒマス、サウ云フ所カラ法律ト規則トノ境ト云フモノヲ、何かハツキリシテ置カヌト行クマイカト思ツタノデアリマスガ、只今ノ御説明ヲ伺ヒマスト云フト、外部ニ對シテ法律關係、權利關係ヲ生ズルヤウナ場合ニハ、法律デヤル、唯單ニ手續ヲ滑カニスル程度ニ於テハ、規則デ宜シイ、コンナヤウナ工合カト伺ヒマシタガ、恐ラク是ハ更ニ學說ノ上デ、我々ガ考ヘネバナラヌコトデゴザイマスケレドモ、權利關係ヲ發生スルモノハ法律デ、サウデナイモノノホソノ便宜ノ爲ノ手續ハ規則デ宜シイト云フ位ニ伺ツテ置イテ宜シイトデゴザイマセウカ、ソコデ更ニ御伺ヒ致シタイトハ、質問ノ第六ニナリマスガ、此處ニ「辯護士」ト云フ言葉ガアリマスガ、辯護士ニ關スル、今ハ辯護士法ガアリマスガ、此ノ辯護士ニ關スル規則ト云フコトデ、辯護士法ト辯護士規則ト云フモノガ出來マスカ、讀ミ違ヒマシテ居リマスカ知りマセヌガ「辯護士」トアリマス、今日ノ辯護士法迄ガ最高裁判所ノ規則デ定メラレルヤウナ氣ガ致シマスガ、其處ハドウ云フヤウナモノニナリマセウカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 現在ノ辯護士法ノ如キモノハ之ニ當ラヌト、私ハ解釋シテ居リマス、此ノ辯護士ニ關スル規則ハ、矢張り實際ノ訴訟手續運營ニ當ツテ申ス迄モナク辯護士ト裁判所、檢事ハ相對立スルト申シマセウカ、或ハ一體ト申シマセウカ、訴訟運營ニ當ル一ツノ當事者ニナツテ居リマス、其ノ訴訟ヲ運營スルニ當ツテ辯護士トノ關係ニ於ケル一ツノ「ルール」ヲ作ツテ行カウト云フコトデアリマス

○牧野英一君 實際ノ運用ニ付テハ相當ニ問題ヲ免レヌト思ヒマスガ、是モ現在ノ辯護士法ノヤウナモノ、即チ特ニ外部ニ對シテ權利關係ヲ生ズルヤウトモノハ法律デ定メルベキモノデアルト云フ御趣旨デアルト、斯ウ今伺ヒマシタ、サウ致シマスルト、今度ハ訴訟ニ關スル手續、辯護士ニ關スル事柄デ、法律ガ委任ヲスレバ、矢張り政令デナク、最高裁判所ノ規則ニ依ツテ、委任ニ係ル事項ヲ規定スルコトガ出來ルヤウニナルモノデアリマセウカ、如何デアリマセウカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 法律デ委任サレレバ、左様ニナルト考ヘマス

モマア相當ニ御考慮ヲ願ハネバナラヌ問題ニナリハシナイカト思ヒマスガ、御心持ハ分リマシタ、此ノ程度ニ止メテ置キマス、今度ハ質問ノ第七ト致シマシテ、裁判所ハ憲法ト法律ニミ拘束サレルト云フ規定ガゴザイマスガ、是ハ政令、規則等ニハ拘束サレナイト云フコトニナルモノデゴザイマセウカ、ドウ云フコトニナリマセウカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 此ノ七十六條ノ「この憲法及び法律にのみ拘束される。」ト申シマスノハ申ス迄モナク裁判官ノ獨立的地位ヲ保障スル爲ニ設ケラレタモノデアリマシテ、其ノ地位及ビ身分ニ關シテノ保障ノ意味デ「この憲法及び法律にのみ拘束される。」斯ウ云フ規定ニナツテ居リマス

○牧野英一君 是ハ私ガ讀ミ違ヒマシテ居ツタカトモ實ハ考ヘラレルノデアリマスガ、「その良心に従ひ獨立してその職權を行ひ」此ノコトニ付テ、憲法又ハ法律ガ之ヲ拘束スルトガ出來ル、斯ウ云フ御趣旨ニナリマスガ

○國務大臣(木村篤太郎君) 左様デゴザイマス

○牧野英一君 サウシマスルト云フト、裁判所ガ良心ニ從ヒ獨立ニ職權ヲ行フコトニ付テ議會ガ適當ニ制限スルコトガアルノハ、良心ニ從ハナイデヤレト云フコトガ、テト言葉ハ荒ウゴザイマスガサウ云フヤウナ所進行キマスト云

モマア相當ニ御考慮ヲ願ハネバナラヌ問題ニナリハシナイカト思ヒマスガ、御心持ハ分リマシタ、此ノ程度ニ止メテ置キマス、今度ハ質問ノ第七ト致シマシテ、裁判所ハ憲法ト法律ニミ拘束サレルト云フ規定ガゴザイマスガ、是ハ政令、規則等ニハ拘束サレナイト云フコトニナルモノデゴザイマセウカ、ドウ云フコトニナリマセウカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 此ノ七十六條ノ「この憲法及び法律にのみ拘束される。」ト申シマスノハ申ス迄モナク裁判官ノ獨立的地位ヲ保障スル爲ニ設ケラレタモノデアリマシテ、其ノ地位及ビ身分ニ關シテノ保障ノ意味デ「この憲法及び法律にのみ拘束される。」斯ウ云フ規定ニナツテ居リマス

○牧野英一君 是ハ私ガ讀ミ違ヒマシテ居ツタカトモ實ハ考ヘラレルノデアリマスガ、「その良心に従ひ獨立してその職權を行ひ」此ノコトニ付テ、憲法又ハ法律ガ之ヲ拘束スルトガ出來ル、斯ウ云フ御趣旨ニナリマスガ

○國務大臣(木村篤太郎君) 左様デゴザイマス

フト、相當ニ三權分立ノ趣旨、即チ司法權ノ獨立ト云フモノニ影響ガアルヤウニ思ヒマスガ、ドウ云フコトニナリマセウカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 其處迄ハ考ヘテ居リマセウ、詰リ憲法上ノ地位ヲ保障シヨウト云フノデアツテ、法律ヲ運用スルニ當リマシテハ、此ノ憲法及ビ法律ニ基イテヤル譯デ、又一方カラ考ヘマシテモ、今申上ゲマシタ通り、主トシテ地位ヲ保障スルモノデアリマス、其ノ外ノ政令デ以テ、其ノ地位ヲ動スコトノ出來ナイヤウニシテ居ル譯デアリマス、サウ云フ建前デゴザイマス

○牧野英一君 御趣旨ハ大分理解ガ出來ルヤウニナツタト思ヒマスガ、私ガ一應「デキスト」ヲ讀ミマシテ理解シマシタ所ハ、今日ノ所デハ、裁判所ハ憲法ト法律ニノミ拘束サレナイ、斯ウ云フコトニナツテ居リマスルノデス、法律ノ憲法違反ナリヤ否ヤト云フコトハ、大審院ハ之ヲ審査スルコトハ出來マセヌガ、命令ニ付テハ審査出來ル、是ハ現ニ大審院方判例ヲ以テ我々ニ示シテ居ル所デアリマス、即チ裁判所ハ憲法及ビ法律ニノミ拘束サレルト云フコトハ、サウ云フ意味ニ今日迄使ハレテ居ツタ一ツノ言葉ト存ジテ居リマス、然ル處、此ノ憲法改正案デハ、最高裁判所ハ法令全體、即チ命令、規則、處分ニ至ル迄憲法ニ適合シ

テ居ルヤ否ヤト云フコトノ審査權ヲ持ツテ居ルノデアリマスルカ、私共ガ從來考ヘテ居ツタ裁判所ガ憲法及ビ法律ニノミ拘束セラレルト云フ言葉トハ、此處ハ餘程違ツタ意味ニナリマスルノデス、裁判所ノ獨立權ハ、憲法及ビ法律デ之ヲ拘束スルコトガ出來ル、斯ウ云フ意味ニナルヤウニ、今ノ御説明デ伺ヒマシタガ、是ハ内容的ニ一ツ御考ヲ願ヒタイト存ジマス、司法權ノ獨立ト云フモノヲ、議會ノ議決デ何時デモ動かセルト云フヤウナコトニナリマスルノハ、恐ラクハ此ノ憲法ノ精神カラ理解出來得ルデゴザイマセウカ、此ノ憲法ハ餘程司法權ノ獨立ヲ、現在ノ憲法ノ精神ト云ツテハ、惡ウゴザイマセウカ、實際ノ運用ヨリモ重ク見テ居ルノデゴザイマス、ソレガ片方デハ、裁判官ハ公ノ彈劾ニ依ツテ國會カラ動かサレル、又法律ニ依ツテ其ノ獨立ガ如何様ニデモ拘束サレルト云フ決メ方ニナツテ居ルノハ、司法權ノ獨立ト云フコトニ付テ、格別ノ關心ヲ持ツテ居ル我々トシテハ、甚ダ理解シ難イヤウニ思ヒマスルガ、重ネテ伺ツテハ相濟ミマセヌケレドモ、司法大臣ノ御心持ヲ伺ツテ置キタイ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御説御尤モデアリマスルガ、併シ裁判官モ申ス迄モナク、一般ノ公務員デアリマス、國民ノ詰リ總意ニ從

ハナケレバナラヌ建前ヲ此ノ憲法ハ執ツテ居ルノデアリマス、併シ今申ス迄モナク、徒ニ法律デ以テ裁判官ヲ拘束スルコト云フヤウナコトハ、實際ニ於テハ、運用上ナカラウカト思ハレル次第デアリマス

○牧野英一君 是ハ尙、私モ研究ヲ重ネマスルガ、何レ憲法ノ專門ノ方カラシテ何か又質問ガオアリニナリハシナイカト思ヒマスルノデ、私個人トシテモ、十分重ネテ研究致シマスルコト云フ程度デ、此ノ質問ヲ打切りマス、今度ハ第七番目ノ質問ニナリマスルガ、公開ヲ止メル場合デアリマス、最後ノ規定、修正案八十二條、政府原案七十八條デアリマスルガ、大審院ハ或場合ニハ公開シナイデ行フコトガ出來ル、但シ是々ノ場合ハ、公開シなければならぬ。」「この憲法第三章で保障する國民の權利が問題となつてゐる事件の對審はトアリマス、是ハ前ニ、第三章ノ始リニ於テ、金森國務大臣ノ御考ヲ伺ヒマシタ、此ノ基本的人權ト云フコトハ、第三章ニ個別的ニ書イテアル事柄ヲ御示シナルノカ以外ニ尙廣ク基本的人權ト云フモノガアルト云フノガ御趣旨デア

外ニハ、此ノ憲法ノ解釋トシテノ基本的人權ト云フモノハナイト、斯ウ思ツテ、私ハ質問申シ上ゲマシタ、處方、サウデナイ、各條ノ規定ハ基本的人權ノ「エギザンブル」デアツテ、其ノ外ニ色々ナモノガ考ヘラレルト云フコトデアリ、此ノ點ハ佐々木委員カラモ重

○國務大臣(木村篤太郎君) 今ノ御議論ハ誠ニ御尤モデアリマス、私ト致シマシテハ、左様ガ廣イ範圍デ此ノ規定ガ適用ニナルベキモノデハナイト云フ解釋ヲ執ツテ居ルノデアリマス、今ノ御示シナルリマシタ風俗問題ノヤウナ事件ニハ、是ガ廣ク基本的人權ニ關係スルモノダトシテ、孰レノ場合ニ於テモ公開シナケレバナラナイト云フヤウナ意味合ノモノデハナカラウカト考ヘテ居リマス

○牧野英一君 サウ云フ御趣旨デアツテ、内容的ニハ私ト意見ガ御同様デアラレルト云フコトニナリマスルト、ドウモ此ノ憲法第三章デ保障スル國民ノ權利ト云フ言葉ガ非常ニ懸念ニナリマスルノデ、是モ一ツ、御考慮ヲ仰ギタイト考ヘル次第デアリマスル、第八點トシテ、モウ一ツ小サナコトヲ伺ヒ

マス、裁判所ノ構成及ビ裁判官ノ身分ノコトデゴザイマスガ、是ガ修正案七十九條、政府原案七十五條ニハ、「最高裁判所ハ、法律ノ定める員數ノその他の裁判官でこれを構成シ、」是デアリマシテ、其ノ末項へ行ツテ「最高裁判所ノ裁判官ハ、法律ノ定める年齢に達シた時に退官する、」其ノ前、「彈劾」ト「心身ノ故障」ノコトガ書イテアリマスガ、下級裁判所ノ方ニ付テハ、此ノ法律ノ定メル所ニ依ツテ構成スルトカ、或ハ身分ガドウ云フ風ニ保障サレテ居ルカト云フコトニ付テ、マダ私ハ十分研究ヲ致シマセヌガ、少シ足リナイモノガアリハシナイカト思フツノデゴザイマス、修正案八十條ノ第一項ノ終リニ、「但し、法律ノ定める年齢に達した時には退官する、」是デアリマスガ、是ハ矢張り今日ノ裁判所構成法ノヤウニ、構成法決ルベキモノデアリ、此ノ構成法決ルコトガ、憲法ニ依ツテ明カニサレテ居ルト云フコトノ必要ハナイモノデゴザイマセウカ、如何デゴザイマセウカ、最高裁判所ニ付テハ或程度迄、斯ウ云フ風ニ「法律ノ定める」ト云フコトガ書イテアリマスガ、是ハ總テノ裁判所ニ共通ノ規定デアリ得ルコトニ思ヒマスガ、實際ハサウナリマセウ、實際ハサウナリマセウガ、下級裁判所ニ聊カ缺ケテ居ル所ガ疑ニナツタ次第デアリマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 是ハ下級裁判所ニ付テハ、矢張り法律ノ定メル結局裁判所構成法ヲ定メタ員數ノ裁判官ヲ構成スルト云フコトニナルト思ヒマス、裁判所構成法ハ、要スルニ私ノ申ス迄モナク法律デアリマス、結局ノ所ハ法律ヲ定メルトナリマス、事案トシテハ此ノ規定ト同ジヤウナコトニナツテ來ルダラウト思ヒマス、唯、此處デ最高裁判所ニ付テハ、法律ノ定メタル裁判官ヲ構成スルト云フコトヲ明カニシタニ過ギナイノデアリマス

○牧野英一君 是ハ實際上ニ於テハ、サウ争フ程ノコトデナイカモ知レマセヌガ、事ハ此ノ點ヲ離レテ、モツト大キイ根本的ナ問題ニ關聯ガアルト云フコトヲ申上ゲタイ、ト申シマスルノハ、昨日ノ此ノ席上ニ於テ政令ノ性質及ビ界限ニ付テ、金森國務相ト私トノ間ニ意見ノ相違ガアツタノデアリマス、ソレハ政令ト云フモノハ、單ニ執行命令ニ限リマスカ、斯様ニ伺ヒマシタ處ガ、委任命令ハ認メル、併シ委任命令ノコトハ、憲法ニ明白ニ掲ゲテ、自ラ決ルデアラウト云フヤウナ御趣旨、今日ノ憲法ノ運用上、委任命令ト云フモノハ、規定ヲ離レテ自ラ議會ノ慣習法トシテ發達シタモノト云フコトガ出來マセウガ、併シ學說上、大イニ争ヒノアルモノデアリコトハ申ス迄モゴザイマセヌ、而モ憲法改正案ノ趣意ニ於テハ、委任命令ト云フモノガサウ今日ノ國家總動員法ノヤウニ廣ク認メラレルノデハナイノデ、其處ニ一定ノ限度ガアルニ違ヒナイ、其ノ限度ハドウナルカト云フコトニ付テ私ガ十分、聽キ渡ラシタノカモ知レマセヌガ、金森國務相ノ御心持ハ限度ガアルト云フコトノ御言葉ガアツタヤウニ思ヒマスガ、其ノ限度ヲドウ云フ風ニ理解シテ行クカト云フコトニ付テハ、私マダ十分理解ガ出來ナイ儀デアツタノデアリマス、ソコデ第三ニ、獨立政令ト云フモノガ出セルカト云フコトニ付テ議論ガアリマシテ、初メ金森國務相ノ御言葉ヲ私ガ理解シタ所デハ、命令獨立ガ出セルト云フ風デアツタトモ私ハ理解シタノデスガ、ソレガ其ノ積リデ、後デ質疑ノ續ケマシタ處ガ、金森國務相ハ、サウ云フコトハ申シタ積リハナイ、獨立命令ハ出セヌノデアルト云フコトデアツタカト思ヒマス、ソコデ私ガ、行政權ニ付テ絕對的ノ責任ヲ持ツテ居ル内閣ガ、全ク獨立命令ヲ、行政命令ヲ出スコトガ出來ナイデ、果シテ行政上ノ責任ヲ負ヘルモノデゴザイマセウカ、之ニ付テハ法律ノ規定ガナイカラ任方ガナイト云フテ、手ヲ控ヘテ居ルコトガ出來ルモノデゴザイマセウカ、斯ウ云フ風ニ伺ウタノデアリマス、其ノ點ハ、私ガ若シ誤解致シテ居リマセヌケレ

バ、今日マダ未決ノ問題デ、從ツテ私ハ最後ニ於テ命令權ノ種類及ビ範圍ニ關スル問題ハ、此ノ憲法改正案トシテハ重大ナル問題トシテ取殘サレテ居ルモノト考ヘマス、斯ウ云フテ、マア散會ニナツタ次第デゴザイマスルガ、私ノ考デハ、憲法ノ第三章ニ「法律ノ定めるところにより」ト書イテアル場合ト、書イテナイ場合ト違フノデアリマス、法律ノ定めるところにより」ト云フコトガ斷ツテアリマスルト云フト、必ズソレニ對シテ行政ト云フモノハ、法律ヲ經過セネバ行政ガ運バヌノデアリマスルガ、サウデナイ場合ニハ、憲法上「公共ノ福祉」ト云フダケガ條件ニナツテ居リマスノデ、後ハ行政權ガ獨立ニ命令ヲ定メルコトガ出來ルシ、又處分モスルコトガ出來ルト、斯ウ思ヒマスルノデ、憲法第三章ノ場合ニ、「法律ノ定めるところにより」ト有ルト無イトデハ、大キナ違ヒガ生ズルモノデアルト考ヘテ居リマス、ト云フコトヲ申述バマシタ、此ノ點ニ付テハ、第三章ノ所デハ結局水掛ケ論ノヤウナコトニナリマシタガ、政令ノ範圍ヲ論ズル所デ、初メテ問題ノ要點ヲ、少クトモ私共ガ持つテ居ル疑トスル所ヲ、御理解下スツタラウト思ヒマスルガ、是ガ此ノ裁判所ノ構成ニ影響ヲ及ビマスルノデ、結局最高裁判所ハ、常ニ法律ノ規定ヲ經ルコトヲ要スル、

ケレドモ、下級裁判所ニ付テハ、ソレガ斷ツテ居リマセヌト云フト、政令ナリ、其ノ他ノ命令ヲ以テデモ定メルコトガ出來ルト云フコトニナリハシナイカ、恐ラク裁判所ノ構成ヲ、政府ガ法律ニ非ズシテ御定メニナルト云フヤウナコトハアリマス、マケレドモ、憲法ニ於テ現行憲法上、既ニ裁判所ハ「法律ニ依ツテ總テノ構成ヲ決メラレルヤウニナツテ居ルノデアリマスルカラ、ソレヲ破ツテ迄、此處ニ最高裁判所ト、普通裁判所、下級裁判所モ、區別シテ御規定ニナルコトモアリマス、矢張り此ノ司法權ノ獨立ト云フコトヲ尊重致シマスル上ニ於テハ、裁判所ノ構成其ノ他裁判官ノ身分等ハ、法律ノ根據ガナケラネバナラヌト云フコトヲ、モツト此ノ率直ニ明白ニシテ裁クコトガ望マシイコトデハナイカト思ヒマス、私ハ司法權ノ獨立ガ、法律ニ依ツテ拘束サレルト云フコトハ、先程司法大臣ノ御言葉デゴザイマシタケレドモ、實體的ニハ、成程研究ヲシテ見クイト思ヒマスル、裁判所ノ構成及ビ裁判官ノ身分ニ付テハ、是ハ何トシテモ、政令ニ讓ルコトハ出來ナイコトヲ明カニシテ置イテ裁キタイト思フノデアリマス、金森國務相ノ「昨日ノ御話デハ、孰レニシテモ法律ヲ作ラネバ行政權ガ動カナイト云フヤウナ御趣旨デアツタカト思ヒマスルケレドモ、私ノ

理解スル所デハ、法律ニ規定ガナ
イ範圍内ニ於テハ、現行憲法ト同
ジヤウニ、「公共の福祉」ノ爲、
「命令ヲ發シ又ハ發セシムル」ト
云フコトガ言ヒ得ラレル譯デアリ
マスルノデ、從ツテ此ノ司法權ニ
付テハ、一々法律ノ定メニ依ルト
云フコトヲ斷ツテ戴キタイ、斯ウ
云フ風ニ思ヒマスルノデ、ソコデ
少シ氣ニナリマシタカラ、御伺ヒ
スル六第デゴザイマスルガ、其處
ノ私ノ考ヘテ居ル心持ハ、ドウモ
今ノ司法大臣ノ御答ヘデハ同ジコ
トニ歸着スルデアラウト思ヒマス
ルケレドモ、規定ノ上ニ缺ケテ居
ルト云フコトハ、何カ此ノモウ少
シハツキリシタ方宜イト云フコ
トニナルモノデハゴザイマスマイ
カ、マアソレダケ少シ念ヲ押サヤ
ウナ形ニナツテ恐レ入りマスケレ
ドモ、尙重ネテ、應御心持ヲ同ツ
テ置キタイ

○國務大臣(木村篤太郎君) 恐ラ
ク金森國務相モ、裁判官ノ身分、
員數ノコトニ付テハ、法律ニ規定
スベキモノデアルト云フ意見デア
ラウト、私モ考ヘテ居リマス、七
十七條ノ「最高裁判所ハ、下級裁
判所に關する規則を定める權限を
下級裁判所に委任することができ
る」ト云フヤウナ規定ヲ設ケテ居
ルノデアリマス、從ヒマシテ、實
際問題トシテ左様ナ御疑念ノ點
ハ、マダ起ラナイト私ハ考ヘル次
第デアリマス

○牧野英一君 是デ私、質問ヲ終
リマシタ
○霜山精一君 司法ニ關係ノアル
問題ヲ數點御伺ヒシタイノデアリ
マス、今回ノ憲法案ニ於キマス
ル司法ノ規定ハ、現行憲法ニ比ベ
マシテ非常ニ進ンデ居ルモノデア
リマシテ、私ハ結論ニ於キマシテ
ハ、此ノ新ラシイ憲法ニ於ケル司
法制度ニ關スル規定ニ付キマシテ
ハ、全幅ノ賛意ヲ表シテ居ルノデ
アリマス、殊ニ最モ私ノ喜ビマス
ルコトハ、第六條ノ第二項ニ「最
高裁判所ノ長たる裁判官」ノ任命
ハ、天皇ガ御任命ニナルト、詰リ
内閣總理大臣ト相立ビマシテ、天
皇ノ直接ノ御任命ニナルコトニ、
衆議院デ修正致サレマシタ、此ノ
規定ノ如キハ、此ノ修正ノ點ニ付
キマシテハ、非常ニ喜ンデ居ル點
デアリマシテ、三權分立ノ精神ガ
非常ニ明カニナツタコトヲ喜ブ次
第デアリマス、ノミナラズ、最高
裁判所ガ憲法裁判所ニナル、詰リ
法律ガ憲法ニ違反シテ居ルカドウ
カト云フコトヲ、審査決定スル機
關ニナツタト云フヤウナコトハ、
非常ニ著シイ特色デアリマシテ、
裁判所ノ地位ヲ向上致シマスルコ
トガ、現行憲法ニ比ベマシテ、數
段ト高マツテ居ルノデアリマシ
テ、非常ニ喜ンデ居ル次第デアリ
マス、先ツサウ云フ關係デアリマ
スルカラシテ、此ノ度ハ最高裁判
所ト云フモノガ非常ナ力ヲ持ツコ

トニナツテ參ルノデアリマシテ、
其ノ點ニ於キマシテ、現行制度ト
著シキ差ヲ示シテ來ルコトニナル
ノデアリマス、ソコデ今日ニ於キ
マシテハ、裁判所ト云フモノハ、
裁判所構成法ニ依リマシテ、裁判
官ハ全部司法大臣ノ監督權ノ下ニ
アルノデアリマス、處ガ、此ノ憲
法案ニ依リマスルト、最高裁判
所ガ下級裁判所ニ對シテ色々規則
ヲ定メルトカト云フ風ナ點、其ノ
他ノ點カラ考察シテ見マシテ、司
法大臣ノ裁判所ニ對スル監督權ト
云フモノハ止メラレテ、サウシテ
最高裁判所ノ長官ト云フモノガ裁
判官ニ對スル監督權ヲ持ツテ來ル
コトニナラウト考ヘマス、ソレガ
一ツノ點、モウ一ツノ點ハ、現在
ノ裁判所構成法ニ依リマスルト、
大審院長ノ監督權ハ大審院ダケヲ
監督シテ居リマシテ、下級裁判所
ニ對シテハ監督權ヲ持タナイノデ
アリマス、處ガ、此ノ憲法案ニ
依リマスルト、下級裁判所ニ對ス
ル規則ヲ作ルトカ、色々ナ事項ヲ
決メテ居リマスルカラ、此ノ憲法
草案ノ下ニ於キマシテハ、矢張り
最高裁判所ノ長官ノ監督權ト云フ
モノハ、最高裁判所ニ止ラズ、下
級裁判所ニモ及ブモノデアアル、詰
リ最高裁判所ノ長官ハ、下級裁判
所全部ヲ監督スルモノデアアル、斯
ウ云フ風ニ變ラザルヲ得ナイト思
ヒマス、詰リ司法大臣ハ監督權ヲ
失ヒ、丁度今ノ司法大臣ト同ジ監

督權、同ジヤウナ監督權ヲ下級裁
判所ニ對シテ持ツ、斯ウ云フコト
ニナラザルヲ得ナイト思フノデア
リマスルガ、其ノ點ハ如何デゴザ
イマセウカ
○國務大臣(木村篤太郎君) 最高
裁判所ノ長官ハ申ス迄モナク今ノ
大審院長ノ地位トハ相當隔リガ實
際問題ヲ出テ來ルコトダラウト考
ヘテ居リマス、從ヒマシテ下級裁
判所ノ判事ニ對スル監督權ハ、恐
ラク最高裁判所ノ長官ガ之ヲ行使
シ得ルト云フコトニ將來ナルコト
ダラウト思ヒマス
○霜山精一君 其ノ意味ニ於キマ
シテハ、司法大臣ノ裁判所ニ對ス
ル監督權ハ廢止サレルモノト考ヘ
テ宜シイデセウカ
○國務大臣(木村篤太郎君) 其ノ
監督權ノ性質ニモ私ハ因ルコトダ
ラウト思フノデアリマス、最高裁
判所ノ長官ハ國會ニ對シテハ何等
ノ責任ヲ持ツテ居ナイノデアリ
マス、國會ニ對スル責任ハ、司法大
臣ガ之ヲ持ツノデアリマス、從ヒ
マシテ、全面的ニ裁判所ノ裁判官
ノ監督ガ、最高裁判所ノ長官ニ行
クトハ限ラナイト私ハ考ヘテ居リ
マス、其ノ限界ハ今ハツキリ申上
ゲルコトハ出來マセヌ、少クトモ
司法大臣ハ、總テ司法部ノ事務ニ
對スル責任ヲ國家ニ持ツテ居リマ
ス、其ノ限界ハ何處ニ置ツカ別問
題デアリマスルガ、全面的ニ監督
權ガ、最高裁判所ノ長官ニ移ルベ

キモノトハ、只今考ヘテ居リマ
セヌ
○霜山精一君 其ノ境ノ所ツ實ハ
伺ヒタカツタノデアリマス、最高
裁判所ノ長官ガ下級裁判所ヲ監督
シテ居ル、其ノ上ニ又司法大臣ガ
監督權ヲ行フ、斯ウ云フコトニナ
リマス、下級裁判所ノ方ハ、最
高裁判所ト司法大臣ト兩方カラ監
督權ヲ行ハレマシテ、最高裁判所
ノ長官ノ監督權ト司法大臣ノ監督
權ト云フモノガ、ドチシガ強イノ
カ、斯ウ云フコトガハツキリ分ラ
ナイノデス、最高裁判所ノ長官ト
司法大臣ノ監督權トノ間ノ強弱、
優劣デスネ、サウ云フコトヲ決メ
テ置カナイト困ルト思フ、其ノ點
ガマダ決ラヌト仰シヤレバ、ソレ
迄デスケレドモ、ドウ云フ風ニナ
ル御方針カト云フコトガ分ツテ居
リマスレバ、伺ヒタイ
○國務大臣(木村篤太郎君) 只今
法制審議會デ十分考慮中デアリ
マス
○霜山精一君 私ハ色々細カイ問
題ガアルノデアリマスガ、例ハバ
裁判所ノ設立、廢止、管轄ノ變更
等ニ關スル事務ハ、今司法大臣ノ
監督ニナツテ居ル、是ガ最高裁判
所ノ方ニ移ルカドウカト云フ問
題、ソレカラ色々ナ登記事務、ソ
レカラ戸籍、供託、調停、サウ云
フ風ナ色々ナ仕事ガ裁判所ニハア
リマスルガ、斯ウ云フコトニ關ス
ル最上ノ監督權ガ司法大臣ニアル

釋デス、斯ウ云フモノガ司法大臣
 カラ最高裁判所ノ長官ノ方ニ全部
 移ツテシマフカドウカト云フコト
 ガ、一ツノ問題デハナイカト思
 フ、ソレハ事務的ノ方面ノ事柄デ
 ス、今度ハ人事ニ關スル權限デス
 ネ、人事行政、下級裁判所ノ判事
 ニ對スル人事行政ハ、今日司法大
 臣ノ監督ノ下ニアル譯デス、此ノ
 人事ニ關スル事務ガ、司法大臣カ
 ラ最高裁判所ノ長官ノ方ニ全部移
 ツテシマフカドウカ、此ノコト
 モ、一ツノ問題デハナイカト考ヘ
 テ居リマス、其ノ外、司法官試補
 ノ採用、或ハ其ノ訓練等ニ關スル
 事務ハ、今日司法省ノ監督權ノ下
 ニヤツテ居リマスガ、是ガ最高
 裁判所ノ方ニ移ルカドウカ、ソレ
 カラ執達吏、公證人ト云フモノガ
 アリマスガ、斯ウ云フモノニ對ス
 ル最高ノ監督權ヲ司法大臣ガ持ツ
 テ居ル、執達吏、公證人等ヲ監督
 スル權限ヲ司法大臣ガ失ツテ、最
 高裁判所ノ長官ノ方ニ移ルカドウ
 カ、斯ウ云フ點、色々疑問ガアル
 ノデアリマス、モウ一ツ人事ニ關
 スル問題デハ、今日辯護士ノ監督
 ト云フモノハ、司法省デヤツテ居
 ル、司法大臣ノ監督ニナツテ居
 ル、司法大臣ハ辯護士會ヲ監督ス
 ル、色々登錄ニ關スル事務ナンカ
 モ、全部司法省デヤツテ居ルノデ
 アリマス、辯護士ハマア、裁判所
 内部ノ人デハアリマセヌカラ斯ウ
 云フモノニ對スル監督權ヲ最高裁

判所ニ移スカドウカ、辯護士ニ關
 スル規則ナンカハ最高裁判所デ決
 メルヤウニナツテ居リマスガ、
 斯ウ云フ風ナ點カラ或ハ辯護士ニ
 關スルコトハ、最高裁判所ノ方ニ
 移ルノデハナイカト、マア想像ヲ
 シテ居リマスルケレドモ、ドウナ
 ルノカ伺ヒタイノデアリマス、ソ
 レカラモウ一ツノ問題ハ、裁判所
 ノ豫算ノ問題デ、會計ノ問題デア
 リマス、裁判所ノ豫算ニ關スル事
 務ハ、裁判所ノ方ニ移ツテシマフ
 ノカ、或ハ司法大臣ノ方ニ殘ルカ
 ト云フコトモ、一ツノ問題デハナ
 イカト思ヒマスガ、斯ウ云フ風
 ニ中ニ入りマスルト、細カイ問題
 ガアルノデアリマスガ、是等ノコ
 トニ付テ、何カ今御分リニナツテ
 居ルコトガアレバ御話ヲ願ヒタイ
 ○國務大臣(木村篤太郎君) 御答
 ヘ致シマス、ソレ等ノ諸點ニ付キ
 マシテハ、只今慎重ニ委員會ヲ審
 議中デアリマス、私ニ致シマシテ
 モ、多少ノ案ハ持ツテ居ル積リデ
 アリマス、此處ニ公表スルコトハ
 避ケマスルガ、唯一部ニ付テハ申
 上ゲテ置キタイ、裁判所ノ設置、
 廢止等ハ、私ハ法律ヲ決メテ行
 クベキモノデアリ、是ハ司法大臣
 ガ權限ヲ持ツベキモノダラウト考
 ヘテ居リマス、豫算ノ問題デアリ
 マスガ、御承知ノ通り豫算ニ付
 テハ國會ニ國務大臣トシテ司法大
 臣ハ責任ヲ負ハナクテヤナラヌ、
 左様ナ豫算ノ問題ニ付テ、最高裁

判所ノ長官ガ國會ニ責任ヲ負フト
 云フヤウナ建前ハドウシテモ執レ
 スモノト考ヘテ居リマス、少クト
 モ裁判所ニ關スル豫算ノ方面ニ付
 テノ仕事ハ、從來通り司法大臣ガ
 之ヲヤツテ行クベキモノデアリ、
 但シ裁判所ニ要スル費用ハ、必ズ
 一括シテ最高裁判所ノ長官ニ之ヲ
 移シテ、其ノ任意ニ任セルコトニ
 建前ハナルト考ヘテ居リマス、ソ
 レカラ戶籍、登記、或ハ調停等ノ
 事務ニ付キマシテハ、私ハ只今ノ
 考デハ、或程度裁判所ニ之ヲ移シ
 テ差支ナイコトカト考ヘテ居リマ
 ス、詳細ナ點ニ付テハ、只今慎重
 ニ審議中デアルト云フコトヲ御了
 承願ヒマス
 ○霧山精一君 人事ノ問題ガ一番
 大事ナノデハナイデセウカ、此ノ
 點ハドウデセウカ
 ○國務大臣(木村篤太郎君) 人事
 問題ニ付キマシテモ、是ハ建前ト
 シテハ、矢張り責任上司法大臣ガ
 持ツテ行クベキモノダラウト考ヘ
 テ居リマス、併シ實際ノ運用上ニ
 於キマシテハ、ソレハ決シテ勝手
 ニヤル譯デヤナイノデアリマス、
 唯運用上ノ問題トシテハ最高裁判
 所ノ長官ト十分打合せシテ行ク
 ベキモノダラウト思ハレマスガ、
 建前ト致シマシテハ、矢張り司法
 省ガ持ツベキモノダラウト私ハ考
 ヘテ居リマス、此ノ點ニ付テモ、
 只今十分考慮中デアルトヲ御了
 承願ヒマス

○霧山精一君 人事ニ關スルコト
 ハ、此ノ憲法ニ於キマシテ、八十條
 最高裁判所ノ指名した者ノ名簿に
 よつて、内閣でこれを任命する
 ト云フ風ニナツテ居リマスカラ、
 ドウモ下級裁判所ノ裁判官ニ對
 スル人事ト云フモノハ、結局ドウ
 モ最高裁判所ノ指名シタ名簿ニ依
 ツテ任命サレルト云フコトニナリ
 マスカラ、最高裁判所ニ移ルコト
 ガ寧ろ適當デハナイカト云フ風ニ
 私トシテハ今考ヘテ居ルノデアリ
 マスガ、尙其ノ點ハ御研究ヲ願ヒ
 タイト思ヒマス、ソレカラ其ノ次
 ニ御伺ヒシタイコトハ、從來ノ裁
 判所構成法ニ依リマス、檢事局
 ト云フモノガ裁判所ニ附置サレテ
 居リマス、此ノ憲法ニ於キマシ
 テハ、七十七條ニ檢察官ノコトガ
 チョウト類ヲ出シテ居リマスルガ
 此ノ檢察官ト云フモノヲ、從來通
 リ裁判所ニ附置シタモノトシテ置
 クベキカ、或ハ此ノ檢察官ト云フ
 モノハ、裁判所ト分離シテ切離シ
 テシマフカト云フコトハ、マア我
 我司法省ノ者トシテハ、多年ノ懸
 案ナノデアリマシテ、切離シタ方
 ガ宜イト云フ議論ガ非常ニアツタ
 ノデアリマスルガ、新憲法ニ於キ
 マシテハ、其ノ點トドウ云フ風ニ
 司法大臣ハ御考ニナツテ居リマス
 ルカ、伺ツテ置キタイト思ヒマス
 ○國務大臣(木村篤太郎君) 御答
 ヘ致シマス、今霧山委員ノ仰セ

ニナリマシタヤウニ、從來、檢事
 局ハ裁判所ニ附置サレテ居ツタノ
 デアリマス、現在モ附置サレテ居
 ルノデアリマス、此ノ點ニ付キマ
 シテハ、非常ニ世間ノ誤ツタルト
 申シテ宜イカ、或ハ正シイト申シ
 テ宜イカ、ソレハ疑問デアリマス
 ルガ、世間ノ疑惑ヲ往々ニシテ招
 イタノデアリマス、裁判所ガ檢事
 局ノ方ニ、或力デ以テ押サレル、
 或ハ又一部ハ裁判所ト檢事局ト馴
 合ヒデアアルノデヤナイカト云フヤ
 ウナ、左様ナ疑惑ヲ懷カレマシテ
 裁判所ニ對スル國民ノ信賴ト云フ
 モノヲ傷ケルト云フ虞レガアツタ
 ノデアリマス、誠ニ遺憾ナコトデ
 アリマス、左様ナコトハ絕對ニナ
 イト、今デモ確信シテ居リマスガ
 世間デハ左様ナ疑惑ヲ懷イテ居ル
 ノデアリマス、少クトモ左様ナ疑
 惑ヲ一掃シテ、國民ノ裁判所ニ對
 スル信賴ヲ懷カセルコトニ付キマ
 シテハ、裁判所ト檢事局ヲドウシ
 テモ分離スル方ガ宜カラウト云フ
 考ヲ持ツテ居リマス、ソレデ、只
 今法制審議會ノ議ニ掛ケマシテ、
 檢察廳法ト云フモノヲ目下起案中
 デアルノデアリマス、恐ラク是ガ
 事實トナツテ明カニナリマスル
 ト、裁判所ト檢事局ノ廳舎ナンカ
 モ別ニナツテ、世間ノ疑惑ハ一掃
 サレルコトダト確信スル次第デア
 リマス
 ○霧山精一君 次ニ御尋ネ致シマ
 スルコトハ、裁判官ノ任用ニ關ス

ル問題アリマス、ドシナ制度ニ於キマシテモ、人ヲ得ルコト云フコトガ最も大切ナルコトデアリコトハ言フ迄モナイコトデアリマス、殊ニ此ノ裁判官ニ付キマシテハ、其ノ感ガ深イノデアリマシテ、良イ裁判官ヲ造上ゲルト云フコトガ最も良イ司法ヲ形ヅル上ニ於テ必要ナル要件デアリマス、從來ノ裁判官任用ノ方法ニ付キマシテハ、色議論ガアリマス、在野法曹ノ方面カラハ、法曹一元論ト云フヤウナコトガアリマシテ、裁判官ハ全部辯護士カラ探レト云フヤウナ要求モアルヤウデアリマス、若イ優秀ナル青年ガドンノ此ノ裁判官ノ方面ニ向ツテ來テ、又之ヲ任用シテ、立派ナル裁判官ヲ造上ゲルト云フコトハ、是非ハ非常ニ大切ナル問題デハナイカト思フノデアリマス、ソレ等ノコトニ關スル司法大臣ノ御答ヲ御伺ヒシタイト思ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 霜山サシノ今ノ御意見ハ、私ハ全面的ニ同意デアリマス、申ス迄モナク裁判官ハ一定ノ法律的ノ知識ヲ有スル人デナクテハイカヌノデアリマス、是ハ言フ俟タヌノデアリマスガ、ソレト共ニ、識見、人格、總テ國民ノ信頼スルニ足ルベキ人デナクテハナラズト云フコトヲ確信シテ居リマス、從ヒマシテ、新憲法案實施ノ際ニ於キマシテハ、ソレ等ノ點ニ鑑ミマシテ、裁判

官ノ懲戒ニ付キマシテハ、有ラユル方面カラ人材ヲ物色致シマシテ、國民ノ信頼ヲ得ルヤウニ力メタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○霜山精一君 次ニ御伺ヒシマスル點ハ、新憲法ニ於ケル公ノ彈劾ト云フコトト懲戒ト云フモノトノ關係デアリマス、今日ニ於キマシテハ、判事懲戒法ト云フ法律ガゴザイマシテ、裁判官ノ色々職務上ノ失態ニ付キマシテハ、懲戒法ニ依ツテ酷イノハ免官スルコトモ出來ルシ、輕イノハ譴責ト云フヤウナコトニ、其ノ間ニ、停職トカ轉所トカ或ハ減俸トカ云フヤウナ色色ナル彈劾ガ其ノ間ニアル譯デアリマス、ソレガ一本デアツタノデスガ、今度ハ公ノ彈劾ト云フ制度ガ故ニ執ラレマシテ、其ノ外ニ又懲戒處分ト云フモノガ認めラレルヤウデアリマス、此ノ公ノ彈劾ニ付セラレル者ト、懲戒處分ニ付セラハ懲戒デアリ、ドレダケノモノハ公ノ彈劾ニ依ルカト云フ、其ノ限界ガハツキリシテ居ラナイノデアリマス、公ノ彈劾ニ依ツテ罷免セラレルノデスカラ、罷免セラレルヤウナコトニ付テハ彈劾ニナリ、罷免セラレナイ行爲ニ付テハ懲戒處分ニナルト、斯ウ云フノデハナイカト思フノデスケレドモ、其ノ點ガ頗ル明確ヲ缺イテ居ルノデアリマス、其ノ點ト、現行ノ憲法ニ

依リマス、裁判官ノ懲戒ニ關スル規定ハ、法律ヲ以テ定ムルト云フコトニ七十九條ニ依ツテナツテ居リマス、新憲法ニ於キマシテハ、裁判官ノ懲戒ニ付テ法律ガ要ルト云フ規定ガナイノデアリマシテ、是ハ牧野委員ノ當ニ仰セニナル通り、當然法律ガ要ルノダケレドモ、書カナイカツト云フ風ニナルノカ、裁判官ノ懲戒ト云フノハ、裁判官ノ獨立ニ影響ヲアルコトデスカラ、チヤント決メナケレバナラヌ、斯ウ云フ風ニスルコトガ寧ロ必要デハナイカト思フノデスガ、彈劾ニ關スルコトハ、法律ニ決メラル、國民審查ニ關スル事項ハ法律ニ決メラルト、新憲法ニ書イテアリマスカラ、懲戒ノダケ法律ニ定ムルト云フコトガ書イテナイノデスガ、此ノ點ハ矢張り、書カレル方ガ宜イノデヤナイカト云フ疑ヲ持ツテ居リマス、此ノ點ハ、金森國務大臣ニ、後ノ部分ハ御願ヒシタイト思フノデスガ、先ヅ公ノ彈劾ト懲戒トノ差異ニ付テ御願ヒ致シマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答ヘ致シマス、此ノ公ノ彈劾ハ、唯罷免スル場合ノミト御了承願ヒマス、罷免以外ノ所謂懲戒、御説ノ停職トカ譴責トカ云フモノハ、判事懲戒法、之ヲ改正シナクテヤナラヌコトトナツテ居リマス、判事懲戒法之ヲ定ムル、斯ウ云フ建前ニナツテ居リマス

○國務大臣(金森徳次郎君) 裁判官ノ懲戒ハ法律ニ決メラルト云フ方針ヲ初メカラ懷イテ居リマス、併シ何故ニ規定ナクシテ裁判官ノ懲戒ガ出來ルカト云フ疑問ガアリ、是ガ先日來ノ牧野委員カラノ御疑惑トモ一貫シテ居ル問題ト思フノデアリマスガ、ドウモ私ノ申上ゲル所ガ、十分御理解ヲ願ツテ居ナイ方面ガアルヤウニ思ヒマスルガ今回ノ憲法ノ草案ニ於キマシテ、從來ノ如ク、人ノ働キ、人間個人ノ行動ニ付キマシテ、或程度以上ノ、請リ從來ノ法規ト謂ハレシ居リマシタ部分ノモノニ付キマシテハ、絕對ニ之ヲ抑制スルニ法律ヲ要スル、サウ云フ原理ヲ堅持ヲシテ居ルノデアリマス、在來ニ多少シテ居ル申上ゲナケレバナリマセヌガ、委任命令、各種ノ命令ト云フコトガ問題ニナツテ居リマシタ、現行ノ憲法ノ下ニ於キマシテハ、謂ハバ命令權ノ解釋ノ範圍ニ於キマシテモ、可ナリ今日廣クナツテ居リマシテ、本來言フト、憲法所定ノ限界ヲ守ツテ居ルカドウカト云フコトニスラモ、私個人トシテハ、從來疑義ヲ持ツテ居ツタノデアリマス、疑義ノ程度デアリマシテ、詰リ此ノ憲法ニ於テ、命令權ニ付キマシテ、今チヨツト語ンジテモ申上ゲ兼々マスルガ、緊急命令、執行命令ト云フモノガアリ、又獨立命令ト云フモノガアリ、此ノ三ツガハツキリ致シテ居リマス

ケレドモ、其ノ外ニハ特ニ命令ガ出セルトカ、必ズシモ書イテアリマセヌニモ拘ラズ、裏ノ方カラ、例ハバ貴族院命令ト云フ命令ガアル、此ノ貴族院令ハ前述ノ、今ノ命令ノ概念ニモ當リマセヌ、ソレカラ官制命令ガ出テ居リマスケレドモ、官制ガ今日ノ如キ命令ノ形デ出ルノガ好イカ悪イカト云フコトニ付キマシテハ、別ニ憲法ハ解決シテ居ナクテ、唯官制ガ作ルト云フコトダケヲ決メテ居ル譯デアリマス、ソレカラ恩赦ニ關スル諸般ノ命令アルトカ、其ノ外ニ各種各様ノ命令ガ、果シテ命令デ出來ルカドウカト云フコトハ、憲法ニハ直接ニ書イテ居リマセヌ、多ク事柄ノ實體ノ方カラ規定シテアリマシテ、天皇ガ之ヲ御決メニナルト云フコトガアリ、天皇ガ御決メニナルノダカラシテ命令ガ出セルノダ、訓令モ出セルノダ、恩赦ノ規則モ出セルノダ、爵位勳章ニ關スル命令モ出セルノダ、且委任命令ト云フモノガ解釋カラシテ生レ出テ居ルト、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、處ガ、此ノ憲法ノ下ニ於キマシテハ、其ノ邊ノ所ノ根本ノ原理、苟モ法規ヲ作ルノハ議會ノ爲スコトデアリマス云フコトニ付キマシテ、政令ト云フモノハ、一定ノ要件ノ下ニ憲法及ビ法律ヲ執行スル趣旨ノ爲ニ出來ル、斯ウ云フ規定ガアリマシテ、之ヲ綜合シテ考ヘレバ、苟モ

ケレドモ、其ノ外ニハ特ニ命令ガ出セルトカ、必ズシモ書イテアリマセヌニモ拘ラズ、裏ノ方カラ、例ハバ貴族院命令ト云フ命令ガアル、此ノ貴族院令ハ前述ノ、今ノ命令ノ概念ニモ當リマセヌ、ソレカラ官制命令ガ出テ居リマスケレドモ、官制ガ今日ノ如キ命令ノ形デ出ルノガ好イカ悪イカト云フコトニ付キマシテハ、別ニ憲法ハ解決シテ居ナクテ、唯官制ガ作ルト云フコトダケヲ決メテ居ル譯デアリマス、ソレカラ恩赦ニ關スル諸般ノ命令アルトカ、其ノ外ニ各種各様ノ命令ガ、果シテ命令デ出來ルカドウカト云フコトハ、憲法ニハ直接ニ書イテ居リマセヌ、多ク事柄ノ實體ノ方カラ規定シテアリマシテ、天皇ガ之ヲ御決メニナルト云フコトガアリ、天皇ガ御決メニナルノダカラシテ命令ガ出セルノダ、訓令モ出セルノダ、恩赦ノ規則モ出セルノダ、爵位勳章ニ關スル命令モ出セルノダ、且委任命令ト云フモノガ解釋カラシテ生レ出テ居ルト、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、處ガ、此ノ憲法ノ下ニ於キマシテハ、其ノ邊ノ所ノ根本ノ原理、苟モ法規ヲ作ルノハ議會ノ爲スコトデアリマス云フコトニ付キマシテ、政令ト云フモノハ、一定ノ要件ノ下ニ憲法及ビ法律ヲ執行スル趣旨ノ爲ニ出來ル、斯ウ云フ規定ガアリマシテ、之ヲ綜合シテ考ヘレバ、苟モ

ケレドモ、其ノ外ニハ特ニ命令ガ出セルトカ、必ズシモ書イテアリマセヌニモ拘ラズ、裏ノ方カラ、例ハバ貴族院命令ト云フ命令ガアル、此ノ貴族院令ハ前述ノ、今ノ命令ノ概念ニモ當リマセヌ、ソレカラ官制命令ガ出テ居リマスケレドモ、官制ガ今日ノ如キ命令ノ形デ出ルノガ好イカ悪イカト云フコトニ付キマシテハ、別ニ憲法ハ解決シテ居ナクテ、唯官制ガ作ルト云フコトダケヲ決メテ居ル譯デアリマス、ソレカラ恩赦ニ關スル諸般ノ命令アルトカ、其ノ外ニ各種各様ノ命令ガ、果シテ命令デ出來ルカドウカト云フコトハ、憲法ニハ直接ニ書イテ居リマセヌ、多ク事柄ノ實體ノ方カラ規定シテアリマシテ、天皇ガ之ヲ御決メニナルト云フコトガアリ、天皇ガ御決メニナルノダカラシテ命令ガ出セルノダ、訓令モ出セルノダ、恩赦ノ規則モ出セルノダ、爵位勳章ニ關スル命令モ出セルノダ、且委任命令ト云フモノガ解釋カラシテ生レ出テ居ルト、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、處ガ、此ノ憲法ノ下ニ於キマシテハ、其ノ邊ノ所ノ根本ノ原理、苟モ法規ヲ作ルノハ議會ノ爲スコトデアリマス云フコトニ付キマシテ、政令ト云フモノハ、一定ノ要件ノ下ニ憲法及ビ法律ヲ執行スル趣旨ノ爲ニ出來ル、斯ウ云フ規定ガアリマシテ、之ヲ綜合シテ考ヘレバ、苟モ

ケレドモ、其ノ外ニハ特ニ命令ガ出セルトカ、必ズシモ書イテアリマセヌニモ拘ラズ、裏ノ方カラ、例ハバ貴族院命令ト云フ命令ガアル、此ノ貴族院令ハ前述ノ、今ノ命令ノ概念ニモ當リマセヌ、ソレカラ官制命令ガ出テ居リマスケレドモ、官制ガ今日ノ如キ命令ノ形デ出ルノガ好イカ悪イカト云フコトニ付キマシテハ、別ニ憲法ハ解決シテ居ナクテ、唯官制ガ作ルト云フコトダケヲ決メテ居ル譯デアリマス、ソレカラ恩赦ニ關スル諸般ノ命令アルトカ、其ノ外ニ各種各様ノ命令ガ、果シテ命令デ出來ルカドウカト云フコトハ、憲法ニハ直接ニ書イテ居リマセヌ、多ク事柄ノ實體ノ方カラ規定シテアリマシテ、天皇ガ之ヲ御決メニナルト云フコトガアリ、天皇ガ御決メニナルノダカラシテ命令ガ出セルノダ、訓令モ出セルノダ、恩赦ノ規則モ出セルノダ、爵位勳章ニ關スル命令モ出セルノダ、且委任命令ト云フモノガ解釋カラシテ生レ出テ居ルト、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、處ガ、此ノ憲法ノ下ニ於キマシテハ、其ノ邊ノ所ノ根本ノ原理、苟モ法規ヲ作ルノハ議會ノ爲スコトデアリマス云フコトニ付キマシテ、政令ト云フモノハ、一定ノ要件ノ下ニ憲法及ビ法律ヲ執行スル趣旨ノ爲ニ出來ル、斯ウ云フ規定ガアリマシテ、之ヲ綜合シテ考ヘレバ、苟モ

ケレドモ、其ノ外ニハ特ニ命令ガ出セルトカ、必ズシモ書イテアリマセヌニモ拘ラズ、裏ノ方カラ、例ハバ貴族院命令ト云フ命令ガアル、此ノ貴族院令ハ前述ノ、今ノ命令ノ概念ニモ當リマセヌ、ソレカラ官制命令ガ出テ居リマスケレドモ、官制ガ今日ノ如キ命令ノ形デ出ルノガ好イカ悪イカト云フコトニ付キマシテハ、別ニ憲法ハ解決シテ居ナクテ、唯官制ガ作ルト云フコトダケヲ決メテ居ル譯デアリマス、ソレカラ恩赦ニ關スル諸般ノ命令アルトカ、其ノ外ニ各種各様ノ命令ガ、果シテ命令デ出來ルカドウカト云フコトハ、憲法ニハ直接ニ書イテ居リマセヌ、多ク事柄ノ實體ノ方カラ規定シテアリマシテ、天皇ガ之ヲ御決メニナルト云フコトガアリ、天皇ガ御決メニナルノダカラシテ命令ガ出セルノダ、訓令モ出セルノダ、恩赦ノ規則モ出セルノダ、爵位勳章ニ關スル命令モ出セルノダ、且委任命令ト云フモノガ解釋カラシテ生レ出テ居ルト、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、處ガ、此ノ憲法ノ下ニ於キマシテハ、其ノ邊ノ所ノ根本ノ原理、苟モ法規ヲ作ルノハ議會ノ爲スコトデアリマス云フコトニ付キマシテ、政令ト云フモノハ、一定ノ要件ノ下ニ憲法及ビ法律ヲ執行スル趣旨ノ爲ニ出來ル、斯ウ云フ規定ガアリマシテ、之ヲ綜合シテ考ヘレバ、苟モ

法規ヲ決メル意味ノモノデアラナラバ、是ハ國會ノ協賛ヲ經タル法律デナケレバナラヌト云フコトガ根本ノ原則ニナリ、又或意味ニ於テ法規ト接近シテ居ルモノデモ、今ノ政令ノ如キモノハ、特殊ナル前提ノ下ニ詰リ法律執行、憲法執行ト云フ梓ノ下ニ是ガ出セルノダト云フ解釋ヲ執ツテ居リマス、又國會ノ兩院ノ、自分ノ自治的規則ハ、特ニソレガ、人ノ行動ヤ、或ハ國家組織ノ實體ニ觸レテ居ツテモ、是ガ特別ナル事件ニ基イテ命令ガ出セル、裁判所ノ「ルール」ヲ作ルコトモ出來ル、斯ウ云フ風ニ裏カラ見テ居ル、斯ウ云フ建前デアル譯デアリマス、從ツテ此ノ憲法ガ、積極的ニ何カ豫想シテ居ル所ガアリマセヌケレバ、總テ國民ノ自由、權利、或ハ國家ノ外部ニ對シテ働キマスル其ノ權能ノ分擔ト云フコトニ付キマシテハ、必ズ法律ヲ以テシナケレバナラヌ、斯ウ云フ原則ヲ堅持シテ居ル譯デアリマス、デアリマスカラ、隨所ニソレダケノ判斷デ分リマス所ハ法律ニ依リト云フ言葉ヲ用ヒナイデ居ル譯デアリマス、其ノ現レガ、先日來法律ニ依リト云フ言葉ヲ加ヘタラ宜カラウト云フ御議論ニナツテ現レテ居リマスガ、ソレガ在來ノ憲法ト、此ノ改正ノ憲法トガ根本ノ原理ヲ異ニシテ居ルト云フ結果デアリマシテ、成ル程、中ニハ解釋ノ餘地ガアル所モ

アリ得マスケレドモ、根本ハ左様デアアル、斯ウ云フヤウニ御理解ヲ願ヒタイト思ツテ居リマス、ソコデ官吏ノ懲戒デアリマスガ、此ノ建前ハ内閣ノ制度ノ所ニアリマシヤウニ、官吏ニ付テハ根本的ニ官吏法ト云フヤウナモノヲ法律デ準則ヲ決メルト云フコトヲ豫想シテ居リマス、其ノ結果トシテ、官吏ニ關シマスル諸般ノ問題ハ、其ノ規定ガカブツテ來ルト、斯ウ云フ前提ニナツテ居リマス、此ノ懲戒等ニ依ツテ、若シ官吏ノ單純ナル服務規程ヲ抑制スルト云フ限度ヲ超エテ、苟モ其ノ人ノ獨自ノ存在ニ對シテ累ヲ及スヤウナ場合ニ於キマシテハ、絶對ニ法律ヲ以テシナケレバナラヌト云フコトニナラズデアリマス、ソレ等ヲ勘案シテ、此所ノ懲戒ト云フモノハ法律ニ依ルベキモノト思フノデアリマス、寧ロ懲戒ト云フコトノ中ニ入ラナイデ、上司ガ下僚ニ對シテ若干忠告ヲスルト云フヤウナ微温的ナモノハ、是ハ法律ヲ要スル譯デアリマセヌガ、例ヘバ俸給ヲ減ストカ、ソレハ裁判官ニハアリマセヌケレドモ、ソレガ實體ニ觸レバ當然サウナル、斯ウ云フ前提デアリマス

○霜山精一君 只今ノ金森國務相ノ御説明デ大體了解致シマシタガ審査ニ關スル事項ハ法律デ之ヲ決メルト云フヤウニ、或ハ彈劾ニ關スル規定ハ法律デ之ヲ決メルト云フヤウニ、特別ニ法律デ決メナケレバナラヌ事項ヲ舉ガテ居ラレルノデスカラ、懲戒ノヤウナモノニ付テハ、矢張りサウ云フ風ニ殊ニ裁判官ノ懲戒ト云フコトハ、非常ニ獨立ニ關係ガアルコトデスカラ、法律デ之ヲ決メルト云フコトヲ特ニ書イテ戴イタ方ガ外ノ規定トノ關係デ非常ニ宜イヂヤナイカト云フ風ニ私ハ考ヘテ居リマス、次ノ問題ハ、最高裁判所ノ裁判官ニ對スル國民審査ノ問題デアリマス、是ハモウ既ニ他ノ方ニ依リマシテ、相當質疑ガサレテ居リマスカラ、繰返シテ、此ノ審査ノ制度ニ付テ、詳細イコトヲ申上ゲル必要ハナイト思ヒマスガ、唯一點ダケ、此ノ國民審査ト云フコトガ、餘リ合理的ナ結果ヲ生ジナイト云フコトヲ申上ゲ見タイト思フノデアリマス、最高裁判所ト云フモノハ終審裁判所デアリマシテ、詰リ法律審デアリマス、上告審ニナリ、從ツテ最高裁判所ノ裁判ト云フモノハ法律ノ適否、或ハ大ニシテハ憲法ニ違反スルカドウカ、小ニシテハ、色々ノ法律ノ解釋適用ト云フコトニナリマシテ、法律判斷ナンデス、デ、最高裁判所ノヤリマスル法律判斷ガ能ク國民ニ分ルカト申シマスルト、法律ノ判斷ト云フモノハ、非常ニ微妙ナモノデアリマシテ、是ガ本當ニ適當ニ解釋アルカドウカト云フコトハ、非常ニムツカシイノデ

ス、一般ノ民衆ニ親シマナイ事柄ナノデス、今日大審院ノ判例ニ對シマシテ、判例批評ト云フモノガ盛行ハレテ居リマスル、私共ハ多年判例批評ヲ研究シテ居リマシテ、詳細ク學者ノ判例批評ヲ讀ンデ居リマスガ、是等ノ判例批評ヲ見マシテモ、一ツノ裁判ニ對シテ、學者自身ニ既ニ良イトカ、惡イトカ云フ見解ガ分レテ居ルノガ非常ニ多イノデアリマス、斯クノ如ク立派ナ専門ノ學者ガ判例ヲ研究シテ、サウシテ判斷シテ見テモ、良イトカ惡イトカト云フコトニ、兩方ニ議論ガ分レル位ナ微妙ナモノナンデス、時トシテハ、其ノ判例ガ今ハ餘リ歡迎セラレナイケレドモ、後世ニ至ツテ、アレハ良イ判例デアツタト云フヤウニ、時代ガ過ギテカラ、判例ノ値打ノ出テ來ルモノモアル、時ニハ初メ良イ判例ダト思ツテ居ツタノガ、後世ニナツテ研究シテ見ルト、アレハ詰ラナイ判例ダト云フヤウナコトニナル場合モアリマス、判例ガ良イカ惡イカト云フ判斷ハ時ヲ要シ、或ハ學說ニ依ツテ色々變ツテ來ルモノデアリマシテ、微妙ナモノデアリマス、皆サン御存ジノ有名ナ判決デアリマスガ、一厘事件ト云フ事件ガアリマシタガ、斯ウ云フ事件デモ、裁判シタ時ハ餘リ歡迎サレナカッタ、攻撃サレタ、併シナガラ段々時ヲ經ルニ從ツテ、屢事件ト云フノハ名判決

デアルト云フ風ニ變ツテ來タモノデアリマス、サウ云フ風ニ、非常ニ微妙ナ法律判斷ニ對シテ國民一般ガ、七千萬ハナイカモ知レマセヌガ、選舉權者全部ガ適當ノ判斷ヲシテ、此ノ判決ハ惡イカラ裁判官ヲ罷免シロト云フヤウナ事トヲ判斷スルコトハ、寧ロ難キヲ責メル譯デアリマシテ、非常ニ形式的ニ流レマシテ、良イ裁判ヲシテモ、或ハ罷免サレルカモ知レナイ、惡イ裁判ヲシテモ、チツトモ罷免サレナイカモ知レナイト云フヤウナ結果ニ結局陥ルノデハナイカト云フコトガ、最モ不合理ナ點デハナイカト思フノデアリマス、其ノ點ニ對スル司法大臣ノ御考ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答ヘ致シマス、霜山委員ノ御說ハ一應御尤モニ伺ヒマス、但シ此ノ國民審査ト云フコトニ付キマシテハ、私ハ非常ニ一ツノ裁判官ノ刺戟ニナツテ良イ效果ヲ齎スノデハナイカト思ツテ居リマス、裁判官、是ハ將來人材ヲ集メテ、國民ノ信頼ヲ得ルヤウナ人ガナルデアリマセウ、併シナガラ、是モ神様デハナイノデアリマス、往々ニシテ職務ヲ遲滞スルヤウナ者ガナイトモ限リマセヌ、當ニ國民ノ前ニ曝サレテ居ル、審判ヲ受ケルノダト云フヤウニナリマスルト、一方ニ於テ、私ハ非常ニ刺戟ニナルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、又

國民モ新憲法實施ノ曉ニ於キマシ
テハ、此ノ司法官ニ對スル一ツノ
考ヘ方ト云フモノガ從來ト違フテ
變ツテ來ルルデハ、ナイカ、簡單ナ
言葉中シマスレバ非常ニ重キヲ
置ク、從ヒマシテ、國民ノ關心ガ
司法官ニ向ケラレマスルト、勢ヒ
高裁判所ノ裁判官ト云フ者ニ對
シテ、非常ノ關心ヲ持ツテ來ル、
是ハ此ノ新憲法ノ狙ヒ所デハナイ
カト私ハ考ヘテ居リマス、實際ノ
運用ニ付キマシテ果シテ此ノ效果
ヲ正シク擧ゲ得ルカ否ヤト云フコ
トハ今霜山委員ノ仰セノ如ク疑問
ガアリマセウガ、少クトモ左様ナ
點ニ於テ、私ハ此ノ規定ガアルコ
トニ依ツテ最高裁判所ノ裁判官ニ
良イ人ガ擧ゲラレルト云フコトヲ
考ヘテ居ル次第デアリマス、又此
ノ最高裁判所ノ裁判官ノ下シマシ
タ判決ノ當否、是ハ今霜山委員ノ
仰セラレマスルヤウニ、誠ニ御尤
モデアリマスルガ、是モ又從來ト
異ニ致シマシテ、判決ニハ、各裁
判官ノ意見ヲ記載致シマス、「イ
ギリス」流ノ判決ノヤウデアリマ
スガ、サウシテ絶エズ國民ノ前ニ
其ノ裁判官ガ如何ナル意見ヲ持ツ
テ居ルカト云フコトヲ明カニ致シ
マスルト、裁判官ニ對スル國民ノ
注意ト云フモノモ、一段ト高クナ
リマシテ、此ノ憲法實施以後、時
代ヲ終ルニ至リマシテ、相當ナ效
果ヲ擧ゲテ來ルノデハナカラウカ
ト、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリ

マス
○霜山精一君 國民審査ノ規定ノ
良イ點モ無論オアリノコトト思ヒ
マスガ、非常ニ良クナイ面モア
ルノデアリマス、此ノ規定ノ適用
ニ付テハ、非常ニ注意ヲ要スルコ
トト考ヘマス、其ノ次ニ伺ヒマス
ルコトハ、極ク小サナ問題デアリ
マスルガ、從來ハ裁判官ト云フモ
ノハ終身官デアルト云フコトニテ
ハ居リマシテ、各國ノ憲法ノ中
ニモ、裁判官ヲ終身官デアルト云
フ規定ノ置イテアルモノモアリマ
セウ、現行憲法ノ中ニハ、終身官デ
アルト云フ規定ハアリマセウガ、
裁判所構成法ノ中ニ裁判官ハ終身
官トスル、デスカラ、職務ヲ辭メ
マシテモ、判事タル身分ハ殘ツテ
居ル、終身退職判事デアルト云フ
身分ハ殘ツテ居ルコトニ從來ハナ
ツテ居リマシタ、新憲法ニ於キマ
シテハ、ドウモ其ノ點ハツキリ致
シマセウガ、憲法草案ニ依リマス
ルト、法律ニ定メテ年齢ニ達シタ
時ハ退官スルニアリマスルガ、過
去ノ終身官ト云フモノハモウ此ノ
新憲法ノ下ニ於テハ、御廢メニナ
ル趣旨デアアルカドウカ、其ノ點ヲ
伺ツテ置キタイト思ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 御説
ノ通りデアリマス、本案八十條但
書、「法律の定める年齢に達した
時には退官する。」裁判官ノ終身
官タルコトハ、將來廢止サレルコ
トト考ヘマス
○霜山精一君 終身官デアアルコト
ヲ廢止セラレル理由ヲ伺ヒタイノ
デスガ、特ニ永ク終身官トシテ其
ノ地位ヲ認メラレテ居リマシタ、
ソレガ急ニ、此ノ新憲法デ變ヘテ
ケレバナラヌト云フ理由ハ、下ノ
點ニアルカト云フコトト、ソレカ
ラ從來、既ニ退職シテ終身官タル
身分ニ依ツテ退職判事ト云フ身分
ヲ持ツテ居ワタ者ニ對シテハ、ド
ウ云フ風ニナルカ、其ノ點ハ、ツ
○國務大臣(木村篤太郎君) 退官
ノ理由ハ、申ス迄モナク職ヲ伴ハ
ナイ官ト云フモノハ、實ハ不合理
デアル、是ハ霜山委員モ十分御承
知ノ通りデアリマスルガ、從來ノ
ヤウニ官ガケアツテ、何等職ヲ持
ツテ居ナイト云フコトハ私ハ不合
理ダト考ヘテ居リマス、新憲法ノ
下ニ於テハ、サウ云フ制度ヲ廢止
スルト云フ考デアリマス、デ從來
ノ所謂退職サレタ終身官ノ身分ヲ
持ツテ居ワタ方ハドウナルカト云
フコトデアリマスガ、ソレハ事實
トシテ今考慮中デアリマス、直チ
ニ今、此處デ申上ゲルコトハ出來
兼ネル事情ニアリマス、左様御了
承テ願ヒマス

○霜山精一君 終身官ハ判事バカ
リデアリマセウ、檢事モ終身官
デアリマスシ、ソレカラ陸海軍ノ
軍人、皆終身官デアリマシテ、サ
ウ云フ從來、澤山ナ人ガ終身官タ
ル身分ヲ持ツテ居リマスカラ、是
ハ非常ニ國民トシテハ關心ノアル
コトデハナイカト思フノデ御伺ワ
シタノデアリマス、ソレカラ其ノ
次ニ御伺ヒスルコトハ、前回、公
法上ノ權利ノ中デ、公法關係ニ基
ク損害賠償ノ規定ガ出來マシタノ
デ、非常ニ是ハ救済ガ完全ニナツ
タト云フコトヲ申上ゲマシタガモ
ウツ、官吏ノ俸給、給與、退職
金、隱退料、斯ウ云フモノノ請求
權ト云フモノガ、今日ニ於キマシ
テハ保護サレテ居ラナイ、行政裁
判所ニ訴ヘル規定モナイシ、サウ
カト云ツテ司法裁判所ニ訴ヘテ請
求スルコトモ出來ナイト云フコト
ニ現在デハナツテ居リマス、是ハ
矢張り管テ御話シタヤウニ無告ノ
民ヲ作ル譯デアリマス、何トカシ
テ、斯ウ云フ際ニ其ノ點ノ救済ガ
出來ルヤウニシタラバドウカト考
ヘテ居リマス、或ハ之ヲ通普ノ金
錢債權ト同ジヤウニ、民事訴訟デ
請求出來ルト云フヤウニスルノ
モ、一ツノ考ヘ方デアアル、或ハ又
之ヲ行政事件トシテ、裁判所ニ請
求出來ルト云フコトニスルノモ、
其ノ一ツノ方法デアラウト思フノ
デスガ、此ノ點ニ關スル司法大臣
ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 尤モ
ノヤウニ考ヘテ居リマス、是ハ行
政事件トシテ取扱フコトガ將來出
來ルヤウニナルカト考ヘテ居リマ
ス、目下考慮中デアリマス
○霜山精一君 其ノ問題ニ關聯致
シテ居リマスルノデ、前ニ廻リマ
スケレドモ、四十條ト十七條トノ
關係ヲ御尋ネシ見タイノデアリ
マス、前回トヨツト御尋ネ致シマ
シタノデ、ハツキリシタノデアリ
マスルガ、四十條ノ補償ノ請求デ
スネ、抑留、拘禁サレタ後ニ無罪
ノ裁判ヲ受ケタ場合ニハ補償ノ請
求ガ出來ル、此ノ方ハ公務員ニ何
等ノ故意、過失ガナクテモ、補償
ノ請求ガ出來ルノデアリマスル
ガ、處方、十七條ノ方ハ公務員ノ
不法行為ニ依ツテ損害ヲ受ケタ場
合ニ國又ハ公共團體ニ賠償ノ請求
ガ出來ル、斯ウ云フコトニナツテ
居リマスルカラ、公務員ノ不法行
爲ニ依ツテ生ジタ損害ノ賠償デア
ル、ソレガ十七條デアアル、斯ウ云
フ風ニ區別ガ出來ルノデアリマス
ルガ、唯茲ニ問題ニナルノハ四十
條ノ場合、抑留拘禁、此ノ方ニ付
テ公務員ニ不法行為ガアツタ場合
詰リ故意過失ニ依ツテ抑留拘禁サ
レタ、或ハ抑留拘禁後ニ拷問ニ掛
ケラレタト云フヤウナ故意、過失
ガ抑留、拘禁ニ伴ツテ居ル場合、
其ノ場合ヲ四十條ニ依ツテ救済ス
ルノデアアルカ、或ハ十七條ニ依ツ
テ救済スルノデアアルカ、詰リ公務
員ノ不法行為ガ、四十條ノ中ニ被
サツテ來テ居ルヤウナ場合ハ、ド
ウチラノ請求ニ依ツテ之ヲ許スノデ
アルカ、是ハ補償ノ請求ノ方ハ、
刑事裁判所デ補償ヲ許スカラ、刑
事裁判ノ方ノ管轄ニナル、十七條
ノ方ハ普通ノ損害賠償デアアルカ

ラ、是ハ民事裁判ニナルト思フカラ、其ノ裁判所ガ違フカラ、四十條ノ場合ニ公務員ノ不行爲ガ加ツテ來テ居ル場合ハ、孰レノ規定ニ依ツテ之ヲ處理スルカト云フコトガ問題ニナルノデハナイカト思フノデアリマスガ、其ノ點ニ付テ、何カ御考ガオアリデシタラ伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答ヘ致シマス、其ノ場合ハ要スルニ請求權ノ競合ノ場合デアリマス、ソレデスカラ、本人ノ意思ニ依リマシテ、ドチラニデモ請求出來ル

○霜山精一君 ソレカラ序ニ、前ニ返リマシタカラ、三十四條ニ關スル問題ヲ御伺ヒシテ見タイノデアリマス、第三十四條ト云フノハ、前回ノ御説明ニ依リマス、是ハ刑事手續ニ關スル規定デアリ、詰リ刑事手續ヲ始メタ時ニ、此ノ三十四條ニ依ツテ抑留、拘禁サレタ場合、其ノ時ニ此ノ規定ガ適用ニナルノデアルト云フ御考ヘデアルコトハ分ツタノデアリマス

ルガ、唯問題ハ、抑留、拘禁ハ刑事手續ノミニ付テ行ハレルモノデハナイイ刑事手續以外ニ色々ナ不法ヲ抑留、拘禁ト云フモノガ行ハレル譯デアリマス、例ヘバ氣違ヒデナイノニ、拘禁シテヤラウト旨ツテ精神病院ニ叩キ込シテ、抑留シテシマフ、拘禁シテシマフト云フヤウナコトモ行ハレマス、或ハ又

色々政治上ノ理由等デ、反對黨ヲ軟禁シテシマツテ、何處カヘ抑ヘテシマフト云フヤウナコトモ認メラレル、サウ云フ場合モアリ得ル譯デアリマス、サウ云フ風ニ、刑事手續以外デ私人ノ抑留、拘禁サレル場合ガアリ得ル譯デアリマ

ガ、サウ云フ場合ニ對スル何カ特別ナ救済ノ方法ヲ御認メニテカドウカ、實ハ此ノ配付ヲ受ケマシタ參考書類ノ中ニハ、人身保護令ト云フモノガアリマシテ、何カサウ云フ場合ノ特別ナ措置ガ講ゼラ

レルノデハナイカト云フコトガ豫想サレルノデアリマスガ、サウ云フ風ナ刑事手續ノ内外ヲ問ハズ、刑事手續タルト刑事手續以外タルトヲ問ハズ、不法ヲ抑留、拘禁ニ對シテ、人身ヲ保護スル何カ特別

ナ措置ヲ御講ジニナル御積リデア

ルカドウカト云フコトニ付テ御伺ヒシタイト思ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答ヘ致シマス、今御示シニナツタヤウナ場合、即チ私人ガ私人ヲ監禁、拘禁シ、又刑事手續以外デ官吏ガ不法ニ私人ヲ抑留、拘禁シ

タ場合ノ補償ヲ如何ニスベキカ、現在デハ御承知ノ通り左様ナコトハ刑法上許サレナイノデアリマス、

刑事、檢事、警察官、其ノ職務ヲ行フニ付テ凌辱行為ヲシタ場合ニハ、刑法上一定ノ制裁ハアルノデアリマス、又私人ガ私人ヲ不法ニ監禁、抑留シタ場合ニハ、或ハ速

捕監禁罪トシテ一定ノ刑法上ノ制裁ガアルノデアリマス、是等ノ法律ヲ適用スルニ萬違算ノナイヤウナ建前ニナツテ居リマス、即チ、直チニ檢事局ニ之ヲ告發スルカ、或ハ救済ヲ求メ得ルノデアリマス、併シ其ノ以外ニ今申サレマシタ人身保護令ト云フヤウナ規定ヲ設クベキカドウカト云フ問題デア

アルノデアリマス、實ハ其ノ點ニ付キマシテハ司法法制審議會ニ於キマシテモ、大イニ議論サレテ居リマ

ス、私ノ手許ニ要綱案ガ今參ツテ居ルノデアリマスルガ、果シテ此ノ要綱案通りニ、將來法文トシテ現レルカドウカト云フコトハ、今直チニ言明スルコトハ致シ兼ネルノデアリマス、左様ナ法案ニ付

テ、只今慎重ニ審議中デアルト云フコトダケハ申上ゲルコトガ出來ルノデアリマス

イ、令狀ヲ出シテ人ヲ引張ツテ來ルト云フヤウナ強制捜査ノ權限ヲ持タナイコトニナツテ居ルノデアリマス、或程度ニ於テ強制捜査ノ權限ヲ捜査官憲ニ與ヘルカドウカト云フコトハ、從來カラ司法部トシテハ非常ニ大キナ問題デアツタ

ノデアリマシテ、捜査官憲ガサウ云フ強制的ナ捜査權ヲ持ツト云フコトハ非常ニ困ル、強制權ヲ與ヘ

テハイカヌト云フ議論ト、幾ラカ與ヘナケレバ捜査ガ出來ナイヂヤナイカト云フ議論トガ長ク對立シテ居ツタ譯デアリマス、新憲法ニ於キマシテハ、サウ云フ令狀ヲ出

ス權限ガ司法官憲ト書イテアリマシテ、果シテ之ノ中ニ、裁判所ノミヲ含ムノデアルカ、或ハ檢事、司法警察官迄モ、司法官憲ノ中ニ包含スルノデアルカドウカト云フコトハ、ハツキリシナイノデス

ノミガ令狀ヲ出スコトニナツテ居ツタノデアリマス、實際ノ問題ト致シマシテ、非常ニ事件ガ急遽ヲ要スル場合ニ、一々判事ノ令狀ヲ求メルト云フヤウナコトデハ甚ダ不都合ヲ生ズルノデアリマス、將

來國家治安ノ維持カラ見マシテモ、甚ダ左様ナコトデハ困ル場合ガ發生スル譯ト存ジマス、又一面

ニ於キマシテ、從來人權蹂躪ナルモノト申サレルノハ、此ノ點ガ主

ト思フノデアリマス、司法警察官ガ、所謂行政檢束ト云フモノデ、判事ノ命狀ニ據ラズシテヤツタノデアリマス、サウシテ不當ニ長ク拘禁スルト云フ例ガ屢々見受ケ

ウカ、サウスルト、從來ノヤウナ
故ニ無理ガ生ジテ来ナイシ、從ツ
テ非難ノ的ナリマシタ人権蹂躪
ト云フヤウナ事柄ニ非常ニ緩和サ
レテ来ルノデハナイカト云フコト
ニナツテ居ルノデアリマス御答
要點ハ、此ノ地方警察官ニハ、判
事、檢事、司法警察官、之ヲ含マ
セル意味デアルト云フコトヲ御了
承ヲ願ヒタイ

○霧山精一君 私ノ質問ハ之ヲ以
テ終リマス

○子爵大河内輝耕君 私ハ只今迄
ノ司法大臣ノ御説明デシタカ、質
問應答ヲ伺ツテ居リマシテ、伺ヒ
損ヒガアルトイケマセヌカラ、確
メテ置キタイ、司法權ノ獨立ノコ
トニ付テ御質問ガアリ、私ハ唯憲
法ヲ保障サレテ居ルモノト思ツテ
居リマシタガ、何カ伺ツテ居ル間
ニ、司法權ノ獨立ハ法律デドウニ
デモナルヤウニ、ト云フヤウナ風
ニ解サレテ来タノデアリマス、サ
ウナリマスト云フト容易ナラヌ問
題デ、司法權ノ獨立ト云フコト
ハ、飽ク迄憲法ニ之ヲ謳歌シナケ
レバナラヌト云フコトニナツテ居
ルモノト私ハ考ヘテ居リマス、ソ
レカラ、此ノ規定ヲ見マシテモ、
私ノ解釋ガ惡イカ知リマセヌガ、
司法權ノ獨立ハ略々出来テ居ルヤ
ウニ思ヒマス、チヨット伺ツテ見
ルト、法律ノ力モ借リナケレバナ
ラヌト云フヤウナ風ニ取レルノデ
アリマスガ、其ノ點ハ如何デスカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答
ヘ致シマス、決シテ裁判所ノ獨立
ヲ侵害スルト云フコトニハナラヌ
ノデアリマス、此ノ憲法並ニ法律
ノミニ拘束サレル、裁判官モ或ハ
裁判所構成法、或ハ彈劾法ト云フ
ヤウナモノニ或程度ハ拘束サレル
ノデアリマス、ソレ以外ニハ絕對
ニ拘束サレナイ、寧ろ茲ニ裁判官
ノ身分ヲ保障スル爲ニ設ケル規定
デアルト御承知ヲ願ヒタイ

○子爵大河内輝耕君 能ク分リマ
シタ、ソレデ宜シウゴザイマス、
ソコデ「すべて司法權ハ」トアリ
マスノハ、司法權ノ範圍デアリマ
スガ、私共素人デアリマスカラ能
ク分リマセヌガ、素人ニ分ルヤウ
ニ能ク説明シテ戴キタイ、民事、
刑事ハ無論入ルガ、其ノ外ニ、以
前ニ行政裁判所ニアツタヤウナモ
ノモ、之ニ入ルカ入ラヌカ分リマ
セヌケレドモ、總テ權利ヲ侵害サ
レタト云フヤウナコトハ、皆何トカ
救済ノ途ガ附クノダラウト思ヒマ
スガ、何カ相當ニ範圍ヲ設ケルノ
デアリマセウカ、ソレトモ、何デ
モ皆構ハズ引受ケルト云フノデア
リマセウカ、素人ニ分リ易ク御説
明ヲ願ヒタイ

○委員長(安倍能成君) 司法大臣
ニ伺ヒマスカ
○子爵大河内輝耕君 ドチラデモ
○國務大臣(木村篤太郎君) 何ガ
司法權デアルカト云フコトニ付テ
ハ、相當問題ガアリマセウガ、此

ノ裁判所デ扱ヒマスル事件ハ、今
大河内委員ノ仰セニナリマシタ、
民事事件、刑事事件ハ勿論デアリ
マスガ、從來ノヤウナ民事事件モ
扱フコトニナリマス、行政事件デ
ハドウナルカト申シマス、是ハ
第二項ノ特別裁判所ハ設ケルコト
ガ出来マセヌノデ、從來ノ行政事
件モ等シク裁判所デ之ヲ扱フト云
フコトニナルノデアリマス

○子爵大河内輝耕君 從來ノ行政
事件ハ、官吏ノヤウタコトデ、總
テノコトガ含マレテ居ナイヤウニ
思ヒマスガ、ソレハ從來ノ範圍ダ
ケニ御止メニナリマスカ、ソレハ
更ニ擴張サレマスカ、若シ擴張サ
レルトスルト、如何ナル點迄擴張
サレルノデスカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御説
御尤モデアリマス、其ノ點ニ付テ
ノ境界ヲ何處ニ設ケルカト云フコ
トニ付テハ、相當議論ノ餘地ガア
ルノデアリマス、只今之ヲ審議中
デアリマス、左様御了承ヲ願ヒ
マス
○子爵大河内輝耕君 ソレデ一ツ
伺ツテ置キタイノハ、皇族様ノ問
題デゴザイマスガ、皇族様ハ、是
ハ民事上ノ御責任ハアルト思ヒマ
ス、併シサウ云フコトヲ想像スル
ノモ何デスカ、是ハ理論ノ問題ダ
カラ申スノデスカ、刑事上ノコト
ダトカ、云フヤウナコトニナリマ
スト、ドウ云フコトニナリマス
カ、矢張り此ノ中ニ含マレマスカ、

ソレトモ、サウ云フコトハ御責任
ハ全然ナイト云フヤウナコトニナ
ルノデセウカ、其處ハ如何ナモノ
デセウカ
○國務大臣(木村篤太郎君) 大河
内委員ニ申上グタイノデスカ、其
ノ點ニ付テハ、私ハ成ルベク觸レ
タクナイノデアリマス、理論上カ
ラ申セバ、勿論皇族デモ個人トシ
テハ國民デアラレルノデアリマス
カラ、一般法規ノ下ニ之ヲ含マセ
ナケレバナラヌト云フコトニナル
ノデアリマスガ、ソレカラ推論ス
レバ、凡ソ結論ガ出テ參ルカト思
ヒマス

○子爵大河内輝耕君 ソレデハ、
ソレハ其ノ位ニ致シテ置キマセ
ウ、ソレカラ其ノ次ニ彈劾ノ部分
デスカ、是ハ皆様カラ御質問ガゴ
ザイマシタシ、私ハ分リマシタカ
ラ、是ハ止メマス、私ノ質問ハ是
デ止メテ置キマス

○澤田牛麿君 私ハ少シ、澤山ノ
事柄ヲ持ツテ居リマスカラ、少シ
ノ時間ヲ頂戴シタイ、此ノ司法ニ
關スルコトニ付テハ大變是ハ進シ
ダ立法ダト云フ御話ガアリマシタ
ガ、私ハ何時モ申上ゲル通り、頭
ガ舊イ爲カ、進シダ立法ト云フヨ
リハ、寧ろ非常ニ混亂シタ立法デ
退化シテ居ルモノデハナイカト私
ハ思フ、大日本帝國憲法ニ依リマ
スルト、第五十七條ノ第二項及ビ
第五十八條ニ於テ、裁判所ノ構
成、ソレカラ裁判所ノ裁判官ノ身

分、其ノ他懲戒等ノコトガ法律ニ
依ルト明記サレテ居リマス、極メ
テ明確ナリテ簡單ニシテ要領ヲ得
タ非常ニ完備シタモノデアルト、
私ハ大日本帝國憲法ノ司法ニ關ス
ル所ヲ感ズルノデアリマス、新憲
法ノ草案ニ依リマスルト、各所ニ
疑問ヲ生ズルノデアリマス、ソレ
ヲ極ク秩序ナク申上ゲテ、政府ノ
御答辯ヲ伺ヒタイト思ヒマス、先
ノ順序ハ違ヒマスガ、第一、第二
八十一條ノ憲法違反ノ法律ヲ裁判
スル權能、是ハ私ハ三權分立ノ思
想ヲ破壞スル最モ酷イモノデア
ルト思ヒマス、何處ノ國ニ斯ウ云フ
コトガ行ハレテ居ルカ、私ハ能ク
知りマセヌケレドモ、抑々法律ヲ
定ムルト云フノハ、定ムル權能ノ
アル者ガ其ノ良智ニ依ツテ制定ス
ルノデアリマス、之ヲ若シ違法ナ
リトカ、イケナイ、違法ト云フコ
トハ、即チイケナイト云フコトニ
ナリマス、イケナイトスル權能ヲ
持ツ者ハ、ソレ以上ノ者デナクテ
ハナラヌ、處ガ、國會ハ最高ノ機
關ト云フコトニナツテ居ル、國會
以上ノ機關ハナイノデアアル、其ノ
國會ハ最高機關デアアル所ノ國會ガ
定メタモノガイケナイト云フコト
ヲ、國會ヨリ下級ノモノ、國會ニ
隸屬スルト云フカ、司法官憲デス
カ、何デスカ、裁判所ガ判定スル
ト云フコトハ、最モ不合理ナ、常
識的ニ言ツテ最モ不合理デアアル、
三權分立ノ頭カラ言ツテ甚ダ不合

成、ソレカラ裁判所ノ裁判官ノ身

理デア、ソレカラ新憲法ノ精神ニ依ツテモ、國會ハ最高ノ機關デア、ソレト明言シテ居ル、其ノ最高ノ機關方定メテモノヲ、ソレヨリ以下ノ機關方、之ヲ不都合ナリト宣言スルト云フコトハ、是ハマア不合理的ノ甚ダシイモノダト私ハ思フ、ドノ點カ見テモ、憲法違反ノ法律デアルト云フコトヲ判決スル權能ヲ裁判所ニ持タセルト云フコトハ、ソレハ何處カラ、サウ云フ觀念ガ出テ來テ居ルカ、私ハ頗ル疑フデアリマス、官廳ノ間ニハ、ソレハ甲ノ官廳ノ處置ヲ乙ガ是正スルト云フ途ヲ拓クト云フコトハ出來ナイコトモナイデセウケレドモ、苟モ國家ノ最高機關ガ其ノ決定スルト云フコトハ、是ハ私ハ、甚ダ不都合デアルト思フ、現行憲法ニ依ル如ク、天皇方統治權ヲ總攬シテ居ラル、ナラバ、是ハ天皇ノ所ニ於テ如何様ニモ、裁可モ廢棄モ、如何様ニモ出來ルコトハ合理的デアルケレドモ、サウ云フ制度ガナクナツタ後ニ於テ、司法裁判所方國會ノ制定シタル法律、既ニ法律トナツテ行ハレテ何年カ或ハ經ツテ居ル後デナケレバ、此ノ裁判ハ起ツテ來ナイダラウト思フ、其ノ後ニナツテ、此ノ法律ハ駄目ダト云フヤウナコトヲ言フト云フコトハ、是ハドウモ常識カラ

考ヘテ不合理ノ甚ダシイモノデア、私共ハサウ云フ考ノ出處ガ分ラヌ、何處カラソナ考ガ出テ來ルカ、殆ド我々ノ頭デハ了解出來ナイ、餘程進シテ頭カ、餘程不合理ナ頭カ何カデナケレバ、普通ナ頭デハ出テ來ナイ考デア、ソレカラ第二ニハ、三權分立ノモウツノコトハ、是ハ三權分立ノ論カラ言ツテ、司法裁判所ガ不當ニ侵シテ居ル、進出シ過ギテ居ル、侵略シ過ギテ居ル所ノ方カラ言ツテ居ルノデアリマスガ、今度ハ、アベコベニ侵略サレテ居ル所カラ見ルト、裁判官ヲ内閣ガ任命スルト云フ風ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、實ハ此ノ法文ヲ能ク讀メナイノデ開違ツテ居ルカモ知レマセヌガ、サウ云フ風ニナル、内閣ト云フモノハ、行政機關デア、司法權ノ獨立ト云フコトヲ言フニ、其ノ獨立司法權ノ人的組織、人的要素デア、所ノ裁判官、一人一人ヲ内閣ガ任命スルト云フコトニナレバ、ソレハ司法權ハ内閣ニ隸屬スルモノト云フコトヲ結論セサルヲ得ヌデア、此ノ點ハ甚ダ司法權ノ侵害ニナルト私ハ思フ、此ノ二點ガ三權分立の見地カラ觀テハ大ナル不都合デアルト私ハ思ヒス、ソレカラ其ノ他此ノ法文ハ非常ニ讀ミニクイ、政府ノ御説明ニ依ルト、法文ヲ平假名ニシテ、誰ニデモ讀メルヤウニシタト云フノデアリマスガ、私共ソレ

讀メナイトナツテハ、誰ニモ讀メルモノガ、我々ガ讀メナイト云フコトニナルト、我々ガ餘程ドウカシテ居ルト思フ、私ハ其ノ點ニ於テ非常ニ恥ヂ人ツテ居ル次第デアリマスガ、大分讀ミニクイ、先程牧野委員カラ御話ガアリ、シタガ、大日本帝國憲法ノヤウニ、明文ガチヤント法律決ルト云フコトニキツチリ書イテアレバ、ソレハ實ニ明瞭デアリマスノデ、茲デハ一體明文ガドウナルノデア、カ、ドウモハツキリシナイ、豫テ金森國務大臣カラ色々御説ノヤウニ、處々方々ヲ綜合シテ推論スレバ、サウ云フコトハ分ルチヤナイカト云フヤウナ話ガ度々アリマス、ナカノソレガムツカシイノデス、一旦瞭然、明瞭ノ規定ガ何故出來ナカツタノデアラウカ、私ハ其ノ點ニ付テ疑フノデアリマス、ソコデ其ノ後ノ、明文關係ノ後ニ付テモ、色々ナ問題ガアル、ドウモ實際分ラナイデ困ルノデスガ、彈劾ハ彈劾ノ規定ガ出來ナカレバ、ドウ云フ彈劾カ是モ了解スルコトガ出來ナイ、其ノ彈劾ノ序ニ申上ゲマスガ、先程問答ガアリマシタガ、私ハ先程ノ問答ト正反對ノ意味ニ此ノ文章ガ讀メルノデアリマス、裁判官ノ懲戒處分ハ、行政機關ガこれを行ふことはできない、是ハドウモ懲戒處分ヲ法律ガ作ルトカ法律ガ作ラナイトカ云フ問題ガハナイ、懲戒處

分其ノモノガ行政機關デハ出來ナイコトニナツテ居リマスト書イテアリマスガ、懲戒處分ハ裁判デアレバ、裁判所自ラシナケレバナラヌト云フコトニナルノデア、アルガ今迄ノヤウナ意味ノ懲戒ト云フモノガ無クナツタノデ、此ノ憲法デスウ云フ風ニ解セザルヲ得ナイヤウニ私ハ解釋シマスガ、其ノ點ハドウ解釋シタラ宜イノデアリマセウカ、ソレカラ若シサウデアルトシタラ、行政機關ガ懲戒ガ出來ナイトナレバ、今迄ノヤウニ司法大臣ガ懲戒スルト云フコトハ絕對ニ無クナル、一々懲戒ト云フヤウナコトニ裁判所ガ裁判ヲ開イテ裁判官ガ處置スルヨリ途ハナイト思ヒマス、ソレカラ審査デゴザイマスガ、是モ度々色々ナ點デ色々ナ方カラ御話ガアリマシタカラ、私ハ簡單ニシマスガ、審査ト云フコトモ、衆議院議員ノ選舉ト絡ミ合セテ規定シテ居ルヤウデスガ、衆議院ノ總選舉ト裁判官ノ不適ト、何ノ關係ガアルカ見當ガ附カナイ、了解ガ出來ナイ、衆議院ノ總選舉ト、何デ絡ミ合セテ來ナケレバナラヌノデア、若シ裁判官ノ不適ヲ審査スルト云フナラバ、國民投票ガ必要ナラバ、何時デモヤウカラ宜イ、或ハ何年毎ニヤウカラ宜カラウ、國會議員ノ選舉ト何等ノ緣故ノナイコトデア、是モ三權分立ノ點カラ言ヘバ國會議員ト裁判官トハ全然關係ガ

ナイ、ソレヲ絡ミ合セテ、資格ガアルカナイカト云フコトノ審査ヲスルト云フコトハ、ドウモ何處カラ斯ウ云フ考ガ起ルカ、此ノ考ノ出處ガ私ニハ了解出來ナイ、ソレカラ其ノ審査トナレバ、例ヘバ大審院ノ判事ガ十人アル、其ノ十人ヲ全部審査シテ、其ノ中一人ガイケナイトナルト、後ノ九人ニ付テハドウ云フ風ニナルカ、其ノ次ノ審査ト云フコトニ付テハ何時行ハレルカト云フコトニ付テモ、實際問題トシテムツカシイト思フノデアリマスガ、審査其ノモノニ付テモ、是ハ人民ニ其ノ審査ノ能力ガ無イト斷言シテ憚ラヌノデアリマス、能力ノ無イ者ニ裁判官ヲ審査サセテモ、何ノ役ニモ立タヌ、唯徒ニ手數ヲ掛ケルノミデアルト、斯ウ私ハ考ヘマス、マダ一項到ル處悉ク疑問デアリマスガ、餘リ一人デ時間ヲ取ルノモ惡ウゴザイマスガ、マダ時間モ

○委員長(安倍能成君) 長クオナリニナルヤウナ午後ニ

○澤田牛麿君 イヤ、モウ少シデアリマス、ソレカラ順序ガ甚ダ悪ウゴザイマスガ、八十條ノ規定ニアル報酬ノ問題デアリマスガ「報酬を受ける」トアリ、而モ定期ニ「報酬を受ける」トアリマスガ、是ハ少シ御丁寧ナ規定デアリマス、定期ニ「報酬を受ける」ト追イ憲法ニ書カナクチヤイカヌノデアリマセウカ、一方ニ、國會議

員ノ方カナンカガ報酬ヲ受ケルト云フヤウナコトガ書イテアリマスガ、ソレニハ定期ト云フコトガナク、是ハドウ云フ譯テ區別シタノカ分ラヌガ、又此ノ報酬ト云フヤウナコトヲ、エライ神經過敏ニ書イテ居リマスガ、憲法ノ中ニソノナ、大マカナ國家ノ基本法ノ中ニ、相當ノ「報酬を受ける」トカソレハ總テ定期ニ「報酬を受ける」トカ云フヤウナ、俸給令ノ規定ヲ此處ニ細カク書クノハドウ云フ譯デアリマスガ、マダ外ニ幾ラデモ大事ナモノガアルダラウト思ヒマスガ、斯ウ云フ規定ヲ書クノハドウモ分ラヌ、彈劾ニ付テモ、是ハ法律ガ出ナケレバ批評ノ餘地ガナク、裁判官ハ公ニ彈劾スルト云フコトハドウ云フモノデアリカ、甚ダ了解ニ苦シムノデアリマス、何故、斯ウ云フ風ニムツカシイ司法權ニ關スル疑問ノ多イコトヲ羅列スルノデアラウカ、寧ロ現行大日本帝國憲法ノ書キ方ノ方ガ、遙カニ簡明ニシテ、而モ要ヲ得テ居ルノチヤナイカト私ハ思フ、御答ヲ交ヘルト相當長クナリマスカラ、此ノ程度デハ應止メマス

○國務大臣(金森徳次郎君) 大體

私ノ考ヘテ居リマスル全般ノ問題ト密接シテ居リマスカラ、私カラ御答ヲ申上ゲタイト存ジマス、現行憲法ノ司法權ニ關スル規定ノ方ガ、簡ニシテ要ヲ得テ居ルト云フ御話デアリマシテ、確カニ簡デアリマス、簡デアリマスル此ノ結果ト致シマシテ、又多方面ニ於テ幾分ノ不明瞭ヲ持ツテ居リマシテ、軍法會議ガ許サレテ居リマスルナラバ、又ソレニ準ズルヤウナ特殊ナモノヲ作ル可能性ヲ殘シテ居ルノデアリマシテ、矢張り簡ト云フコトノ半面ニ於キマシテ、内容ガ充實シナイト云フ缺點ガアルノデアリマス、今回ノ憲法草案ニ於キマシテハ、内容ヲ相當充實致シマシテ、司法權ノ獨立ニ凡ソ必要ナルベキ總テノ規定ヲ網羅シヨウト努メテ譯デアリマス、其ノ結果幾分複雑ニナリマシテ、今載キマシタヤウナ御批判ノ起ルノモ其處ニ原因ガアラウト思フテ居リマス、ソレハ一面カラ言ヘバ、已ムヲ得ザル結果デアリ、又利益ヲ伴フコトデモアラウト思ヒマス、ソコデ、第一ニ此ノ法律審査ノコトデアリマシテ、裁判所ニ法律審査ノ權能ヲ與ヘルト云フコトハ、三權分立ノ趣旨ニ違反シ、又此ノ立憲機關ノ最高機關ガ國會デアルト云フコトトモ背馳スルノデハナイカト云フ御考ヘデアリマシテ、或意味ニ於キマシテ、若シ三權分立ト云フコトヲ、固定シタル三ツノ權能ガ全然繩張りヲ異ニスルト云フ立場ヲ執リマスト、多少左様ナ御批判ヲ生ズル餘地モアルノデアリマス、併シナガラ三權分立ト云フコトニハ、自ラ一定ノ幅ノアル内容ガアリマシテ、諸國必ズシ

モ一ツノ原理ニ據ツテ居リマセヌシ、又ソレニコダハルベキ憲法上ノ要請モナイ譯デアリマシテ、ソレハ憲法ガ適宜ニ認メル所ニ依ツテ、妥當ナル規定ヲ定メテ宜カラウト思フ譯デアリマス、大體ノ基本ノ考ト致シマシテハ、我々ハ法律ヨリモ、憲法ヲ現實ニ於テ最高ノ規定トシテ考ヘテ行カナケレバナラヌ、デアリマスルカラシテ、憲法ヲ常ニ護ラル、ヤウニ、規則ヲ設ケテ行カナケレバナラヌト思ヒマス、若シモ從前ノ日本ノ裁判所ノ解釋ニ從ツテ、現行制度ヲ理解致シマスルナラバ、憲法ニ違反シタル法律ガ出來マシテモ、ソレハ國民ニ對シテ規範力ヲ持ツテ來ルコトニナリマス、ソレハ本當カラ言ツテ憲法ノ精神ニハ合ハナイノデアリマス、從ツテ今回ノ草案ニ於キマシテハ、法律ト憲法ト二ツガ相背馳スルナラバ、憲法ニ據ルト云フ其ノ原則ヲ最高裁判所ヲ通シテ、ハツキリサセルヤウニシナケレバナラヌト云フコトデアリマシテ、是ハ憲法尊重ノ結果、已ムニ巴レヌ必然ノ道行キデアラウト思ヒマス、現行制度ノ下ニ於キマシテ、裁判所ガ左様ノ解釋權ガアルカドウカト云フコトハ、一ツノ問題デアラウト思ヒマス、又「ワイマール」憲法ガ出來マシタ當時ニハ、斯様ナ條文ガナカツタケレドモ、之ニ付テノ諸種ノ見解ガアツテ、學說ヲ紹介サレテ居ル

文獻ニ依リマス、出來ルト云フ意見ト出來ナイト云フ意見ガ半々デアルト云フ風ニ傳ヘラレテ居リマス、此ノ憲法ハ其處ヲ明白ニ決定スルト、サウ云フ態度ヲ執ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ斯様ニ致シマス、國會ガ最高機關デアルト云フコトト矛盾スルデハナイカト云フコトデアリマスガ、是ハ憲法ハ各條文ガ相對立シテ、御五ニ連絡シテ解釋サレルモノデアリマスカラ、國會ガ最高機關デアリマシテモ、ソレニ特別ノ規定トシテ、又此ノ憲法ガ最高裁判所ノ權限ヲ決メマスレバ、モノノ道理ニ於テ差支ハナイ、憲法違反ト云フヤウナコトハ起ツテ來ナイト思ヒマス、尙實際ニ於キマシテハ別トシテ、理論ト致シマシテハ、裁判所ガ法律ソレ自身ヲ直接ニ左右スルノデハアリマセヌ、裁判ニ必要ナル範圍ニ於テ、其ノ法律ノ解釋ヲ決定スルノデアリマスカラ、唯議會ノ權能ヲ正面カラ破壊スルノデハゴザイマセヌ、其ノ點恐ラク御質疑ニ於ケル御不滿ヲ或程度緩和スルコトガ出來ルト思フ譯デアリマス、次ニ裁判ノ獨立ヲ侵略スルヤウナ意味ガ別ニ起ツテ來ル、詰リ内閣ガ之ヲ任命スルト云フ風ナ規定ガアツテ、今迄任免權ノ大權ニアツタモノガ、今度内閣ニ代ルト云フヤウナコトデアルト云フコトカラ、逆ニ裁判官、主トシテ裁判官デアリマスガ、從ツテ

又裁判所ノ獨立性ヲ害スルト云フヤウナ御疑惑ガアリマシタガ、是ハ其ノ考ヘ方、裁判官ヲ任命スルモノハ、結局國會ガ任命スルノデアリマシテ、斯様ナ任免權ノ本體ハ、大體ニ固ヨリ根據ヲ持ツト云フノガ現行憲法ノ考ヘ方デアリマスガ、今回ハ度々申シマシタヤウニ、天皇ニハ出來ルダケ政治的ナ責任ノ歸屬シナイヤウニ、實質上ノ考慮ヲスルト云フ建前デアリマスルガ故ニ、裁判官ハ内閣ニ於テ之ヲ任命シ、サウシテ必要ナ範圍ニ於テ、天皇ノ認證ヲ仰グト云フコトニナツテ居リマシテ、其ノ點ハ此ノ國ノ制度ヲ整ヘテ行キマス上ニ於テ、已ムヲ得ザルコトデアリマシテ、又理論ノ點ハ別ト致シマシテ、運用ニ於キマシテ、今迄内閣ガ結局其ノ任命ノ手續ヲ中心ニ爲シテ居リマスルガ故ニ、サ迄ノ支障ハ是カラ論定スルコトヲ得ナイト考ヘテ居リマス、尙、左様ニ内閣ガ中心ニナルガ如キ任命ノ形式デアリマスルケレドモ、他ノ一面ニ於キマシテ、最高裁判所ニ付キマシテハ、先程御述ベニナリマシタ國民ノ審査ト云フコトガアリマスシ、ソレカラ下級ノ裁判所ニ於キマシテハ、最高裁判所ノ作ル名簿ト云フモノノ制約ガアリマシテ、實質ニ於テハ裁判所ノ行政ニ依リ影響ヲ受ケルト云フ心配ヲ、形式的ニモ除クダケノ注意ハ、十分サレテ居ル譯デア

リマス、次ニ裁判所ニ關シマスル色々ノ細カイ規定トシテ、懲戒ト云フモノニ付テハドウスルノカト云フヤウナコトガアリマシタガ、是ハ此處ニ書イテアリマス通り裁判官ノ懲戒處分ハ、行政機關ガ之ヲ行フコトヲ得ナイト云フコトニハツキリシテ居リマシテ、是ハ裏カラ申シマスレバ、詰リ司法機關カ、又ハ立法機關ガ懲戒ヲ爲シ得ルト云フ意味ニナラウト思ヒマス、併シ立法機關ハ公ノ彈劾ノ方面ニ於テ扱フコトニ、此ノ憲法ノ建前ニナツテ居リマシテ、現實ニ於キマシテハ、懲戒處分ハ裁判所ガ、裁判所ト申シマスカ、此ノ一般ノ意味ニ於ケル裁判機關ガ、裁判官ノ懲戒處分ヲ行フコトニナリマシテ、此ノ點ハ現在ト格別ノ差ガナイコトト考ヘテ居リマス、ソレカラ此ノ報酬トカト云フコトハ、是ハ甚ダ妙デアリマシテ、憲法ニ書カナクテモ宜イデハナイカト云フ意味ノ御質疑デアリマシタガ、此ノ裁判官ノ身分上ノ獨立ト云フコトヲ保クシメマス爲ニ、現行ノ憲法ニ於キマシテモ相當ニ用意ハシテアルノデアリマス、併シナガラソレハ法律ニ關スル權衡デ申シマスト俸給デアリマス、報酬ニ關スル權利ガ確保サレテ居リマセヌ、デアリマスカラ、今迄モ色色ノ議論ガ起リマシテ裁判官ヲ減俸スルト云フヤウナコトハ、憲法ニ照シテドウカト云フヤウナ風ノ

疑問モ起リ、若干紛糾シタ議論ガ起ツテ居ルノデアリマス、今度ノ草案ニ於キマシテハ、左様ナ風ノコトヲ的確明瞭ニ致シマシテ、其ノ官モ奮ハル、コトハナイ、同時ニ、官ニ伴フ如キ給與ヲ奪ハル、コトハナイト、兩面カラハツキリサシテ居ル譯デアリマス、定期ト申シマスノハ、矢張り給與ハ一定ノ決ツタ給與方法ニ依リマセヌト、結局給與シナイモ同ジヤウナ結果ニナリマシテ、五十年先ニ拂フト云フヤウナコトデハ有名無實ニナリ、矢張り保障ヲ確實ニ致シマスルニハ、斯様ナ規定ヲ設ケルコトガ適切デアリマシテ、實ハ私自身モ、報酬ト云フコトハ身分保障ノ上ニ大シタ價值ノナイコトデハナイカト云フヤウナ疑惑ヲ持ツタ時代モアリマシタ、靜カニ考ヘテ見マス、廣イ眼カラ見マシテ、是ハ可ナリ重要ナ要件デアルヤウニ、今日デハハツキリ意識ヲ致シテ居リマス、大體斯様ナ點デ、御質疑ニ對スル御答ヲ盡シタト考ヘテ居リマス

○澤田牛麿君 只今ノ御説明デ、マアソレ以上御聽キシテモ詮ノナイコトデアリマスカラ、大體其處デ止メテ置キマスガ、尙少シ、今ノ報酬ヲ受ケル、是ハ文字ニ拘泥スルヤウデ、甚ダ小サナ問題ノヤウニ見エマスガ、今迄ノ俸給ト云フモノハ報酬ト云フ觀念トハ少シ違フダラウト思ヒマス、私ハ行政法ニ付テモ、餘リ詳シクハ通ジテ居リマセヌカラ、餘リ的確ナコトモ申上ガ兼ネルケレドモ、官吏ノ是ハ矢張り俸給ト云フ方ニ當ルノダラウト思フノデスガ、官吏ノ俸給以外ニ報酬ヲ貰フト云フ意味デハナカラウト思フ、報酬ト云フコトハ官吏ノ俸給ト云フ字ト同ジダ、唯英文ノ譯ガ違フト云フ程度デヤナイカト思フノデスガ、サウスルト、裁判官ダケ、相當ノ「報酬」を受ける。トカ、「在任中、減額することできない。」トカ、「ライ報酬問題ニシツコイヤウデスガ、是ハ官吏ニ付テモ何ニ付テモ、總テ公務ニ在ル者ハ同ジコトデアツテ、裁判官ダケニコソナニシテ置クト云フ、何ダカ裁判ノ宜ガ少シ卑シク感ゼラレル氣ガシナイカ、裁判官ノ神聖ノ寧口之ニ依ツテ汚損スルヤウナ虞ガアリハシナイカ、サウ云フヤウナ感ジガスルノデアリマス、其ノ意味ヲ以テモ、マア同ツタ譯デアリマス、是等ハ最高裁判所ノ裁判官ハ隨分偉イノデスガ、裁判官ハ總テ同ジデアラウト思ヒマスガ、是ハ餘程ムヅカシクテ、ハツキリ私モ質問ガ出來兼ネルノデアリマスガ、少クトモ七十九條ニ於テハ、最高裁判所ノ裁判官ハ「報酬を受ける。」ト、ドウモ是ハモウ少シ日本流ニ御改メニナツタラ如何デアリマセウカ、マア我々ハ、武士ハ食ハネド高楊子ト云フコトヲ、サウ自慢

スルト云フヤウナ考ハアリマスヌケレドモ、何カ斯ウ云フコトハ、少シ最高裁判所ノ裁判官ト云フ風ナ偉イ人ニ對シテハ、甚ダ失禮ナ書キ様デヤナイカト考ヘルノデス、字句ノ末ニコダハルヤウデアリマスケレドモ、自ラ是ハ思想ノ上ニ御關係ガアルコトデアリマスカラ、シツツコイヤウデアリマスガ、私ハ此ノ點ハ、何トカ御改正ニナツタラ如何カト思フノデアリマス、第七十九條、八十條、兩方共報酬ノコトヲ類ニ神經ニ病ンデ居ルヤウデアリマスルガ、八十條ニハ定期ニ報酬ヲ受ケル、ソレカラ七十九條ニハ、之モ定期デアリマシテ、兩方共定期ニ報酬ヲ受ケル、減額ヲスルコトガ出來ナイ、是ハドウモ私共ノ舊イ頭ニハ、耳障リナコトデアアル、是ハ寧ロ削ツタ方宜クハナイカ、裁判所俸給令トカ云フモノガアレバ、ソレデモウ十分デアツテ、憲法ニ斯ウ云フコトヲ一々規定シテ置カナケレバナラヌト云フノハ、憲法ノ品フ下ゲルヤウニ私ハ思フ、併シ是以上ハ、モウ議論ト言ヘバ議論デアリマスカラ、此處デ止メテ置キマス、尙伺ヒタイノハ、行政裁判所ト云フモノハ認メテ居ラナイヤウデ、認メナイト云フコトデアリマスガ、此ノ理由ハ私ハ全ク分ラナイノデ、御教ヲ戴キタイノデアリマス、行政裁判所ノコトハ無論知リマセヌノミナラズ、外ノ裁判所

ノコトモ知リマセヌガ、大陸系デハ大體是ガアルト思フノデアリマス、之ヲ現在ノ帝國憲法ニ於テモ採リ入レテ居ル、之ヲ止メル理由ハ何處ニアルノデアリマセウカ、先ツ其ノ點ニ付テ御伺ヒシタイノデアリマス、實ハ内容ヲ能ク知ラヌモノデスカラ、深ク論ズルダケノ知識ガアリマセヌガ、行政裁判所ト云フノハドウモアツタ方宜イヤウナ、素人考デスガ、氣ガ致スノデアリマス、ソレハ普通ノ民事、刑事トハ稍々異ツタ性質ノ裁判ヲスルノデアルカラ、是ハ特別ニアツタ方方便宜デハナイカ、マアサウ云フ點カラ、此ノ制度ガ、「ヨーロッパ」大陸ニ於テハ發達シタモノト、私知識ガアリマセヌケレドモ、想像シテ思フノデアリマス、折角現在、既ニ行政裁判所ト云フモノガアル、其ノ運用等ニ付テハ色々議論モアルコトデアリマセウガ、折角現在アルノニ、ソレヲ認メナイトシテシマツテ、司法裁判所ニ、全部其ノ權限ヲ移シテシマフト云フ必要ガ何處ニアルデアラウカ、今迄ナイモノナラバ、設ケナイト云フコトモ、或ハ宜イデセウケレドモ、今迄、既ニ相當年月在ツテ、而モソレガサウ大シテ不合理デハナイ、或點ニ於テハ、便宜ナモノデアアル、其ノ理窟カラ言ツテモ、止メテシマフ必要ハナイノデアラウカ、今ノ制度デ悪イモノハ無論是ハ止メテ

シマハナケレバナラヌ、併シ悪ク
ナイモノ迄モ止メテシマフト云フ
コトハ、餘リニ事ヲ好ミ過ギルノ
チヤナイカ、往々ニシテ玉石俱ニ
焚クト云フ言葉ガアリマスルガ、
サウ云フヤウナ過ニ陥ルト云フコ
トハ、我々立法機關ニ關係ノアル
者ハ餘程警戒シテ考ヘネバナラヌ
點ト思ヒマス、サウ云フ點ニ付テ
更ニ政府ノ御意見ヲ一應伺ヒタイ
ト思ヒマス

○國務大臣(金森德次郎君) 行政

裁判所ノ問題ハ可ナリ複雑ナル問
題ヲ含シテ居リマシテ、又事實ノ
上ニ立脚シテ批判ヲ致シマスル
ト、現實ノ動キ工合ニ迄論及シテ
ケレバナリマセヌノデ、聊カ言葉
ヲ選ビタイト實ハ存ジテ居リマス
ルガ、大體ノ考ヲ申シマスルト、
行政裁判所ヲ普通ノ裁判所ト別ニ
シテ設ケテ置クト云フコトニ、果
シテ理論的ニ十分ナル理由ガアル
デアラウカ、是ガ第一點トナツテ
來ルト思フノデアリマス、其ノ制
度ガ生レテ來マス氣持ニハ、色々
ナ氣持ガ伴ツテ居ルト思ヒマスル
ガ、一番大キナモノト考ヘマスル
ノハ、何トナク國ノ行政部下云フ
モノヲ、普通ノ裁判所カラ隔離致
シマシテ、行政部下チガ協カラ侵
略サレナイデ、謂ハバ行政部下自
己ノ小サイ毅ヲ特殊ナ司法ノ範圍
内ニ納メテ置イテ、一般ノ裁判所
カラハ批判ヲサレナイヤウニシヨ
ウ、斯ウ云フ意圖ガ積極的ニ加ツ

テ發達シテ來タモノデハナイカト
思フテ居ルノデアリマス、是ハ或
時代ニ於キマシテハ、多少理由ハ
アツタト思ヒマス、併シナガラ、
今日ノ如ク一切ノコトヲ最モ的確
ナ條理ノ上ニ於テ政治ヲヤツテ行
カウト云フ時ニ、行政部下チガ、
謂ハバ切捨テ御免ノヤウナ、サウ
云フ行キ道デ、嚴密ナル批判ノ外
ニ置カレルヤウナコトニ適スル、
事實サウナツテ居ルト云フコト
ハ、勿論アリマセヌ、サウ云フヤ
ウニ適スルヤウナ、特殊ナ制度ヲ
持ツテ居ルト云フコトハ、如何ナ
ルモノデアラウカ、寧ロ斯様ナ見
解ヲ棄テテ、民主政治ノ平明ナル
道ニ入ツテ行ク方ガ宜イノデハナ
カラウカ、是ガ第一ノ考ヘ方デア
リマス、第二ノ考ヘ方ト致シマシ
テハ、次ニ行政裁判所ト云フモノ
ヲ特別ニ置クト云フコトガ、何か
一般的ノ目デ見テ故障ガ起ルノデ
ハナカラウカト斯ウ云フコトガ考
ヘラレテ行クノデアリマス、此ノ
論ニ入ツテ行キマスルト、問題ハ
可ナリ細カクナツテ行キマスルケ
レドモ、何シロ、國ニ於キマシテ
ノ行政裁判所ト云フモノハ、範圍
ノ狭イモノデアリマシテ、其處ニ
入ツタ方々ハ結局終身官トシテ保
護サレルト致シマスルト、ナカナ
カ廣イ範圍ニ裁判官ノ人員ノ流通
ト云フモノガ出來ナイノデアリマ
シテ、此ノ點ガ廣イ地域ニ於テノ
此ノ裁判官ノ交流ノ出來ル所ニ比

バマシテ、其ノ裁判所自體ノ運営
ノ上ニ於キマシテモ、相當不便ナ
所ガアラウト思ヒマス、寧ロ原理
ニ從ツテ一般ノ所ニ移ス方ガ宜イ
ノデハナイカト、斯様ニ考ヘラレ
テ居ルノデアリマス、ソレカラ第
三ニ、之ヲ司法ノ裁判所ノ中ニ入
レタナラバドウ云フ害悪ガアルカ
ト云フ、斯ウ云フ問題ニナツテ來
マスルガ、此處ニ移シマシテモ、
今日以後ノ裁判所ト云フモノハ、
從來ノ裁判所ヨリモ、遙カニ廣イ
考ニ依ツテ動カナケレバナラヌコ
トハ、行政裁判所ヲ持ツテ行カナク
テモ當爲デアリマシテ、例ヘバ憲
法ニ違反スル法律ト云フモノヲ批
判スルト云フコトニナリマスレ
バ、殆ドモ、從來ノ司法ノ域ヲ離
レテ、研究ダケハ、可ナリ廣イ範
圍ニ及バナケレバナラヌ立場ニ
肩迫ヒ込マレル、追ヒ込マレルト
言フ言葉ハ惡イノデアリマスガ、
サウ云フ狀況ニナツテ、サウ云フ
廣イ裁判所ニ之ヲ移シマスルト
ハ、行政全般ヲ公正ニ批判スル點
ニ於テ、全般カラ考ヘテ、決シテ
妥當ノ缺點ハアリ得ナイト思フ
ノデアリマス、勿論裁判官ノ中ニ
ハ、民事、刑事ニ特ニ優レタ裁判
官ガアル、サウ云フ方々ニハ、行
政ノモノハ或ハ扱ヒニクイト云フ
コトガアリマセウケレドモ、ソレ

ウニサハナレバ、之ヲ一般ノ司法
裁判所ニ移シテ差支ハナイト思フ
ノデアリマス、今日ニ於キマシテ
モ、衆議院議員ノ選舉ノ結果ニ對
シマスル裁判ハ、司法裁判所デヤ
ツテ居ル、併シ地方ノ自治體ノモ
ノハ別ニヤル、斯ウ云フヤウナコ
トニ依ツテ、判例ガ區々トナルト
云フヤウナ處モナクテ宜イト思フ
譯デアリマス、次ニ第四ノ點ト致
シマシテ、凡ソ此ノ種ノ裁判ガ一
ツノ系統ニ蔽ハル、ト云フコトガ
理論的ノ必然性ヲ持ツテ居ルノデ
ヤナイカト云フコトモ考ヘマス、
詰リ一國ノ法律ノ判斷ト云フモノ
ハ、一元的ニ統一サレナケレバ誠
ニ工合ノ惡イモノデアリマシテ、
司法裁判所ト行政裁判所トガ、全
然別箇ノ系統ニナツテ居リマスル
ト、其ノ間ニ法律解釋ノ統一ヲ形
式的ニ附ケルコトガ困難ニナリマ
スルシ、其ノ結果、一ツノ問題ガ行
政裁判所ニ持出セバ斯様ナ結果ニ
ナル、司法裁判所ヘ持出セバ斯様
ナ結果ニナル、此ノ二ツヲ統一ス
ル方法ハ、國法上絕對ニ不可能デ
ハアリマセウケレドモ、現在ノ所
ハナカクソレガ出來ナイ所ヲ見
レバ、ソレニモ何か難點ガアリマ
ス、之ヲ一ツニ移シテシマヒマス
レバ、他ノ一般ノ司法ガ皆一ツニ
ナルコトト、併セテ最高裁判所ニ
依ツテ、解釋ノ統一ヲスルコトガ
出來ルト云フヤウナコトニモナラ
ウト思ヒマス、其ノ他細カク此處

デ申上ル必要モナイト思フテ、
殊更ニ避ケテ居リマスルガ、種々
ナル利益ガ澤山得ラレルト云フコ
トガ考ヘラレマス、サウシテ第五
ノ點ト致シマシテハ、政治的ニト
申シマスルカラ、實ハ法律的ニト
ハ、チヨット申シニクイ事情ガア
リマシテ、政治的ニト云フ肩書ヲ
附ケテ、其ノ利益ヲ見タイト思フ
テ居リマス、現在日本ノ行政法ニ
關スル國民ノ救済ハ保タレテ居ル
カト言ヘバ、保タレテ居ナイノデ
アリマス、行政裁判所ハ極ク爪ノ
垢程ノ權限ヲ以テ、國ノ行政全般
ニ付テ、普通ナラバ澤山ノ訴訟ガ
起ラナケレバナラヌ、國民ノ權利
ヲ保全スルナラバソレガ起ラナケ
レバナラヌ、然ルニ行政裁判所ニ
訴ヘル事項ハ、甲、乙、丙、丁ト
限ラレタモノデアリマシテ、霜山
君ガ度々仰セラレル月給ノ請求モ
出來ヌデヤナイカト、確カニ其ノ
通りニナツテ居リマス、何故月給
ノ請求ガ出來ナイカ、是ハ表向ノ
コトヲ言ヒマスレバ、サウ云フ權
能ヲ認メナイカラ出來ナイガ、サ
ウ云フ權能ヲ認メズニ無事ニ是迄
ヤツテ來レタト云フコトハ、ドウ
云フコトカト云フト、行政裁判所
ヲ全然別箇ニシ、從ツテ行政裁判
所ト云フモノヲ比較的毛色ノ變ツ
タモノニ扱ツテ來タコトガ影響シ
テ居ル、故ニ私ハ政治的ノ見解ニ
於キマシテモ、此ノ際一ツ頭ヲ入
レ替ヘテ、出來ルダケ行政訴訟ト

云フモノハ、廣ク出來ルヤウニ、漸次ト云フ言葉デハナクテ、寧ロ急遽ナル考ヘ方ヲ以テ其處ニ向ケテ行カケレバナラヌ、其ノ爲ニモ、矢張り斯様ナ根本的ナ變化ヲスルコトガ好イ結果ヲ得ラル、ト信ジテ居ル次第デゴザイマス

○澤田牛麿君 行政裁判ノ本質ニ付テハ、此處デ議論ヲスベキ問題デモアリマス、又議論ヲスレバ盡キル所デナイト思ヒマスカラ、私ハ只今ノ御説明ニ對シテ、駁論的ノ議論ヲスルコトハ慎シクマス、又十分ナ知識ハアリマセヌガ、一應ノコトハ申上ゲルコトガ自分ニモ多少出來ルト思ツテ居リマスケレドモ、ソレハ慎ンデ議論ニハ互リマセヌ、唯一言申上ゲタ

イノハ、總テ分化、分業シテ行ク場合ニ、色々ノ専門ガツレム、分化シテ行クノデスカラ、或ハ文明ノ進行トシテ餘リ分化シ過ギテイケナクナルト云フコトモ、澤田例ガアリマスケレドモ、其處ニハ程度ノ問題デアリマス、ケレドモ、行政ニ關スル裁判ガ普通ノ民事、刑事ノ裁判ト分化シテ行クト云フコトハ、是ハ進化ノ一ツノ附

梯デアルト思ヒマス、是ハ重大ナ問題ト思ヒマス、小サナ實用上ノ色々ナコトハ盡キルコトノナイ問題デアリマスガ、分化シテ行クト云フコトハ、重大ナ問題ト思ヒマス、折角ノ分化シタモノノ、又一緒ニシテシマフ、甚ダ例ハフカシ

ウゴザイマスガ、ゴツチヤニシテシマフ、ウマイ言葉ガ見當リマセヌガ、所謂寂寞ヲ辨ゼズトカ、サウ云フコトニスルコトハ、寧ロ退化デハナイカ、私ハ唯其ノ考ダケヲ申上ゲテ私ノ質問ヲ打切りマス

○委員長(安倍能成君) ソレデハ休職致シマス、午後一時十五分カラ開會致シマス

午後一時十五分休憩
午後一時二十五分開會
○委員長(安倍能成君) 會議ヲ再開致シマス、佐々木委員

○佐々木惣一君 私人司法ノコトニ付テ少シ質問ヲ致シマス、先ヅ第七十六條ニ付テチヨット伺ヒマスガ、是ハマア此ノ第一項ニ關係スルノデスカレドモ、司法ト云フ中ニ行政裁判ト云フモノガ入ルト云フコトハ、此ノ間以來、今日ノ何デハツキリト分ツタノデスカ、唯チヨット茲デ何ト云フカ、政府ノ方ノ御用意ニ付テ、行政裁判ト云フモノハ、甚迄モアリマシタヤ

ウニ、普通ノ民事刑事ノ裁判ト違フノデ、ソレデ是迄所謂司法裁判所ノ方デハマアチヨット苦手デアツタト云フコトハ疑ヒナイ、唯其ノ際司法官ノ養成ト云フヤウナコトニ付キマシタモ、決シテ今日司法官タル人々ハ行政裁判ヲ爲スニ適當デアルト云フ風ニハ言ヘナイ、殊ニ此ノ司法官試験ナドデ試験ノシマス時ニハ、實ハ行政法、

行政關係ノ裁判ヲスルト云フヤウナ能力ヲ見ルト云フヤウナコトハ初メカラ眼中ニ入レテ居ナカウタト云フノガ今日迄ノ狀態デアリマスルガ、ソレガ今後所謂司法官ト云フモノニ依ツテ行政裁判ト云フコトガ出來ルト云フコトニ相成リマスルガ、此ノ點ニ付キマシタハ矢張り政府ノ方デハ此ノ司法官ノ養成、行政關係ニ裁判スル能力ヲ持ツヤウナ司法官ヲ養成スルト云フヤウナコトニ付テ、特別ノ用意ガ要ルト思フノデスカ、如何デゴザイマセウカ

○國務大臣(金森徳次郎君) 今日ノ裁判所組立ガ變リマスルニ應ジテ、其ノ裁判官ニハ此ノ行政試験ヲ抜フニ適スル人ヲ入レルコトハモウ疑ヒモゴザイマセヌシ、ソレカラサウ云フ裁判官ヲ活用致シマスニハ、部ノ何ト云ヒマスカ、部ノ分ケ方ト云フ點ニ付キマシタモ、全ク今迄ト違ツタ工夫ヲシナケレバナリマセヌ、サウ云フヤウナ方向ヲ以テ司法官ノ資格等モ考ヘルヤウニ研究シテ居リマス

○佐々木惣一君 ソレデ請リ例ハバ司法官試験ト云フヤウナモノ等ニ付キマシタモ、多少是迄トハ違ツタヤウナ用意ガ要ルカト思フノデスカ、ソレダケナ、

○國務大臣(金森徳次郎君) 司法官ノ試験ニモ考慮ヲ要シマセウシソレカラ又實際當分ノ内ハ、行政ノ問題ヲ主トシテ扱フ入ト、司法

ノ問題ヲ主トシテ、在來ノ司法問題ヲ主トシテ扱フ入トハ、裁判官ノ閱歷等ニ付テモ相當注意シナケレバナラヌト思ヒマスネ、ダカラ試験ノ問題ヨリモ、ソレ以外ノ問題デ相當考慮シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス

○佐々木惣一君 少シ諄イヤウデスケレドモ、今現ニ行政官デ居ルヤウナ人ヲ何等カノ資格ヲ認メテ司法官ニ其ノ方面ニ向ケル爲ニ、司法官ニ任用スルト云フコトハ別ニ御考ニナツテ居リマセヌデセウカ

○國務大臣(金森徳次郎君) マダハツキリシタコトヲ申上ゲ兼ネル時期デゴザイマセヌケレドモ、左様ナ方向ニ於テモ考ヘテ居リマス

○佐々木惣一君 ソレカラ次ニ七十六條第二項ニ特別裁判所ト云フコトガアル今日ハモウ質問申上ゲル部分ニ屬シナカウタノデスカレドモ、今日司法大臣ノ御説明ノ中ニヒヨット特別裁判所ハ設置スルコトガ出來ナイカラ、ソレデ行政裁判所等モ出來ナイト云フヤウナ、チヨットサウ云フ説明ガアリマシタガ、若シヒヨットシテ御答辯ガ喰違ツタライカヌケレドモ、此ノ特別裁判所ト云フノハ、現行憲法ニ於ケル特別裁判所デスカ、同ジク現行憲法デハ行政裁判所ト云フ人レナナイト云フ從來ノ解釋ニナツテ居リマスガ、サウデナイト思ヒマスガ、如何デスカ

○國務大臣(金森徳次郎君) 現行憲法ノ解釋ハ別トシテ、茲ニ考ヘテ居ル特別裁判所ト云フノハ、大體此ノ司法ノ所ニ、一應正式ニ規定シテアリマス裁判所トハ、毛色ノ變ツタ裁判所トスウ云フ考ヘ方デ、特殊權限トカ、サウ云フ意味デアリマセヌ、元カラ違ツテ居アリマス

○佐々木惣一君 兎ニ角是ハ一般ノ行政裁判モ人レマシテ、民事、刑事、行政事ノ裁判ヲ一般的ニ取扱ツテ居ル、其ノ一般權限ヲ有スル裁判所ニ對シテ、矢張り特別ナル裁判所ト云フヤウニ思ツテ居ルノデアリマスガ、サウデナイトノデスカ、ドウ云フモノデアリマセウカ

○國務大臣(金森徳次郎君) 勿論項目ニ依ツテ分ケテモ宜イノデアリマスガ、狙ツテ居リマスルノハ今迄ノ軍法會議ノヤウナモノヲ豫想シテ居リマシテ、請リ普通ノ此ノ憲法ノ建前カラ云ツテ、司法權ニ關スル、般ノ原則ノ適用ヲ受ケテ居ナイ、サウ云フモノヲ作ツテヤナラヌ

○佐々木惣一君 サウスルト行政裁判所ハ入りマセヌカ、行政裁判所ハ初メカラ司法權ニ人ツテ居リマスカラ、

○國務大臣(金森徳次郎君) 左様デゴザイマス

○佐々木惣一君 ソレカラ同ジ第二項デゴザイマスケレドモ、行政

ノ問題ヲ主トシテ扱フ入ト、司法

ノ問題ヲ主トシテ扱フ入ト、司法

政機關は、終審として裁判を行ふことができない。ト云フコトが、ドウモ此ノ間モチヨツト御伺ヒシタケレドモ、分ツタヤウデ、分ラナイノデ、此ノ行政機關ハ終審トシテ裁判ヲ行フト云フノハ、所謂一審、二審、終審ト云フ終審デナシニ、詰リ行政事件ニ關シテ行政自體ニ關スル先決問題ト云フノウナ意味デ、裁判的ノコトヲナスコトハ出來ルケレドモ、裁判其ノモノヲ決定スルト云フ意味デ行フコトハ出來ナイト云フ意味デアリマセウカ、或ハサウデナシニ、終審デナケレバ、行政機關モ裁判ヲ行ヘルト云フ意味デアリマセウカ、ソレハ解釋ニ依ツテ非常ニ重大ナ問題ダト思フノデアリマス

○國務大臣(金森德次郎君) 行政機關ニ裁判ヲサセルト云フコトヲ一體豫想スルノガ、其ノ範圍デアリカドウカト云フコトニナリマスルガ、故デ考ヘテ居リマスルノハ、言葉自身ト致シマシテハ、行政機關ガ或段階ニ於テ裁判ヲシテモ、ソレハ此ノ憲法ノ違反ニハナラナイ、併シナガラ、ソレヲ以テ事件ガ終ルヤウナ意味ノ裁判ハイカヌト云フダケノ簡單ナル趣旨デアリマス、ソレデアルカラ、此ノ適用ヲ若シ致シマスレバ、現在ノ特許ニ關シマス特許局ノ事項ガ假ニ裁判デアルト致シマスレバ、ソレダケデ裁判デアルトスレバ、ソレダケデ裁判ヲ片附ケルヤウナ規

定ヲ作ツテハ困ル、必ズ本當ノ裁判所ニ出ルヤウニシナケレバナリマセヌ、或ハ今日違警罪即決例ハ、今ノ研究ノ道行デハ、殘ラナイコトニナルヤウデアリマスガ、私ハ詳シクハ存ジマセヌガナルヤウデアリマスガ、假ニサウ云フモレガアルトスレバ、ソレデ終審トナルヤウナコトデハ、此ノ憲法デハ許サレナイ、必ズ本當ノ裁判所ニ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フコトデアリマス

○佐々木惣一君 ソレデ御趣旨ハ能ク分リマシタガ、終審トスルト云フ文字ヲ文字通りニ讀ムト、ドウシテモ今ノヤウナ御解釋ニナラザルヲ得ナイト思フノデアリマス私共ハ氣持トシテハ行政裁判所ガ終審デアラウガ何デアラウガ、裁判ヲナスト云フ、行政機關ガ裁判ヲナスト云フコトガ、ドウモ妥當デナイト思ツタノデアリマスカラ、ソレデ今御尋シタノデアリマシタガ、假ニ、其ノ裁判ニ服セズンテ、上級裁判ヲ求メ得ルト云フコトデアレバ、形式上ソレデ宜イヤウデアリマスケレドモ、我々ノ實際ノ生活ニ於キマシテハ、上級裁判進行カズニ濟ンデシマフト云フヤウナコトガ、ドウモ實際生活ノ關係ニ於テ、強制サレルヤウニ思フノデアリマス、今ノ違警罪即決例見タヤウナモノデ、ソコデ譯文ノ方ヲ言フトカシイノデスガ、結局はハドウモ何デハナイカ

ト思フ、裁判的判決ト云フコトヲ爲シ得ナイト云フ趣旨デハナイカト思ツタノデスガ、御解釋ガサウアレバ已ムヲ得マセヌシ、言葉トシテハ無論サウモ見エマスカラ、其ノ點ニ付テハ申上ゲマセヌ、ソレカラ第三項ニナリマシタ「すべテ裁判官は、その良心に従ひ獨立してその職權を行ひ、この憲法及び法律にのみ拘束される。」ト云フ此ノ規定ノ解釋デスガ、之ヲ色々同ツテ居ルト疑問ガドウモ起ツタノデスガ、是ハ法令審査權ト云フモノトハ關係ナイ規定ト思ツテ居マシタ處ガ、法律ハ審査出來ルトカ、出來ナイトカ、命令ハ出來ルトカ、出來ナイトカ云フ風ナコトガ色々アリマシテ、何カ此ノ規定ガ法令審査權ト關係ガアルヤウニ思ハレマスガ、私ハサウデナシニ、是ハ裁判官ガ職務ヲ行ヒマスル其ノ態度ガ、憲法、法律ニ依ツテノミ拘束サレルト云フコトデアラウテ、其ノ適用スル法ノ問題トハ關係ガナイヤウニ、法律ハ審査出來ルトカ、出來ナイトカ、サウ云フモノトハ關係ナイヤウニ思ヒマスガ、如何デアリマスカ

トニ同ツテ、ソレカラ裁判官ハ、凡ソ官吏ニ付テ大臣ガ能ク御存ジノ通り、官吏關係ト云フモノニ入ツテシマヘバ所謂特別ノ權力關係ニ入ルノデアアツテ、一般ノ國民ガ持ツテ居ル所ノ保障、立法乃至裁判ト云フモノニ對スル所ノ保障、普通ナラ法律デナケレバナラヌ所ヲ命令デモ規定出來ルト云フヤウナコトヲ能ク言フノデスガ、サウ云フ官吏ニ對スル所ノ特別權力關係ノ理論ト云フモノハ、此ノ憲法ハ排斥シテ、總テ法律デヤラナケレバナラヌ斯ウ云フコトニ相成リマスカ、ソレヲチヨツト伺ヒタイ

○國務大臣(金森德次郎君) 私ハ自分ノ考トシテハ、官吏ヲ特別服從關係ト云フコトデ説明シテ居ツタ過去ノ考ヘ方ニモ、疑惑ヲ持ツテ居リマス、此ノ憲法ハ左様ナ梓ヲ作ツテ居ナイ積リデアリマス

○佐々木惣一君 ソレデ詰リ懲戒ノ場合デモ、司法官ニ付テハ特別ニ懲戒ニ關スル規定ガアルガ、併シ一般ノ普通ノ行政官ニ付テハ所謂上級機關カラ下級機關タル官吏ニ對シテハ懲戒ノ方法、程度ノコトハ別トシテ、懲戒ト云フモノハ官吏關係ノ性質カラ當然ニ爲シ得ルノダ、別ニソレガ爲ニ懲戒ヲ爲シ得ルト云フ特別ノ法的根據ヲ定メナクテモ、官吏、關係ノ性質上上官ガ下官ニ對シテ懲戒ガ出來ル、サウ云フ説明ハ今後ハ取ラレ

マセヌネ

○國務大臣(金森德次郎君) ソレハ懲戒ノ、或ハ懲戒類似ノ事項ノ内容ニ依ツテ違ヒ得ルモノト思ヒマス、個人ノ自由トカ、權利トカ云フモノニ何等影響ノナイ範圍ニ於キマシテ、官吏關係ノ内部ニ於テ結末ノ附ク程度ノモノデアリマスレバ、必ズシモ法律ノ要スルトハ考ヘテ居リマセヌ、併シ其ノ人ガ例ヘバ名譽ヲ害スルトカ云フ段階ニナリ、懲戒ニナレバ法律ノ要スルモノト考ヘテ居リマス

○佐々木惣一君 又ソレト關係致シマスガ、例ヘバ官吏ニ向ツテ、明日ハ一ツ必ズ家ニ居ツテ何時命令ガ來ルカモ知レヌカラ待ツテ居ナケレバナラヌトカ、二三日旅行シテヤイカヌトカ云フヤウナ居住ノ制限デスガ、サウ云フコトハ無論第三章ニ依リマスレバ、一般人ニ對シテハ法律ノ根據ガナケレバイカヌノデスガ、今後ノ憲法デハドウデスカ、官吏ニ對シテハ法律ノ根據ガ要ルノデスカ、要ラナイノデスカ

○國務大臣(金森德次郎君) 官吏關係ニ於テ、内部ニ於テ、左様ナ措置ガ出來ル場合ハ要ラナイト思ツテ居リマス、併シナガラ左様ナ場合ニハ之ニ服從シテカツタトシテモ、ソレハ官吏關係ノ内部ニ於ケルモノデアリマスカラ、サウ云フモノハ要リマセヌ

○佐々木惣一君 官吏關係ノ秩序

ヲ保ツト云フ限リニ於テハ別ニ法律ヲ無クテモ出來ル、サウ云フ風ニ解釋シテモ宜シウゴザイマス

テ、第七十七條ニ移リマス、辯護士ノコトヲ御尋ネシヨウト思ヒマシタガ、是ハ止メテ置キマス、ソレカラ檢察事務ノコトモ宜イノデアリマスガ、最高裁判所ガ檢察官ニ對シテ規則ヲ從ハシメ得ル、是ハ分ツテ居ルヤウデスケレドモチヨツト分リニクイノデスガ、兎ニ

角最高裁判所ハ下ノ程度迄ト申シマスカ、下ノ範圍迄檢察官ノ行動ヲ規定シ得ルト云フ風ニ何カ解釋ガ附カヌノデアリマセウカ、檢察官ニ對スル色々ナ批評ハ無論アル、併シ又檢察官ガ最高裁判所ノ任意ニ定メル規則ニ從ハナケレバナラヌト云フコトニナルト、是亦弊害モ生ズルカト思ヒマスガ、ソ

コニ何カ限界ト云フヤウナモノハナイノデゴザイマセウカ

○國務大臣(金森徳次郎君) 此ノ關係ハ今朝司法大臣ガ御答辯ヲ申上ゲタト思ツテ居リマスカラ、ソレト重複ヲ避ケル意味ニ於テ、私カラハ御答辯ヲシナイ方ガ適切デアラウト考ヘマス、唯併シナガラ

茲ニアリマスルノハ、最高裁判所ガ斯様ナ規則ヲ定ムルトスレバ、檢察官ハ其ノ規則ニ從ハナケレバナラヌト云フタケノコトデアリマシテ法律ガ之ヲ定メルコトヲ排除シテハ居リマセウカ、デアリマス

ラ若シ其ノ紛糾ノ起ル場合ガアリマスレバ、法律ガ適切ニ其ノ境ヲ實行上必要ナル限度ニ是テ、解決スルモノト考ヘテ居リマス

○佐々木惣一君 法律モ、固ヨリ最高裁判所ノ專屬ニナツテ居ル譯デハゴザイマセウカ、ソレハ分リマシタ、ソレカラモウツ御尋ネシマス、第三項ノ「最高裁判所は、下級裁判所に關する規則を定める権限を、下級裁判所に委任することができる。」下云フ規定ハ所謂當該ノ下級裁判所デアリマセウカ、例ハバ最高裁判所ガ、控訴院ト云フモノガアルカドウカ知ラヌガ、控訴院ト云フモノガ管内ノ裁判所ニ關スル規則ヲ委任スルコトガ出來ル、斯ウ云フ風ニモ解釋出來マスガ、ドウ云フモノデゴザイマセウカ

○國務大臣(金森徳次郎君) 此ノ最後ノ項ノ規定ハ甚ダ廣イヤウナ言葉ガ使ツテアリマスケレドモ、趣旨ハ大體此ノ委任ト云フコトノ持ツテ居ル持チ味ヲ前提シツツ此ノ規定ガ出來テ居リマスルノデ、此ノ委任ニ付キマシテ、委任スル者、委任ヲ受ケル者ノ權限ノ分配等ニ付キマシテハ、何カ潛在的ナ原則ガアルモノト私ハ考ヘテ居リマス、ゲカラ唐突ニ之ヲ委任スルノデハナクテ、大體其ノ裁判所所管スルヤウナ範圍ノコトニ付テ委任スル、斯ウ云フ趣旨デアリマスカラ此ノ原則ノトニ理解

○佐々木惣一君 當該裁判所ニ其ノ裁判所ノ行動ニ關スル規則ヲ制定スルコトヲ委任スル、大體サウ云フ御趣旨ノヤウデスネ

○國務大臣(金森徳次郎君) 左様デアリマス

○佐々木惣一君 サウスルト實際ノ運用上可ナリ重大ナ規定ダト思ヒマス、ソレカラ第七十八條ニナリマスガ、是ハ宜シウゴザイマス、彈劾ノ關係デ色々御説明モアリマシタヤウデスカラ、止メテ置キマス、七十九條、是モ色々任命トカ何トカ云フコトガゴテ、アリマシタカラ止メテ置キマシテ、兎ニ角裁判官ノ態度ニ一般國民ト云フモノノ意思ガ不當ニ左右セラレルヤウナコトニナツテハ困ルト云フ點カラ、此ノ規定ヲ見テ居リマスケレドモ、是ハ皆サンガ色々御話ニナリマシタカラ、サウ云フ點ハ止メテ置キマシテ、唯茲ニ一ツ重ネテ御同ヒシタイノハ、私ハ矢張り最高裁判所ノ判事ダケハ懲戒ノ法規中ニ入レズシテ天皇ノ任命ニシタ方ガ宜イゲラウ、斯ウ云フコトデアリマスガ、是ハ意見デスカラソレダケノコトヲ申上ゲテ置キマス、唯併シ最高裁判所ノ裁判官ノ國民審査ト云フコトニ付テモ、色々アツタコトデアアルカラシテ、重ネテ申上ゲマセウカ、斯ウ

云フコトハ考ヘラレテイモノデセウカ成ル程最高裁判所ノ判事モ、ソレハ今期ハ司法大臣ノ御話ノヤウニ人間タカラ間違ヒガナイト云フコトハ無イノゲカラ、ソレガ何等カ特別ノ第三者カラシテ審査サレテ居ルヤウナ狀況ニアルト云フコトハ、ソレ自身必ズシモ惡イトハ思ヒマセウカ、唯國民ガ審査ニ直接與カルト云フコトハ少クトモ日本ノボウナ所デハドウダラウト思フノデ、何カ茲ニ一ツ審査ノ機關ヲ設ケテ、サウシテ其ノ審査ノ機關ト云フモノガ、國民ノ前ニ於テデナシニ其ノ裁判官ヲ審査シテ居ルト云フヤウナコトヲ設ケルノハイケナイデアリマセウカ、若シソレガ前ノ方ニアリマシタヤウニ、公務員ト云フモノノ罷免ハ、結局國民ノ固有ノ權利ダトカ何トカ云フコトカラ言フナラバ、サウ云フ審査ノ機關ヲ作ルコト自體ニハ、或ハ何カノ方法デ國民ノ意思ヲ入レテ、審査機關ヲ作ツテ置クト云フコトガ宜カラウト思ヒマスケレドモ、直接ニ國民ガ最高裁判所ノ判事ヲ審査スルト云フコトガ大ツビラニ行ハレルト云フコトハ如何カト思フノデスガ、サウ云フ意味ノ審査機關ト云フモノノ國民ノ意思ニ依ツテデモ作ツテ置ク、ソレニ依ツテ何年カ毎ニ審査セシムルト云フヤウナコトハ出來マセウカ、ソレダケノコトヲチヨウト教ヘテ戴キタイ

○國務大臣(金森徳次郎君) 此ノ七十九條ノ國民審査ノ規定ニ付キマシテ色々御意見ノ御前提トシテ御質疑ガアリマスルガ、ソレニ付テ御質疑ヲ爲サル方ガ、此ノ新シイ制度ノ此ノ局部ニ餘リニ或角度カラ重點ヲ御置キニナリ過ギテ居ルノデハナイカ、斯ウ云フ懸念ガスル譯デアリマス、此ノ規定ノ全體ノ趣旨ニハ色々意味ガアリマスケレドモ、而モ其ノ最も重大ナル一ツノ意味ト云フモノハ、結局人間ハ何時デモ金城鐵壁ノ中ニ入レテ置ク譯ニハ行カヌ天皇ハ固ヨリ金城鐵壁ノ中ニ御地位ガナケレバナラヌケレドモ、其ノ代リ又國務大臣ノ助言トカ、翼賛トカ云フヤウナコトデ實質上ノ責任ニ屬シナイヤウニスル、其ノ外ノ者、現實ニ働ク者ハ何處カニ流動的要件ヲ設ケテ居ナケレバナラヌ、斯ウ云フコトカラ出發シマシテ、最高裁判所ノ如キモノハ、如何ナル方法ニ依ツテ其ノ流動性ヲ導キ來ルノカ宜イカト云フコトニナル時ニ、是ハ結局議會ノ流動性、内閣ノ流動性ナドト同ジヤウニ民主政治ノ基本ト云フ所ニ行キマス

ト、餘程微妙デアリマシテ、餘リ露骨ニ一ツノ議論ヲシナイデ國民ノ綜合的ナル結論ニ依ツト云フコトノ方ガ妥當デアラウト云フ考ヘ方デアリマス、固ヨリ國會ノ選舉ト裁判官ノ審査トハ趣旨ハ非常ニ違ツテ居リマスケレドモ、或

○國務大臣(金森徳次郎君) 此ノ七十九條ノ國民審査ノ規定ニ付キマシテ色々御意見ノ御前提トシテ御質疑ガアリマスルガ、ソレニ付テ御質疑ヲ爲サル方ガ、此ノ新シイ制度ノ此ノ局部ニ餘リニ或角度カラ重點ヲ御置キニナリ過ギテ居ルノデハナイカ、斯ウ云フ懸念ガスル譯デアリマス、此ノ規定ノ全體ノ趣旨ニハ色々意味ガアリマスケレドモ、而モ其ノ最も重大ナル一ツノ意味ト云フモノハ、結局人間ハ何時デモ金城鐵壁ノ中ニ入レテ置ク譯ニハ行カヌ天皇ハ固ヨリ金城鐵壁ノ中ニ御地位ガナケレバナラヌケレドモ、其ノ代リ又國務大臣ノ助言トカ、翼賛トカ云フヤウナコトデ實質上ノ責任ニ屬シナイヤウニスル、其ノ外ノ者、現實ニ働ク者ハ何處カニ流動的要件ヲ設ケテ居ナケレバナラヌ、斯ウ云フコトカラ出發シマシテ、最高裁判所ノ如キモノハ、如何ナル方法ニ依ツテ其ノ流動性ヲ導キ來ルノカ宜イカト云フコトニナル時ニ、是ハ結局議會ノ流動性、内閣ノ流動性ナドト同ジヤウニ民主政治ノ基本ト云フ所ニ行キマス

特殊ノ場合ニハ、似タヤウナ氣持
ガ支配シテモ宜イノデハナカラウ
カト云フ氣持カラ、此ノ國民審査
ト云フ途ヲ設ケタノデアリマス、
其ノ結果ノ方法ヲ今度豫想致シマ
スルト、餘程是ハ微温的デアリマ
シテ、裁判シタ後直グニ此ノ審査
ガ起ル譯デモナイ、此ノ憲法ノ豫
想スルヤウニ直グニ來ルコトモア
レバ、十年後ニ來ルコトモアルト
云フヤウナコトデ、歲月ノ經過等
ニ依リマシテ、公平ナモノヲ作ル
ヤウニシ、且又國民ノ心ヲ現實ニ
刺戟致シマセズデ、下ノ裁判官ガ
ドウデアルトカ、ドンナコトヲシ
タト云フヤウニ、刺戟スルコトナ
クシテ、客觀的ニ已ムニ已マレズ
ニ、刺戟スルヤウナ效果ヲ持ツテ
來ルヤウナ風ニ工夫シテ、惡クス
レバ餘リニ微温的デアルト云フヤ
ウニ言ヘルカモ知レマセヌガ、是
ハ大事ナコトデアリマシテ、國民
ガ國民ノ心ヲ見ルト云フヤウナ場
合ガ起ルコトハ望マシクナイノ
デ、此ノコトハ餘程工夫シテ出來
テ居ル譯デアリマス、處ガ今ノヤ
ウニ審査機關ヲ設ケマス、餘程
様子ガ變ツテ具體的ニナルノデア
リマシテ、淵中ノ魚ヲ察見スルハ
不祥ナリト申シマスガ、餘リ觸レ
ナイデ置ク方ガ宜イノヲ、ホジク
リ出シテ毛ヲ吹イテ疵ヲ求メルト
云フヤウナ氣分ノ導キマスコト
ハ、實ハ此ノ制度ノ狙ヒヲ少シ超
越シテ居リハシナイカ、ソコノ所

ヲ避ケタイト思ヒマス
○佐々木惣一君 分リマスガ、ソ
コノ所ハ見方ノ相違デ、私ハ審査
機關ト申シマシテモ、審査ト云フ
ノハ、或機關ガ始終監視シテ居ッ
テ、何か一定ノ機關ニ意見デモア
レバ言フト云フヤウナコトデステ
レドモ、ソレガ一般國民ガ始終十
年毎ニ監視シテ居ルト云フヤウナ
意味デモ宜イデヤナイカト思フノ
デステレドモ、是ハ簡單ナ意見
ハ、ソレカラ今度ハ八十條ニ
付テチヨウト伺フノデアリマスガ
下級裁判所ノ裁判官ハ任期ガ十年
デ、再任サレルトコトガ出來ルトア
リマスノデスガ、是ハ現行ノ制度
ニ比較シマシテ非常ニ珍シイ、現
行制度デハ任期附キノ官吏ト云フ
モノハ減多ニナイノデス、ソコデ
法律上任期ガ十年トナツテ居ル、
此ノ十年ト云フノハドウモ長イト
モ言ヘマスシ、短イトモ言ヘル、
例ヘバ裁判官ノ諸君ニハ恩給ナド
ノ勸定モアリマセウガ、ドウモ十
年デ辭メルト云フ建前ニナツテ居
ルト云フコトハドウカト思フノデ
ステレドモ、ソレハ何トシマシテ
モ、再任出來ルト云フノダカラ宜
イデヤナイカト言フケレドモ、斯
ウ云フコトハイケマセヌカ、其ノ
再任ガ出來ルカ出來ヌカハ、内閣
ノ方デ言フ迄待ツテ居ナケレバナ
ラヌノデスカ、十年經ツタラバ再
任ヲ要求スル、再任ヲ一ツ出願
シテ見ルコトガ出來ルト云フヤウ

ナ、サウ云フ規定ヲ假ニ、此ノ憲
法デ直スコトガ出來ナイトスレバ
他ノ規定ヲ設ケルト云フヤウナコ
トハイケナイモノデゴザイマセウ
カ、憲法ハ此ノ儘ニシテ置イテ
○國務大臣(金森徳次郎君) 此ノ
人事ノ問題ト云フモノハ非常ニ華
奢ナト云ヒマスガ、「デリケー
ト」ナモノデアリマシテ、再任
場合ニ如何ナル判斷ヲ以テ再任ヲ
許スカドウカト云フコトハ、法律
的ニ考ヘルコトノ出來ナイモノデ
アリマシテ、多角形ニ然ルベキ人
ガ考ヘル、斯ウ云フコトニナラウ
ト思ヒマス、此ノ案ハ最高裁判所
ニ付テハ、國民審査ト云フ、マア
比較的明瞭ナ方法ヲ採リマシタケ
レドモ、是ハ政治的ニ餘程識見ヲ
有スルヤウナ人ガ最高裁判所ノ裁
判官ニナルカヲ再任スルコトニシ
タノデアリマスガ、下級裁判所ノ
方ハ左様ニ考ヘル必要ハナイト云
フ譯デ、ソレデ機械的ニ十年デ打
切ルト云フ方法ニ依リマシテ、適
材適所ニウマク按配スル、一ツノ
形式的ノ考慮ヲ致シマシタ、ソレ
カラ最高裁判所ハ、其ノ時ニ又新
タナル「リスト」ニソレヲ載セマ
シテ、サウシテ再任スル、斯ウ
云フ手續ニナリマス、ソコデ最高
裁判所デドウ云フ標準デ以テ其ノ
「リスト」ニ載セルカト云フコト
ハ、此ノ憲法ノ上デハ雲ノ中ニ藏
ツテアリマシテ、露骨ナル形ヲ採
ツテ居リマセヌ、最高裁判所ガド

ウスルカト云フコトハ、相當是カ
ラ裁判所ノ、謂ハバ統一體ト云フ
ヤウナ原理ニ依ツテ十分研究サレ
ルコトト思ヒマスガ、故ナク再任
ヲ拒ムト云フヤウナコトハナカラ
ウト思ヒマス、請求權ト云フ形ヲ
將來採ツテ、勿論採リ得ルカモ
知レマセヌガ、サウ云フ規則ハ出
來マスルケレドモ、其處迄行カ
ナイデ、モット日本ラシイ、日本人
ラシイ、日本ノ組織ラシイ方法デ
其ノ調節ガ取計ラハレルモノト考
ヘテ居リマス
○佐々木惣一君 ソレハ分リマス
ガ、但十年トスルトドウモ裁判
官ニナル人ガ望ミマシ、外國ハ
存ジマセヌケレドモ、日本デハ是
カラ裁判官ニ若イ人ガ欲シイト思
フノデスガ、其ノ事ニ付テ我々ハ
十年ニスルト云フ感ジガ、再任
出來ルニシテモ、アツタラ却テ
良イ人ガ來ナイヤウニナリハセヌ
カトチヨウト疑點ヲ持ツモノデス
カト御尋ネ申上ゲタ譯デアリマ
ス、ソレカラ今度ハ八十一條ニナ
リマスケレドモ、是ハ此ノ間モチ
ヨウト司法大臣ニ御尋ネ申上ゲタ
ト思ヒマス、ソレカラ今日モ他ノ
方ニ對スル御答辯ノ中ニアツタト
思ヒマスガ、ソレハ最高裁判所ガ
法令ノ憲法違反デアルカ否カラ審
査致シマスルコトガ、例ヘバ或法
律ガ出タ、此ノ法律ガ憲法違反デ
アル、ト斯ウ信ジタ國民ガアル、
其ノ時ニ其ノコトトシテ其ノ審査

ヲ頼ムコトガ出來ナイ何カ具體的
ナ事件ガ争ニナツテ、其ノ係争事
件ニ關聯シテ、其ノ係争事件ニ關
係アル、或ハ適用セラレルト申シ
マスガ、サウ云フ法律ニ付テ憲法
違反ト云フコトヲ主張スルコトガ
出來ルヤウナ風ニ伺ツタノデアリ
マスガ、ソレハドウモ私ハドウカ
ト思フ、サウスルト餘リ此ノ規定
ノ適用ハナイカト思ヒマシテ、ソ
コデ私ハ或法律ガ出タ時ニ、其ノ
法律ガ憲法違反デアルカドウカト
云フコト、其ノコトモ一ツ審査シ
テ貫ヘルト云フ風ニシタ方ガ宜イ
ト思フノデアリマスルガ、併シ此
ノ憲法ノ規定ノ解釋デハ、ソレガ
モウ許サル、ヤウニナツテ居ルノ
デノガ、ドウシテ其ノ係争事件ニ
關係シテ法令デナケレバ審査ガ
出來ナイト云フ風ニ司法大臣ハ御
解釋ニナツタノデスガ、是ハチヨ
ウト分ラヌデスガ、金森國務大臣
ハドウデス、是ハ率直ニ意味ニ於
テハソシク關係ハナイノデス、此
ノ八十一條ノ規定ハ實際ニ、ト
思ヒマスガ如何デゴザイマセウカ
○國務大臣(金森徳次郎君) 私ハ
裁判所ト云フモノハ、勿論言葉ハ
可ナリ廣ク用ヒラレテ居リマスル
ケレドモ、マア普通裁判所ト云フ
ハ、個々ノ事件ヲ裁判スルモノデ
アルト、斯様ニ考ヘテ居リマス、
ソコデ此ノ憲法ニ於テ用ヒテ居リ
マスルモノモ總テ其ノ趣旨デアリ
マス、ソコニ唯附加ヘトシテ八十

一條ニ「終審裁判所である。斯ウ云フコトヲ加ヘテ居ル所ニ依ツテ明瞭デアリマスガ、此ノ「終審裁判所である。」ト云フ所ニ意味ガアノデアリマシテ、終審ト云フコトガナケレバ、普通裁判所ト出来ルコトナンデス、デスカラ普通裁判所デ法律其ノモノヲアル權能ガナイト云フコトガ當然デアルトスレバ、ソレガ終審裁判所ト云フ形ヲ取りマシテモ、矢張り個別的ノ事件ヲ裁判スルト云フコトニ當然ナツテ來ルト思ヒマス

○佐々木惣一君

ソレハ先日來ノ御解釋デ分ツタノデスケレドモ、サウシマスルト、折角憲法ト云フモノノ最高ノ法規ヲ我方國家ニ於テ遵スルヤウナ具體的ノ方策ヲ講ズルト云フ力ガドウモ缺ケルヤウナ風ニ思フノデス、詰リサウナルト云フト此ノ最高裁判所ノ憲法問題ト云フモノハ、先決問題トシテノ憲法問題ヲ議スルト云フコトニ結局ナツテシマツテ、憲法違反デアルカドウカト云フコトヲ明カニスルト云フ、此ノ憲法ガ折角御考ニナツタ趣旨ト悖リヤセヌカ、先決問題トシテノ憲法問題ヲ扱フト云フコトニナリハシマス、マイカ、實際上ニソレハマアソレデ宜シウゴザイマス、ソレデ例ハ外ノ國ノ例ヲ申上ゲルト、詰リ最高裁判所ト云フモノガ斯ウ云フ風ニナツテ居ルカラデアツテ、私ノ本當ノ希望ヲ言ハバ、憲法裁判所ト

云フ別個ノモノヲ設ケル、成ル程「アメリカ」等ハサウデヤナイ、最高裁判所デアアル、併シナカラ從來憲法裁判ト云フ時ニハ、大陸流デハ大體特別ノ憲法裁判ト云フヤウナ意味ニ於テ憲法裁判所ト云フコトヲ言ヒ來ツテ居ルノデアルト思ヒマス、「オーストリア」デモ「ドイツ」デモ、サウ云フ意味ニ於テ其ノ憲法裁判所ト云フモノ、裁判所ト云フ言葉ハドウデモ、設ケルト云ケルト云フコトガ私ハ我方國ニ於テ適當ガ、從ツテソコニ他ノ事件トシテ繁屬スルカドウカト云フコトハ無關係デアツテ、憲法裁判所ヲ設ケルカドウカト云フコトハ明カデ、其ノ爲ニサウ云フモノヲ設ケル方宜イト思ツテ居リマシタシ、今モサウ思ツテ居リマスケレドモ、併シナカラサウ云フ風デナイト云フ風ニ御解釋ニナレバ、マア已ムヲ得ナイノデアリマスケレドモ、私チヨツト此處デ申上ゲテ置キタイデスガ甚ダ失禮デアリマスガ、此ノ憲法ノ規定ガ今申シマシタ此ノ法令ノ憲法違反デアルカドウカハ、其ノコトヲ獨自ニ裁判スルコトハ出來ナイノダ、何等カ具體的ノ係争事件ガソレニ關係シテソレガ法令違反デナケレバ取扱ハナイト云フヤウナ御解釋ハ、ドウシテモ政策論デハナシニ、此ノ規定ノ通りダトドウシテモサウハ取レヌト存ジマス、是ハ解釋上ノ意見ノ相違デア

リマスカラ、何ボ言ツテモ仕様ガナイト思ヒマスガ、金森國務大臣ナリ、先日來ノ司法大臣ノ御解釋ニハ私ハ從フコトハ出來ナイト云フコトヲ留保シテ置キマス、サウシテ此ノ問題ハマア宜イト致シマシテ、ソレカラ最後ニチヨツト申上ゲテ御尋シタイノハ、全般的ノ問題デスケレドモ、裁判官ニ對スル所ノ行政官ト云フコトニ付テチヨツト御尋ネ申シタイ、裁判官ハ獨立デアルト云フコトハ、裁判所ト云フ職務其ノモノニ付テノ裁判官ノ獨立デアツテ、裁判官ト雖モ、其ノ職務態度ニ於テ怠ケテ宜イト云フコトニハナラナイノデス、デアリマスカラ、裁判官其ノモノヲ離レタ裁判官ノ職務態度ニ付テハ裁判官ト雖モ監督シナラヌト云フコトハナイ、今日ハドウカ知リマセヌガ、自己ノ職務ヲ惡用シテ、グズ／＼シテ居テモソレハ獨立シタモノナンダカラ宜イト云フコトニナレバ、大間違ヒナンデス、ソコデ是迄規定ノアルヤウニ職務上ノ獨立ハ十分憲法デ認めメテ居ルケレドモ、裁判官ニ對スル職務上ノ態度ニ付テハ監督ト云フコトモ必要ナラデアリマス、ソレハドウ云フ風ニナラ御答デアリマセウカ

○國務大臣(金森德次郎君)

此ノ點ハ今朝司法大臣カラ御答フシタト思ツテ居リマスガ、理論的ニハ内閣ガ其ノ最後ノ司法、何ト申シマスカ、司法ニ關スル行政ニ對スル監督權ノ最後ノモノハ内閣ガ持ツテ居リマス、併シサウ言フト言葉デハ角ガ立チマスガ、事實ハ最高裁判所ガ持ツテ居リマス、理論的ニハ若干ノ差ガ出來ルノデアリマス

○佐々木惣一君

事實ハ最高裁判所ニヤツテ實ト仰シヤイマスケレドモ、内閣ノ權限ハ最高裁判所ニヤツテ實ト譯デセウ、ソレカラ最高裁判所ノミナラズ中間ノ裁判所ト申シマスガ、サウ云フ裁判所ノ長官ナドニモサウ云フ意味ニ於テ行政監督ヲ其ノ意味デ委ネテモ宜イ譯デアリマスネ

○國務大臣(金森德次郎君)

私ハ左様ニシテ宜イト思ツテ居リマス、今朝司法大臣ハ現實ノコトハ私ト同ジヤウナ趣旨ノコトヲ違ツタ言葉デアツテ居ルト考ヘテ居リマス

○佐々木惣一君

ソレカラ最後ニ、是ハ司法大臣ガ才出デニナレバ、司法大臣ノ方宜イトデスケレドモ、例ハバ司法大臣ガ履ミ裁判官ノ長官方、檢察ノ長官方ノ會同ノ時ニ、ドウモ言葉通りニハ今忘レテシマツタケレドモ、屢ミ私ハ思フノデスケレドモ、裁判ノ方針、法ノ解釋、適用ノ方針ト思ハレルヤウナ御訓示ガアルノデスガ、ソレハドウ云フ言葉デ仰シヤウツカト云フコトハヨウ言ハヌデスケレドモ、斯ウ云フ風ニ裁判シ

ア、云フ風ニ裁判シ、或ハ斯ウ云フ風ニ檢察ノアレシヤレト云フヤウナ言葉ガアツタヤウニ思フノデアリマスガ、サウ云フコトハ私ハ司法大臣トシテハ、所謂先刻申シマシタ裁判官ニ對スル行政監督ノ範圍外ニ出テ居ルト思ヒマス、ソレデ以テ裁判ノ人々ガ檢事ハ勿論ノコト、判事ハイヤモウ嚴密主義ダトカ何ト云フコトヲ何ノコトカ分ラヌガ、サウ云フコトヲ司法大臣カラ御訓示ヲ受ケルベキ筈ハナイト思ヒマスガ、此ノ點ハ金森國務大臣ハ能ク御存ジト思ヒマスガ、昔ハ非常ニ嚴格デアツタガ、近年ハ亂レテ居リマス、今ハ裁判所其ノモノニ付テノ上官デアルガ如キ觀ガアル、其ノ點ハ理論的ニハソソコトハ出來ナイデセウ

○國務大臣(金森德次郎君)

現在司法大臣ガドウ云フ訓示ノシテ居ルノカ私モ能ク存ジマセヌケレドモ、多分御説ノヤウナ訓示ハナイダラウト思ヒマス、何か友達向ノ忠告ノヤウナ氣持デアツテ居ルモノト思ヒマスガ、私ニハドウモ御答ヘシニクイト思ヒマス

○佐々木惣一君

宜シウゴザイマス、併シ實際アルノデス、實際サウ云フ訓示ハナイダラウト仰ツシヤウツカトカラ察シマスルト、性質上ハサウ云フ訓示ハ許サルベキモノデナイト云フ風ニ御波ミ取りニナツタモノト解シテ宜シウゴザイマスナ

○國務大臣(金森徳次郎君) 宜シ
ウゴザイマス

○委員長(安倍能成君) 高柳委員
マセヌデシタモノデ、前ニ御答ニ
ナツタコトヲ御聽キスルカモ知レ
マセヌガ、サウ云フ場合ニハドウ
カ御答ニナラナイデ結構デスカラ

第七十六條第二項、「特別裁判所
は、これを設置することができな
い。行政機關は、終審として裁判
を行ふことができない。」ト、斯ウ

書イテアリマスガ、行政機關ト裁
判所トノ關係ニ付キマシテハ一番
問題ニナルノハ、行政機關ト云フ
モノガ「エキスパート」シテ爲シ

タ事實認定ト云フモノヲ「エキス
パート」デナイ最高裁判所ト云フ
モノガ最終裁判所、再審出來ルカ

ドウカ之ヲ出來ルヤウニスルト云
フト色々不都合が起ルノデ、事實
問題ニ關シテハ最高裁判所ニ其ノ

點ヲ更ニ調べテ貫フコトガ出來ナ
イノダト、斯ウ云フヤウナ風ニ段
段ナツテ來テ居ルヤウニ思ヒマ

ス、又實際ノ必要モサウ云フ風ニ
スルコトガ妥當ナノデハナイカト
思フノデアリマスガ、法律問題ニ

付テハ裁判所ニ持ツテ行クコトガ
必要デアルト、斯ウ云フコトハ疑
ナイノデアリマスガ、事件ニ依リ

マシテハ事實問題方即チ問題ト
云フヤウナ事件ガアルノデアアル
ガ、此ノ憲法ノ條項ニ依リマスル

ト、サウ云フヤウナ事實問題ニ付

テモ、ドウシテモ最高裁判所ヲ最
終裁判所、終審裁判所トスルト云
フコトガ必要ニナルヤウニ思ハレ

マスケレドモ、其ノ點不都合ガナ
イノデアリマスカドウカ、其ノ點
ヲ御尋シマス

○國務大臣(金森徳次郎君) 裁判
ト云フモノハ白ラ中味ガアルモノ
デアツテ、詰リ事實ノ判斷ト法律

ノ判斷ト兩方合ンデ、ソレガ一ツ
ノ裁判トナルノデゴザイマス、事
實ヲ離レテ法律ノミヲ裁判スルト

云フコトハ、寧ロ裁判ノ一部分ニ
過ギナイト斯様ニ思ツテ居リマ
ス、併シナガラ事實ヲ裁判スルト

言ヒマスカ、事實ニ付テ判定ヲ致
シマス時ニ、法律ガ色々ナク作
リマシテ、此ノ範圍ノコトハ此處

ニ任セルト云フコトニ規定致シマ
シテモソレハ可能ナコトデアルト
思フノデアリマシテ、左様ナ裁判

ノ部分ヲドウ云フヤウニ分配スル
カト云フコトハ、裁判ニ關スル法
律ヲ然ルベク定メテ宜イト思ツテ

居リマス、此ノ憲法ノ條文ハ、第
七十六條第二項ハ、結局裁判ト云

フモノハ終審トシテ司法裁判所ニ
行カナケレバナラス、途中デ之ヲ
動かシテハナラヌト云フはダケテ

ハツキリ限定シテ居リマシテ、其
ノ中味ヲ如何ニシテ適切ニスルカ

ト云フコトハ今後ノ法律ニ俟ツテ
行カウ、斯ウ云フ趣旨デアリマシ
テ、實際御説ノ通り裁判所ハ法律

事項ノミヲ判斷スルコトガ適スル

ト云フヤウナ意味合ハ確カニアラ
ウト思ヒマスケレドモ、併シ現在

ガ左様ナ段階ニ到達シテ居ルカト
云フコトハ見極メガ付キマセヌ、
茲ハ廣イ言葉ヲ以テ規定シテ居リ

マスガ故ニ、實際ニ於テハ何等ノ
支障ノ起ルコトハ此ノ規定カラハ

ナカラウト思ヒマス

○高柳賢三君 只今ノ點ニ付キマ
シテ事實問題ニ付テハ行政機關ノ
認定ガ中心デアルト云フ法律ヲ作

ツタ場合ニ、ソレハ違憲デナイト
云フ風ノ御考デスカ、或ハサウ云
フ規定ハ憲法上出來ナイト云フ御

考デスカ、其ノ點ハ如何デスカ

○國務大臣(金森徳次郎君) 私ハ
必ズシモ違憲デナイト考ヘテ居リ

マスガ、併シ是ハ實ハマダ當分豫
想シテ居ナイ所デアリマシテ、學
問上ノ論議ニナリマスガ、若シ出

來ルナラバ、他ノ論點ノ發展ノ爲
ニ必要ナラバ茲デ何トカ答辯シテ

ケレバナリマセヌガ、成ルベクナ
ラバ餘裕ヲ殘シテ置イテ戴キタイ
ト思ヒマス

○高柳賢三君 此ノ問題ハ米國等
デハ非常ニ問題ニナツテ居リマシ
テ、矢張り此ノ事實問題ニ付テハ

行政機關ノ認定ヲ以テ最終トシテ
ケレバナラヌト云フコトガ殆ド實
際ニナツテ居ル譯デアリマシテ、

此ノ憲法ノ條項カラ當然矢張り我
ガ國ニ於キマシテモサウ云フヤウ

ナ問題方起ルト思ヒマシテ、サウ
云フヤウナ發展ヲ妨ゲルヤウナ憲

法ノ條項デアルナレバ、再考慮ヲ
シタ方宜イノデヤナイカト云フ

風ニ考ヘマシテ御尋ネシタノデア
リマス、次ニ七十七條ノ問題デア

リマシテ、是ハ今朝私出マセヌデ
間接ニ伺ツタノデ、此ノ規則ヲ作

ル權限ト云フモノヲ最高裁判所ニ
認メル斯ウ云フ制度、是ハ大陸法

ニハ發達シナカウツ制度デ、一
ギリスニ於テ先ヅ十九世紀ノ終

リ頃カラ慣習的ニ段々發展シテ來
タ制度デアリマシテ、是ハ一種ノ

「イギリス」ハ國會主權ヲ認メテ
居リマスノデ、裁判所ニ對スル一

種ノ委任立法、慣習的ニ成立シタ
委任立法デアル、斯ウ云フ風ニマ

ア「イギリス」デハ解釋サレテ居
リマシテ、政府ニ對スル委任立

法ニ付テハ非常ニ問題方起リ、論
議ガ重ネラレテ居リマスルケレド

モ、此ノ司法部ニ對スル委任立法
ニ付テハ誰モ非難スル人ガナイ、

最モ妥當ニ行ハレテ居ル、是ハ殊
ニ民事訴訟ニ關スル手續ノ如キ問

題ハ國會ガ之ニ干渉スルト云フノ
ハ宜シクナイ、ソレ等ノ問題ハド

コ迄モ専門家デアル所ノ裁判官、
辯護士等ノ「グループ」ニ之ヲ全部

御委セハスルト云フノガ正シイ行
キ方デアルト云フコトノ認識ガ斯
ク云フ慣習「イギリス」ニ成立

ウ云フ慣習「イギリス」ニ成立
サセタモノデアラウト思ヒマス、

一種ノ司法部ニ依リテ立法權ノ行使
デアリマシテ、議會ガ之ニ無暗ニ

干渉シナイト云フ所ニ精神ガアル

ノダウト思ヒマス、此ノ制度ガ
丁度千九百二十年頃「アメリカ」

ノ「ヒューズ」ガ「イギリス」ニ
行キマシテ「イギリス」ノ司法ヲ

見學シテ、此ノ規則制定權ノ問題
運用ヲ能ク見マシテ、是ハ「アメ

リカ」ニ於テモ斯ウ云フ方向ニ向
ツテ進マナケレバナラナイノダト

云フコトヲ痛感シマシテ、其ノ後
有ラユル機會ニ於テ此ノ司法部ニ

依リテ立法權ノ行使ト云フ問題ヲ雜
誌等ニ於キマシテ宣傳シマシテ、

遂ニ大審院ニ於キマシテ職權最高
裁判所ニ於キマシテ慣行的ニ斯ウ

云フ同ジヤウナ慣行ガ成立スルコ
トニナリ、更ニ其ノ成績ガ非常ニ

良好デアルト云フノデ州ノ裁判所
ニ於テ、州ニ於テモ同様ニ慣行ト

云フモノガ成立スルト云フヤウニ
ナリ、而モ或州ニ於テハ憲法デ此

ノ權利ヲ保障スルト云フ所迄進展
シテ居ル州モアル、私ハ此ノ憲法

ヲ讀ンデ見マシテ、是ハ最モサウ
云フ方向ニ向ツテ極端ナ所迄進

デ居ル立法ダ、即チ憲法ニ依ツテ
此ノ最高法院ニ依リテ立法權ノ行使

ト云フモノヲ保障シテ居ルト云フ
意味ハ、國會ノ干渉ヲ排除スルト

云フ所ニ意味ガアツテ、細カイ規
則ナドヲ拵ヘル權能等ヲ憲法デ保

障スルト云フコトハ「ナンセンス」
デアルト思ヒマス、サウヂヤナク

テ、最高法院ト云フモノヲ大イニ
信賴シ、ソレニ事後ニ關スル問題

ニ付テ自ラ國會ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ノ干渉ヲ排シテ之

ヲ自治的ニ規律スルト云フコトヲ
憲法的ニ認メタ所ニ此ノ條項ノ本
當ノ精神ガアルノダト思フノデ、
從ツテ政府ハサウ云フ意味デ御書
キニナツタノデヤナイ、是ハ補充
立法ト云フモノガ主デアツテ、裁
判所ガ細カイ規律ヲ作ルノダト云
フヤウナ解釋ハ此ノ規則制定權ノ
沿革ニ照シマシテ、實ニ驚クベキ
解釋デアリヤウニ私ニハ思ハレル
ノデアツテ、司法權ニ折角與ヘラ
レタル大キナ自治ノ力ト云フモノ
ヲ自ら捨テ去ツテシマフト云フ解
釋デアルト云フ風ニ私ハ考ヘルノ
デ、其ノ意味デ此ノ規定ノ解釋ニ
關スル政府ノ御解釋、是ハ私今朝
出マセヌデシタカラ其ノ解釋ハ或
ハ間違ヒカ知レマセヌガ、若シサ
ウデアルトスルナラバ、其ノ解釋
ハ此ノ條項ト云フモノヲ全部殺シ
テシマフ解釋デアラウト思フノデ
アリマス、尤モ此ノ最高裁判所ノ
規則制定權ニ付キマシテモ、刑事
訴訟ノ範圍迄ソレヲ及スベキヤド
ウカト云フコトニ付テハ立法上相
當ニ問題ガアルト思フノデ、民事
訴訟ニ關シテハ全部斯ウ云フ規定
ガアツテモ宜イノデアルケレドモ
刑事訴訟迄一切裁判所ニサセシ
マフト云フコトガ果シテ宜イカド
ウカト云フコトニ付テハ相當疑ガ
アリ、相當議論モアル所デアリマ
スガ、從ツテ茲ニ訴訟ニ關スル手
續ト云フノハ、是ハ民事訴訟ガケ
レテ言フノカドウカト云フコトニ付

テ解釋上英譯文ノ方ト對照致シマ
スト、相當訴訟ト云フ廣イ言葉デ
宜イノカ、是ハ寧ロ民事訴訟ノコ
トヲ言ツテ居ルノデヤナイイカト云
フヤウナ點、ソレニ付テ疑ヲ持ツ
テ私ハ讀ンダノデアリマスガ、日
本文ノ方デハ刑事訴訟ヲモ含ムヤ
ウニ讀メルノデ、其ノ點ハ是ハ民
事訴訟ニ關スル手續ナラバ非常ニ
結構ナ規定デアラウト思フノデアリ
マス、次ニ第二項ニ於キマシテ、
「檢察官は、最高裁判所の定める
規則に従はなければならない」、
斯ウ云フノハ非常ニ書キ方ガ、寧
ロ最高裁判所ハ檢察官ニ付テ規定
ヲ設クルコトヲ得ルト云フ意味ナ
ラバ前後相應スルノデスガ、此處
ダケデ檢察官ガ何方義務ヲ負フヤ
ウナ形デ書イテ居ルノハ、書キ方
ガ非常ニ惡イデヤナイカト云フ
風ニ考ヘルノデ、英譯文ノ方ハ其
ノ點ニ付テ極メテ今私方申シマシ
タヤウナ意味合ニ書イテアルト信
ズルノデアリマスガ、此ノ書キ方
ニ付テハ相當文句ノ修正ト云フヤ
ウナコトガ考ヘラレルノデハナイ
カト思ハレルノデアリマス、七十
七條ニ付キマシテハ、或ハ既ニ十
分ニ政府ノ御見解ヲ供セラレタノ
デアリマセウカラ、更ニ或ハ附加
ヘラレルコトハナイカモ知レマセ
ヌノデ、併シ何カ御意見ガアリマ
シタラバ更ニ伺ハサセテ戴キタイ
ト思ヒマス

○國務大臣(金森德次郎君) 此ノ
憲法ハ國會ノ所ニ於キマシテ、國
會ガ唯一ノ立法機關デアリ、サウ
云フ風ニ致シマシテ從ツテ立法ト
云フベキ範圍ノモノヲ他ノ所デア
フト致シマスレバ、ソレニ付キマ
シテハ特別規定ヲ憲法ノ中ニ設ケ
ルコトガ必要デアルト考ヘマス、
是ノ故ニ國會ノ兩院ノ所ニ於キマ
シテハ、兩院ガ自己ノ規定ヲ作リ
得ルト云フコトヲ規定シテ居リマ
ス、又裁判所ニ於キマシテモ最高
裁判所ガ或程度ノ立法的规定ヲ爲
シ得ルト云フコトヲ明カニシテ居
リマス、ソレハ唯作り得ルト云フ
權能ヲ明カニシタノデアリマス、
其ノ作ツタモノガ他ノ立法權ヲ排
除スルト云フ所迄ハ此ノ憲法ニハ
認メテ居リマセヌ、ソレハ憲法自
體ノ書キ方ガ之ヲ示シテ居リマス
ルシ、又國會ガ最高機關デアリ、
又立法權ヲ包括的ニ持ツテ居ルト
云フコトカラ願ミテ略々同ジヤウ
デアルト思ヒマス、若シ例ヲ日本
ノ現行ノ憲法ニ取リマスルナラ
バ、法律ハ或範圍ノコトヲ規定シ
テ居ルト云フコトガアル、憲法九
條ノ獨立命令ハ斯ウ云フコトヲ規
定シ得ルト書イテアリマス、憲法
九條ノ命令ガアルカラ法律ノ方ガ
排除サレルト云フ解釋ヲ取ツテ居
リマセヌ、兩々相對立シテ行ハレ
得ルト云フ風ノ趣旨ヲ取ツテ居リ
マス、此ノ場合モ合クソレト同ジ
デアリマシテ、規定ハ出來ルンダ
ト云フコトヲ言ツテ居リマス、其

ノ効力ノ強弱ニ至リマシテハ、一
般ノ原理ニ依ツテ解決スルコトハ
尙今ノ憲法ノ解釋ト同ジヤウデア
ツテ然ルベキト考ヘテ居リマス、
併シ固ヨリ斯様ヲ補助立法ヲ認メ
マシタコトハ謂レガナイ譯デア
リマセヌ、實際ニハ斯様ヲ補助立
法ノ方法ヲ採ルコトガ都合ガ好イ
カラ斯ウ云フ規定ヲ設ケタノデア
リマシテ、政治的ナモノヲ、立法
的ニハソチヲノ方ヲ尊重シテ行ク
ベキデアリマセウガ、法律的ノ解
釋ト致シマシテハ、私ガ今申上ゲ
マシタ處ニ歸著スルト思フノデア
リマス、ソレカラ此ノ七十七條ノ
二項ニ付キマシテハ、御趣旨ノア
ル所ト此ノ二項ノ規定トハ成ル程
言葉ノ上ニ差ハアリマス、併シ結
局内容的ニ歸著スル處ハ同ジコト
デアリマシテ、強ヒテ是ノ内容ニ
付テ御示ニナツタヤウナコト合
フカ合ハナイイカヲ御答ラシナクテ
モ、一ツノモノヲ色々ノ角度カラ
規定出來ルノデアリマスカラ、從
ハナケレバナラナイト云フコトニ
ナレバ、其ノ前提ニ於テサウ云フ
方向ニ向ケテ居ル規則ヲ作ルンダ
ト云フコトモマア「インプライ」
サレテ居ルヤウニ考ヘル譯デアリ
マス

○高柳賢三君 此ノ七十七條ト國
會ノ立法權トノ限界ノ問題ハ、結
局國會ノ法律ニ違反スル規則ヲ最
高裁判所ガ制定シタル場合ニ於テ
ドツチガ優先スルカ、斯ウ云フ問
題ニナルトモ思フノデアリマス、
私ハ憲法ニ於テ最高裁判所ノ是等
ノ問題ニ關スル立法權ヲ保障シテ
居ルト云フ見地カラ、是等ノ事項
ニ關スル限りハ國會ノ作ル法律ニ
優先シテ、最高裁判所ノ立法ガ適
用サレルノダ、斯ウ云フ風ニ解釋
スルノデアリマスケレドモ、其ノ
點ハ如何デアリマスカ
○國務大臣(金森德次郎君) 其ノ
點ハ二重ノ論點ガアラウト思フノ
デアリマス、重複シテ居ルト云フ
コトニ依リマシテ、一般ノ原則カ
ラ申シテ重複スル規定ガアリマス
レバ、所謂上級法ガ下級法ニ勝ツ
ト云フコトモ言ヘヨウト思ヒマ
ス、ソレガ先ツ基本的ナ原理デア
リマス、其ノ見地カラ申シマスレ
バ、今御説デハアリマシタケレド
モ、結局最高裁判所ノ規定ト國會
ノ定ムル規定ト相反スル場合ニ於
キマシテ國會ガ定メタ所ノ法律ガ
効力ヲ持ツト云フコトニナラウト
思フノデアリマス、併シ他ノ一面
カラ申シマシテ、一般法、特別法
ト申シマスルカ、實際ニツノ法則
ガ形ノ上デ相抵觸シテ居リマス場
合ニ、單純ニ上級法ノミガ勝ヲ占
メルト云フコトハ言ヒクイ場合
ガアリマシテ、現實ニハ個々ノ規
定ニ依ツテ靜カニ解釋シナケレバ
ナラヌト考ヘテ居リマス
○高柳賢三君 或ハ私ノ考ヘテ居
ルノト、政府ノ御考トハ少シ喰ヒ
違ツテ居ルヤウニ感ジマスケレド

モ、此ノ點ハ議論ニナリマスルノ
デ、此ノ程度デ止メマシテ、更ニ
此ノ問題ニ付キマシテハ司法部
十分ナ御考慮ヲ御願ヒシテ、司法
部ト云フモノニ與ヘラレタスウ
フ大キナ力ヲ司法部自ラ拾テ去ツ
テシマフト云フヤウナコトヲナサ
レナイヤウニ希望ヲ述ベマシテ、
此ノ七十七條ニ關スル質問ハ打切
リマス、次ニ七十九條デアリマス
ガ、七十九條ノ三項「前項の場合
において、投票者ノ多數ガ」云々
ト書イテアリマスガ、此ノ多數ト
云フノハ過半数ノ意味デアリマ
スネ

○國務大臣(金森徳次郎君) 實質

ニ於テ過半数ノ意味デアリマス、
併シ此處ニ多數ト書キマシタコト
ハ幾分ソレトモ違ヒ得ル形ガアリ
マシテ、法律デ之ヲ定メルト云フ
其ノ法律ニ依リマシテ、或程度ノ
影響ヲ受ケルモノト考ヘテ居リ
マス

○高柳賢三君 サウスルト、法律

デ以テ、例ヘバ三分ノ二ト云フ風
ニ定メルコトモ出來ルト云フ趣旨
デ、過半数ト書カズ、之ヲ多數ト
御書キニナツタ、斯ウ云フ趣旨デ
アリマスガ

○國務大臣(金森徳次郎君) 此處

ノ所ハ大體ノ立法ノ精神ハ過半数
ト云フ意味デアツタノデアリマ
ス、憲法ヲ定メマス精神ハ過半数
ト云フ意味デアツタノデアリマ
ス、併シ單ニ此處ニ多數ト書キマ

シタノハ、此ノ場合ノ投票ノ計算
ト云フモノガ可ナリ困難ナ場合ガ
起リマシテ、本來ノ選舉ニ使フ投
票ト、又其ノ投票ニクツ付テ此
ノ裁判官ノ審査ノ投票ガアリマス
ノデ、之ヲ計算致シマシタ時ニ、
何ゾ標準ニ執ルカト云フヤウナ色
色ナ複雑ナ問題ガ起リ得ルト考ヘ
マシテ、ソコデ詳細ヲ法律ノ方ニ
委スト云フコトニシテ、「審査に
關する事項は法律で之を定める」
ソレカラ本體ハ多數ト、斯ウアル
譯デアリマス、デスカラ多數ト云
フコトノ持つテ居ル一般ノ注意議
ノ範圍内ニ於テ必要デアツテ、然
ルベク規定シ得ルモノ、斯ウ云フ
風ニ考ヘテ居リマス

○高柳賢三君 此ノ七十九條ニ付

キマシテハ、本會議ニ於キマシ
テ、私ハ此ノ國民投票制度ト云フ
モノハ利益ヨリモ寧ろ弊害ガ多イ
ノチヤナイカト云フ點ヲ指摘致シ
マシタノデアリマシテ、私自身ト
シテハ此ノ制度ニハ反對デアリマ
ス、其ノ時モ申上ゲマシタヤウ
ニ、米國ニ於キマシテモ、聯邦司
法制度ニ於テハ斯クノ如キ規定ト
云フモノハ一切ナイノデアリマ
ス、又一般ノ「アメリカ」ノ法律
家ト議論シマスレバ、斯ウ云フ制
度ハ非常ニ悪イ制度ト言フ人ガ
多數ダラウト思ヒマス、尤モ西部
ノ州ニ於テハ之ニ類似シタ制度ト
云フモノガアリ、恐ラクハ此ノ案
ハ千九百三十四年「カリフォル

ニア」ノ立法ニ示唆ヲ得タモノダ
ラウト思フノデスケドモ、是ハ餘
程考ヘナイト云フト、裁判官ト云
フモノヲ政治化サセルト云フ弊害
ニ陥ルノデハナイカ、裁判官トシ
テ一番容易イ途ハ、議會ヲ通過シ
タ法律ハ全部憲法ニ違反シナイト
云フ風ニ判決シテ置ケバ、當リ障
ラズ、自分ノ身分ニモ影響ガナ
イ、ソレヲ多數ノ人間ニ逆ツテサ
ウシテ是ハ違憲ダト言ツタ場合ニ
ハ相當ナ政治的波紋ヲ惹起シマ
シテ、彼ハイカヌト云フヤウナ非
難ノ聲ヲ相當ニ起スノデハナイ
カ、サウ云フヤウナ意味合ニ於キ
マシテ、若シモ制度ト云フモノ、
即チ裁判所ニ依リ違憲立法審査制
度ト云フモノヲ活カシテ行カウト
云フ場合ニ於キマシテハ、普通ノ
裁判官以上ニ最高裁判所ノ裁判官
ト云フモノハ、身分ノ保障ト云フ
モノヲシツカリシテ置カカケレバ
駄目デアル、從ツテ政治的ノ外部
ノ勢力ト云フモノカラ全部絶縁シ
テ、國家ノ永久ノ利益ト云フモノ
ノミニ著眼シテ、違憲デアル、違
憲デアナイト云フコトヲ言ヒ得ル人
間ト云フモノヲソコニ置カカケレ
バナラナイ、而モ制度的ニ之ヲ保
障スルト云フコトガ絶対必要デア
ラウト思フノデアリマス、斯ウ云
フ制度ト云フモノヲ認メマスルナ
ラバ、裁判官ト云フモノガ或ハ自
己ノ爲シタ判決ヲ辯護シナケレバ
ナラヌ、裁判官ガ自己ノ爲シタ判

決ヲ辯護スルト云フノハ最モ怪シ
カラヌト云フコトニ一般ニ考ヘラ
レテ居ル、又政治運動ニ裁判官ガ
乗出シテ演説ヲヤリ出シタリ何カ
スルト云フコトニナルコトハ裁判
官トシテ最モ慎マナケレバナラナ
イコトダラウト思フ、從ツテ色々
ナ角度カラ觀察致シマス、此ノ
制度ト云フモノハ若干ノ利益ガア
ルトシテモ、是ハ害ノ方ガ非常ニ
多イ、サウ云フ風ニ私ハ考ヘルノ
デアリマス(拍手)其ノ意味ニ於テ
此ノ條項ハ御撤回ニナツタ方ガ宜
イノチヤナイカト思フノデアリマ
ス、「大賛成」ト呼フ者アリ併シ
萬已ムヲ得ズ斯ウ云フ「ライン」デ
考ヘナケレバナラヌト云フ場合ト
ラバ、過半数ト云フヤウナコトデ
ナク、之ヲ三分ノ二ト云フヤウナ
コトニシマスレバ、此ノ規定ハ或
ハ骨抜キニナルダケニ無害ニナツ
テ來ルノデハナイカト云フ風ニ考
ヘルノデアリマシテ、此ノ多數ト
云フコトヲ御尋ネシタノハ其ノ點
カラ非常ニ私ハ重要性ガアルト思
ツテ御尋ネシタ講デアリマス、併
シ此ノ點モ或ハ既ニ度々政府ニ於
テ御答ヲサレタコトト思ヒマスガ
ラ、更ニ別ニ御附加ニナル點ガナ
ケレバ御答ヲ求メマセヌ、次ニ
八十一條ニ移リマス、政府ノ元ノ
案デハ最高裁判所ハ終審裁判所
ダ、斯ウ云フコトヲ謳ツテ、次ニ
法律、命令、規則又ハ處分ノ憲法
ニ適合スルカドウカヲ決定スル權

限ヲ有ツテ居ルノデアル、斯ウ云
フ風ニ書イテアリマスカラ、最高
裁判所以外ノ裁判所、下級裁判所
ガ法律ガ憲法ニ違反スルカドウカ
ト云フコトヲ決定スル權限ヲ否定
シテ居ルヤウニ見ラレルノデアリ
マスルケレドモ、衆議院デ修正ニ
ナリマシタ此ノ原案ニ依リマスレ
バ、ドツチニモ解釋出來ル、最高
裁判所ダケガ違憲立法ノ審査權ヲ
持つノデハナクシテ、最高裁判所
ハ終審裁判所デハアル、併シナガ
ラ外ノ裁判所モ矢張り審査ガ出來
ルノダト云フ風ニ解釋出來ルノデ
アリマスガ、此ノ點ハ政府ノ御考
ハ、此ノ憲法デハ下級裁判所ニハ
サウ云フ權限ガナイノダ、ソレガ
唯一ノ解釋デアルト云フ御考デア
リマスルカ、或ハ又是ニ二ツニ解
釋出來ルケレドモ、此ノ下ニ於テ
立法スル場合ニ於ケル政府ノ政策
ハ、下級裁判所ニハ之ヲ決定スル
權限ヲ與ヘナイデ、最高裁判所ノ
ミニ之ヲ與ヘル、斯ウ云フ趣旨デ
アリマスカラ、其ノ點ヲ御質問致
シマス

○國務大臣(金森徳次郎君) 解釋

ト致シマシテハ、是ハドツチラデモ
含ミ得ル、詰リ憲法ニ適合スルカ
ドウカヲ審査スルコトハ下ノ裁判
所ニモ認メ、上ノ裁判所ニモ認メ
ル、斯ウ云フ風ニモ出來ルシ、上
ノ裁判所ニモ認ムルコトニシテ
モ宜イ、詰リ是カラ裁判所ニ關ス
ル規定ヲ拵ヘマスル時ニ於テ然ル

ニ適合スルカドウカヲ決定スル權
限ヲ有ツテ居ルノデアル、斯ウ云
フ風ニ書イテアリマスカラ、最高
裁判所以外ノ裁判所、下級裁判所
ガ法律ガ憲法ニ違反スルカドウカ
ト云フコトヲ決定スル權限ヲ否定
シテ居ルヤウニ見ラレルノデアリ
マスルケレドモ、衆議院デ修正ニ
ナリマシタ此ノ原案ニ依リマスレ
バ、ドツチニモ解釋出來ル、最高
裁判所ダケガ違憲立法ノ審査權ヲ
持つノデハナクシテ、最高裁判所
ハ終審裁判所デハアル、併シナガ
ラ外ノ裁判所モ矢張り審査ガ出來
ルノダト云フ風ニ解釋出來ルノデ
アリマスガ、此ノ點ハ政府ノ御考
ハ、此ノ憲法デハ下級裁判所ニハ
サウ云フ權限ガナイノダ、ソレガ
唯一ノ解釋デアルト云フ御考デア
リマスルカ、或ハ又是ニ二ツニ解
釋出來ルケレドモ、此ノ下ニ於テ
立法スル場合ニ於ケル政府ノ政策
ハ、下級裁判所ニハ之ヲ決定スル
權限ヲ與ヘナイデ、最高裁判所ノ
ミニ之ヲ與ヘル、斯ウ云フ趣旨デ
アリマスカラ、其ノ點ヲ御質問致
シマス

ベク考慮シテ宜イモノト考ヘテ居
リマス、唯一ノ場合ニ於キマシテ
此ノ問題ヲ解決スル終審裁判所ハ
最高裁判所デナケレバナラヌト云
フ要件ガ現實ニ存在シテ居ル、斯
ウ云フ風ニ了解シテ居リマス。

○高柳賢三君 立法政策トシテ此
ノ憲法ノ下ニ於テ下級裁判所ニ違
憲立法ノ審査權ヲ與ヘル方ガ宜イ
カ悪イカ、此ノ問題ハ昔カラ非常
ニ議論サレタ問題デアリマスガ、
矢張りドウモ此ノ制度ヲ認メル以
上ハ、下ノ方カラドン／＼ヤツテ
行ケルヤウニシタ方ガ宜イノデハ
ナイカト云フ風ニ思フデアリマ
シテ、所謂憲法裁判所ト云フモノ
ヲ一ツダケ拵ヘテヤルト云フ制度
デハ本當ニ憲法ト云フモノガ法律
家ノ頭ニ滲込マナイ、憲法ハ特別
ノモノデアツテ裁判所ダケガヤル
モノデアアル、一般法律家ト云フモ
ノハ大シテ關心ヲ持タナイデモ宜
イノダト云フ風ニ考ヘラレル虞ガ
アル、寧ロ此ノ制度ヲ徹底サセ、
憲法ト云フモノヲ一般法律家ノ頭
ニシツカリ入レルノニハ、有ラユ
ル訴訟段階ニ於テ、此ノ點ガ争ハ
レ得ルト云フコトニシタ方ガ宜イ
ト思フデアリマスケレドモ、是
ハ憲法其ノモノノ問題デナクテ、
立法政策ノ問題ニナリマスルノ
デ、一時其ノ點ハ質問ヲ留保致シ
マス、次ニ矢張り二項デ、「一切
ノ法律、命令、規則又は處分」斯
ウ云フ文字ガ使ツデアリマスガ、

命令、規則ト云フノハ十六條ニモ
既ニ現レタ文句デアリマスガ、規
則ト云フノハ、是ハ命令ノ中ニマ
ア含マレル意味ノ規則カト思ヒマ
スガ、或ハ此ノ憲法ダケヲ讀ミマ
スルト云フト、此ノ規則ト云フノ
ハ、裁判所ノ作ツタ規則ト云フ風
ニ讀メルノデ、恐ラクハ英文ノ方
ハ「ルールズ」ニハナツテ居ラナ
イデ、「レギュレーション」ト云
フノデ、命令ト云フノヲ英米人ガ
書ケバ、「オーディナナンス・オ
ア・レギュレーション」斯ウ云フ
ヤウニ分ケテ書クノガ普通デアリ
マスノデ、是ハ矢張り規則ト云フ
ノハ、裁判所ノ規則、最高裁判所
ノ規則制定權ノ問題モアリマス
シ、ドウカト云フ風ニ考ヘラレル
ノデアリマスガ、此ノ點ト、モウ
一ツハ處分デアリマス、處分ト云
フノハ、條約締結ト云フコトモ矢
張り處分ノ中ニ入ルノカドウカ、
此ノ點ハ前ニ質問シタデアリマ
スケレドモ、十分ナ御回答ガナカ
ツタト記憶致シマスルノデ、處分
ノ中ニ條約締結ト云フモノモ人ル
カ、條約ガ憲法ニ適合スルカ否カ
ト云フコトヲ決定スル權限ト云フ
モノ處分ノ中ニ入ルノカドウカト
云フ點ヲ御尋ね致シマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 命令
規則、此ノ二ツノ言葉ハ、廣義ノ
命令ト云フコトト同ジデアリマ
ス、唯此ノ憲法ガ既ニ規則ト云フ
文字ヲ特殊ナ必要カラシメ使ツ

居リマスルガ故ニ、唯命令ト云フ
言葉ダケデ言ヒ現スコトガ不自然
デアリマスルカラ、命令ト規則、
二ツ列ベマシテ、廣義ノ命令ヲ全
部是デ「カバー」スル、斯ウ云フ
考ヲ以テ出來テ居リマス、條約ガ
處分ニ屬スルヤ否ヤト云フコト
ハ、稍々特殊ナ問題デアリマシ
テ、普通ノ意味ニ於キマシテ條約
ヲ締結シタ其ノ條約自體ガ處分ト
云フコトニハナラナイト考ヘテ居
リマス、問題ハ、若シモ條約ガ憲
法ニ違反シタラバ、ソレハ最高
裁判所ガ其ノ無効ヲ宣言スルカド
ウカ、斯ウ云フコトニ實質ガ懸ツ
テ來ルト存ジマシテ、其ノ點ニ付
キマシテハ、本會議ニ於テ御答ヲ
シタカドウカ、ハツキリ覺エテ居
リマセヌケレドモ、多分御答ヲシ
タト考ヘテ居リマスルガ、條約ハ
直接ニハ此ノ八十一條第二項ノ裁
判所ガ決定スル權限ノ範圍ノ中ニ
ハ含マセテ居リマセヌ、實際ニ於
キマシテ其ノ條約ガ如何ニナルカ
ト云フコトハ、國際關係ノ基本ト
スル問題トシテ別ニ考慮セラレテ
然ルベキモノト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 左様
ナコトハ言ツタ覺エハゴザイマセ
ヌ、命令ト規則トノ二ツヲ以テ廣
義ノ命令ヲ充實スル意味デアリマ
ス、而シテ何故規則ト云フ言葉ヲ
使ツタカト言ヘバ、此ノ憲法自體
ニ既ニ規則ト云フ言葉ヲ使ツテ居
ルカラ、命令ダケニスレバ言葉ガ
狭過ギル、ソコデ命令ト規則ヲ併
セテ此處ニ掲ゲタ、斯ウ申上ゲタ
積リデアリマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

○國務大臣(金森徳次郎君) 例ハ
最高裁判所ガ下級ノ裁判所ニ委
任シテ、ソコデ作ル規則ノヤウナ
モノモアラウト思ツテ居リマス。

ヲ以テ國內法ニ於テ認メラレテ行
カナケレバナラナイカト云フコト
ニ付キマシテハ、相當困難ナ問題
ヲ含シテ居ルト考ヘマス、ソレ等
ハ學問及ビ、若シアルナラバ其ノ
他ノ條件ト併セテ考慮シテ、個
個ノ場合ニ考ヘナケレバナラヌト
思フテ居リマス、最高裁判所ノ此
ノ此處ニ掲ゲマシタ権能ハ、特ニ
ハツキリ積極的ニ之ヲ持ツテ居ル
ト書イタケテアリマシテ、此ノ
外ニ尙特別ナルハツキリシタ理由
ニ基イテ、條約デモ國內法の價値
ヲ持タザルモノニ付テハ、此ノ適
用ヲ拒ムコトハ因ヨリ出來ルト思
ヒマス、併シ此處ニ概括シテ書ク
コトハ出來マセヌカラシテ、ソコ
デ此處ノ所ハ條約ニ關スル規定ヲ
除イタノデアリマス、斯様ニ申上
ゲタケテハ或ハ不十分デアラウ
ト思ヒマスガ、例ヘバ條約ヲ結ブ
ニ必要ナ國內法上ノ要件ヲ充タサ
ズシテ條約ヲ結ンダ、詰リ内閣ノ
議ニ依ツテ、尙其ノ他ノ手續ヲ以
テ結ブベキ條約デアリナガラ、其
ノ手續ヲ用ヒズシテ、二個ノ出先
官憲ダケ別條約ヲ締結シタト云フ
ヤウナ場合ニハ、ソレハ條約自身
ガ法律的ニ適格ナル效力ヲ持チマ
セヌ、最高裁判所ハ其ノ適用ヲ拒
ムト云フコトハ固ヨリアルベキコ
トデアラウト思ヒマス、併シ條約
自身ハ國際關係ニ於テ其ノ權限ノ
見地ニ於テ適法ニ成立シタ條約ヲ
此ノ裁判所ガ否定スルト云フコト

ハ、國際關係ヲ尊重スル建前ト致
シマシテハ不適當デアラウト考ヘ
マスルガ故ニ、其ノ趣旨ハ此處ニ
ハ規定シテアリマセヌ

○高柳賢三君 此ノ問題ハ米國ニ
於キマシテハ、矢張り憲法ニ違反
スル條約ハ無効デアルト云フコト
ハ總テノ法律カラ争ヒナイ所ト思
ヒマスガ、裁判所モ矢張り其ノ建
前デ振舞ツテ居ルヤウデアリマス
ガ、併シ實際ハ一遍モマダ憲法ニ
違反シタ條約ガ、憲法ニ違反シタ
理由デ無効トサレタ例ハ一ツモマ
ダナイヤウニ思ヒマス、從ツテ是
ハ矢張り最高裁判所ニ其ノ點ノ審
査權ガアルンダト云フ建前ヲ執ラ
レテ置イテモ、條約尊重ノ原則ト
云フモノカラ解釋ニ付テ、色々調
節シテ之ヲ違憲デアルト云フヤウ
ナコトハナイヤウニスルト云フノ
ガ、一ツノ司法政策トシテ適當ナ
モノデナイカト思ヒマス、是ハハ
ツキリ此ノ審査權ガアルンダ、斯
ウ云フ風ニ言明サレテ宜インデヤ
ナイカト云フ風ニ私ハ考ヘルノデ
アリマス、併シ只今ノ金森國務大
臣ノ御説明ハ諒ト致シマス、是デ
私ノ質問ハ……

○松村眞一郎君 前ニ三十三條ト
御尋ネ致シマス、前ニ三十三條ト
三十五條ノ規定ヲ、司法ノ部デ併
セテ質問スルト云フ意味ニ於テ、
留保サレテ居リマスカラ……三十
三條、三十五條ノ中デアリマス、
「司法官憲」ノ意味デス、是ハ今

朝カラ議論ガアリマシタガ、私ハ
マダソレデハ了解ガ出來マセヌ、
ソコデ此ノ憲法ニ於キマシテ「司
法」ト云フ字ヲ何處ニ書イテ居ル
カト申シマス、此ノ三十三條
ト、三十五條ノ末項ト、ソレカラ
今表題ニナツテ居リマス「司法」
ト云フ所ニアル譯デアリマス、此
ノ文字ト、ソレカラ「司法事務」
ト云フノガ何處カニアリマシタ、
此ノ第六章ノ表題ガ「司法」デス
七十六條ニ「すべて司法權ハ」ト
云フ「司法」ソレカラ七十七條ニ
「司法事務處理」ト云フコトガア
リマス、ソコデ司法ノ章ノ表題ノ
「司法」ト云フコトト、司法權ノ
「司法」ト云フコトト、ソレカラ
三十三條ノ「司法」ト三十五條ノ
「司法」ト云フモノハ、同一ニ考
ヘナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居
ル、從ツテ是ハ裁判所ニ限ルト云
フ解釋ノ外解釋ノ途ナシ、解釋ト
申シマセヌ、見解デス、見解ノ外
仕様ガナイ、「司法官憲」ト言ヒ
ナガラ、若シ此ノ「司法官憲」ノ
「憲」ト云フノヲ取ツタラドウデ
スカ、ソレハ裁判官ニ定ツテ居
ル、「憲」ト云フ字ヲ附ケルト、
直グ上ノ字ガ檢察官モ入ルト云フ
解釋ハ何處カラ出テ來ルノデアリ
マスカ、之ヲ司法大臣ニ伺ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答
ヘ致シマス、「司法」ト云フ文字
ノ詮議デアリマスガ、詮議ハ姑ク
指イテ、此ノ「司法官憲」ト云フ

文字ヲ使ツタ意味ニ於キマシテハ
今朝程モ申上ゲマシタヤウニ、裁
判官、檢察、司法警察官ヲ含マセ
ル意味デアルト云フコトヲ申上ゲ
タノデアリマス

○松村眞一郎君 含マセル意味デ
アツテモ讀メマセヌト云フコトヲ
斷言シテ置キマス、今申シマシタ
如ク、司法ト云フ字ヲ解釋スルノ
ハ、憲法ノ中デ捜スヨリ仕様ガナ
イ、司法官憲ト云フ字ハ何處ニ、
憲法ノ中ニ檢察官ト云フノハ何處
ニアリマスカ、即チ司法部ノ七十
七條ニアリマス「檢察官ハ」ト云
フ……司法部ノ中ニ檢察官ト云フ
字ガアルカラ表題ノ司法ト云フ、
「司法」ノ中ニハ檢察官モ入ルト云
フ解釋デスカ、ソレヲ伺ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 檢察
官モ此ノ「司法官憲」ト云フ中ニ
包含セシメル意味ト御解釋願ヒマ
ス

○松村眞一郎君 御解釋願フト言
ツテモ、私ハ解釋出來ナイト思ヒ
マス、今立法シテ居ルノデス、立
法シテ居ルカラ申ス、ドウシテサ
ウ云フ解釋ガ出テ來ルノデスカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答
ヘ申上ゲマス

○松村眞一郎君 サウ云フ御見解
デアレバ宜シウゴザイマス、私ハ
サウ云フコトヲ讀マナイト云フコ
トダケ申上ゲテ置キマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 今申
上ゲマシタノハ、當局トシテノ見

解ヲ申上ゲタノデアリマス

○松村眞一郎君 宜シイ、デスカ
ラサウ云フ御見解デ宜シイガ、私
ニハサウ讀メマセヌト云フコトヲ
斷言シテ置キマス、第六章ノ「司
法」ト云フノハ是ハ裁判デセウ、
第六章ノ「司法」ト云フ字ハ裁判
デゴザイマセウ、此ノ中ニハ檢察
ガ入ツテ居ナイデセウ、如何デス

○國務大臣(木村篤太郎君) 見解
ノ相違デアリマス、是ハ文字ノ使
ヒ方ニ依ツテサウ云フ御議論モ出
マセウガ、勢クトモ今申上ゲマス
「司法官憲」ト云フ字文ノ使ヒ
方ニ依ツテ、我々ハ此ノ中ニ包含
サセルモノト云フ意思ヲ持ツテ居
ルト云フコトヲ申上ゲル

○松村眞一郎君 私ハソレヲ言ツ
テ居ルノデハナイ、第六章ノ「司
法」ト云フ字ハ何デアリマスカ、
第七十六條ノ「司法權」ト云フ其
ノ「司法」ハドウデゴザイマス
カ、是ハ裁判デアリマス、檢察ハ
入ツテ居リマセヌ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御答
ヘ申上ゲマス、御尤モデアリマ
ス、此ノ司法ト云フ本來ノ意味ニ
付キマシテハ色々解釋モアリマセ
ウガ、我々ノ見解ト致シマシテハ
主トシテ、裁判ヲ司ルベキモノト
考ヘテ居ルノデアリマスガ、併シ
現在普通ニ廣義ニ解釋致ス所ニ依
リマスルト、司法ト云フ部ニハ檢
察當局モ多ク含マレテ用ヒラレテ
居ルノデアリマス、嚴密ナル意味

ニ於ケル司法ト申シマスレバ、左様ナ解釋ハ出來ルデアリマセウ

○松村眞一郎君 ソレハアタタノ御見解デアリマスカラ、兎モ角此ノ司法ト云フモノハ、主トシテト云フ言葉ハカシイノデス、是ハ專ラデス、專ラ司法ト云フコトハ裁判官デセウ、第七十六條ノ「司法權」ト云フノハ專ラ裁判權デセウ、如何デス、裁判權デアリマセウ

○國務大臣(木村篤太郎君) 御説ノ通りデアリマス、司法權ト云ヘバサウナリマス、併シ普通申シマスル此ノ司法ト云フ中ニハ、廣義ニ解釋サレル場合モアルデアリマス、ソコデ普通司法官憲ト申シマスルト、裁判官モ所謂廣義ニ於ケル、裁判官、檢事、司法警察官ト云フモノヲ多ク含マセテ居ルデアリマス、其ノ意味ニ於テ此ノ「司法官憲」ト云フ文字ヲ使ツタノデアリマス

○松村眞一郎君 ソレデハ司法官憲ト云フ例ガアリマスカ、何ト云フ法律ニゴザイマスカ、司法官憲ト云フ字ガ...

○國務大臣(木村篤太郎君) 成規ノ條文ニハ司法官憲ト云フ文字ハ使ツテ居リマセヌ、併シ使ツテナイカラト云フテ、此ノ憲法ニ使ツテ惡イト云フ儀ハナイノデアリマス

○松村眞一郎君 使ツテ宜イ惡イト云フコトヲ申シテ居ルノデナ

イ、使ツテナイト云フナラバ、從來ノ解釋ヲ此處ニ持ツテ來ルト云フコトハ出來マセヌ、司法官憲ト云フ字ガナイノデスカラ、ナイ以上ハ、ソレハアタタノ御見解モ出來マス、私ノ如キ見解モ出來ル譯デアリマスカラ、ソレハ曖昧ナコトヲ書イテ、司法大臣ノ仰セラレタ如キ解釋ハ通りマセヌゾト云フコトヲ申スノデアリマス

○國務大臣(木村篤太郎君) ソレハモウ御議論ニナリマスカラ、私ハ御答ヘ致シマセヌ

○松村眞一郎君 御答辯ハ要リマセヌ、意見ガ違ツテ居ルト云フコトヲ申シテ居ル、見解ヲ異ニシテ居ルト云フコトヲ申シテ居ル、ソコデ問題ハ、私ハ若シ司法大臣ノ言ハレマスガ如キ意味ニ於テ、三十三條ノ中ニ檢察官ガ入ルト云フコトデアラナラバ、私ハ反對デゴザイマス、之ヲ私ハ裁判官ト讀ンデ居リマス、元來斯ウ云フコトニナル譯デス、是ハ私ガ申上ゲル迄モアリマセヌガ、併シ此ノ委員會トシテハ申サナケレバナラヌ、元來刑罰ニ付キマシテハ、刑罰請求權ト科刑權ト刑罰執行權トガアルコトハ申上ゲル迄モアリマセヌ、檢事ト云フモノハ刑罰請求權ト刑罰執行權シカ持ツテ居ナイ、科刑權ハ判事ガ持ツテ居ル、是ハモウ明瞭デス、ダカラ、元來、今茲ニ司法大臣ト云フ名前ガ附イテ居リマスガ、此ノ司法大臣ト云フ「司

法」ハ裁判官シマスカ、司法大臣ニ伺ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 司法大臣ノ裁判官シナイコトハ、モウ私ノ申上ゲモナク明瞭デアラウト思ヒマス

○松村眞一郎君 ソレガ故ニ、司法大臣ト云フコトデス、他ノ言葉ヲ以テ言ヒマス、檢事大臣ト云フコトデス、檢察大臣ト云フコトデス、ソレハ今申シマシタ如ク刑罰權ハ裁判官ガ持ツテ居ル、判事ガ持ツテ居ル、司法官ノ持ツテ居ルモノハ今ノ起訴ノ問題ト行刑ト云フモノガアル、是ハ檢事ガ持ツテ居ル、起訴ト行刑ヲ檢事ガ持ツテ居ル、中間ノ裁判ハ詰リ司法デス、司法ト云フモノハ司法大臣ハヤツテ居ナイ、カルガ故ニ司法大臣ト云フ名前ガ間違ツテ居ル、デスカラ今回憲法改正サレルト司法大臣ト云フ名前ハ廢メナケレバナリマセヌ、檢察大臣トカ檢事大臣トシナケレバナラヌ、若シ司法大臣ト云フ言ヒマス、今司法大臣ガ言ハレタ如キコトニ解釋サレテ困ル、司法大臣ト云フニハ裁判官ハナイノデ、檢察モ人ル、是ハモウ惡イ弊害デアツテ、是ガ今日豫審ヲ廢セヨトカ、檢事ガ横暴デアルトカ云フ問題ノ起ル原因デア

ス、全然判事ト云フモノト檢事ヲ明確ニ區別シナイトイケマセヌ、ソコデ豫審ヲ廢スルト云フコトガ司法官カラノ書類ニ見エテ居リマスガ、豫審ヲ廢シテ豫審ヲ何處ヘヤルノデスカ、司法大臣ニ伺ヒマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 豫審制度ヲ廢止スルト云フコトハ、マダ確定ノ議ニハナツテ居リマセヌガ、只今司法制審議會ノ答申ニハ左様ニナツテ居ルデアリマス、豫審制度ハ廢止サレル運命ニアラト云フコトダケハ多分間違ガナカラウト考ヘマス

○松村眞一郎君 豫審ヲ廢スト云フコトニ付テ二ツノ考ヘ方ヲシナケレバナリマセヌ、世間ハ之ヲ豫審ト云フコトニ付テ間違ツテ解釋シテ居ル、豫審ヲ廢止シナケレバナラヌト云フコトハ...豫審ト云フノハ豫審判事ガヤルベキモノナデス、豫審判事ガヤルベキ所事ガ出シヤバリマシテ...私ハ此ノ場合出シヤバルト云フ言葉ヲ使フテ宜カラウト思フ、檢事ガ判事ヲ押ヘテ色々檢察ノコトヲ行フノデス、ソレガ爲ニ豫審ガイカスト言ツテ居ル、ソレハ大變ナ間違デアス、豫審ハ判事ガヤル、デスカラ豫審ヲ廢シタ場合ニハ豫審判事ト云フモノハナイカラ公判デアラナケレバイケマセヌ、是ハ民事訴訟モサウデス、民事訴訟ハ受理ヲシ

マス、裁判所デ受命判事ガヤルノデス、其ノ裁判所ガ受理シテ後受命判事ノヤル部分ヲ、豫審判事ヲ止メタナレバ公判ノ判事ガヤラナケレバイケマセヌ、是ハ行政訴訟デ申シマスルト云フト、行政裁判所ニハ部ガアリマセウ、私ハ行政裁判所ノ評定官デアツタカラ白ラ經驗シテ居ル、ソレハ五人ノ合議裁判デス、其ノ中ニ專理ト云フモノヲ置ク、ソレハ民事訴訟ノ場合ノ受命判事ト同ジデス、專理ガ總テノ準備ヲスル、サウシテ公判ヤル、是ガ建前アル、ダカラ豫審ヲ廢止スルト云フコトガ檢察ニ持ツテ行クト云フコトニナルト逆行デス、今日ハ豫審判事ト云フ判事ガヤツテ居ル、其ノ豫審判事ノヤツテ居ル部分ヲ檢事ガ抑ヘルガ故ニ非常ナ横暴ガ行ハレル、ダカラ豫審判事ノ豫審ヲ止メルナラバ、之ヲ公判ノ一部ニシナケレバナラヌ、是ハ豫審判事ヲ止メテ公判判事ガ受命判事トシテヤルト云フコトガ要點デス、若シ其ノ公判ノ方ノ判事ニ持ツテ來ナイデ、今度ハソレヲ檢察ノ方ニ持ツテ來タナラバ、是ハ逆行デス、司法大臣ハドウ云フ御考デスカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 今日ノ豫審判事ガヤルコトヲ檢事ガ拾ヒ上ゲテソレヲヤラウト云フ意味デハ毛頭ナイノデアリマス、要スルニアナクノ御議論ト同ジナンデス、詰リ豫審判事ガヤツテ居ルノ

ヲ公判判事ガヤラウ、斯ウ云フコトニナル譯デス

○松村眞一郎君 是ハ非常ニ明快

ナ御答辯ダト私ハ満足シマス、其ノ點ヲ司法大臣ガ茲ニ明言サレタノデスカラ、豫審判事ノヤルベキコトヲ公判ノ判事ニヤラセル、

是ハ大ナル獲物デアリマス、是アツテ初メテ表判ガ公明ニナル、豫審判事ハ私ハ今迄ノ制度デ行ツテ宜イト思フ、ソレガ何故悪イカト云フト、昔ヲ申シマス、私共若

イ時デスガ、潮豫審判事ト云フ人ガ居ラレタ、是ハ今ノ樞密院ノ副議長ノ潮サンノ兄サンデス、ソレハドウ云フコトヲヤラレタカ、今

ハツキリ憶エテ居リマセヌガ非常ニ有名デス、或ハ東京ノ鐵管事件、水道ノ鐵管事件デアツタカモ知レマセヌ、是ハ豫審判事十分

豫審判事タルノ權威ヲ發揮シタト云フコトデ私ハ今日尙記憶シテ居リマス、ソレデドウ云フコトヲヤ

ルカ云フト、豫審判事ニハ無力ナ人ヲ置イテ居ル、是ガ一番有力

ナ人ヲ豫審判事ニ置イテ置ケバ豫審制度ハアツテモ宜イト思ヒマス、今申シマシタ如ク、裁判所ガ

科刑權ヲ執行スルノニ、前ニ起訴アリ、後ニ行刑アリ、斯ウ云フ譯デス、司法大臣ハ行刑ト起訴ハ出來ナイ、處方司法大臣ハ、司法大臣ト云フ名前ガ附イテ居ルガ爲ニ、午前ニ佐々木委員ガ言ハレタ、裁判官ヲ集メテ時ニ裁判ヲヤ

ル方針ヲ與ヘルガ如キ訓示ヲ與ヘルト云フコトヲ佐々木委員ガ言ハレタノデアリマスガ、其ノ通りノ

コトヲヤツテ居ル、司法大臣ト云フ名前ヲ見テ自分ガ裁判官ニナツタ積リテ居ル、飛ンデモナイ間違デアリマス、ドウシテモ司法大臣

ノ司法ト云フ字ヲナクシテシマハナケレバナリマセヌ、檢察大臣、

檢察大臣デ宜シイ、實際ガサウナデス、例ヘバ私ハ先日モ申シマシタ、此ノ恩赦ト云フヤウナモノ

ヲ天皇ノ方ニ直屬セシメナケレバイカヌ、閣ノ閣議ニ付サナクテモ宜イト云フコトニ非常ニ關係ガ

アル、恩赦ト云フコトハ行刑ノ特別ナモノナンデス、裁判ヲシテサ

ウシテ犯罪人ヲ罪ニ陥レタ、其ノ中如何ニモ氣ノ毒デアルガ故ニ之

ヲ恩赦スル、是ハ特赦デス、ドンナコトヲヤルノカト云フト是ハ自

分ガ取扱ツタノ申上ゲマス、或小學校ノ先生ガ女學生ヲ孕マシタ、ソコデ墮胎シタ、ソコデ體刑ニ處セラレタ、是ハ如何ニモ氣ノ毒デアルカラ、是ハ行刑シテカラ後デスヨ、非常ニ謹慎シテ居ルカラ特赦ニシテ呉レ、是ガ特赦デス、恩赦デス、ソレヲ閣議ニ付セヨウト云フ、ソナコトヲ閣議ニ付スル必要ガアリマスカ、是ハ澤田サンモ言ハレタ、是ハ輕微ナコトデスカラ恩赦デアツテ居ル、之ヲ閣議ニ付シテ起訴ノ方ヲ閣議ニ付サナイ、是ハ大變ナ間違デ

ス、小サナ行刑ヲ閣議ニ付シテ、大ナル起訴ヲ閣議ニ付サナイ、斯ウ云フコトハ是ハ大イナル誤リデ

ス、ソレダケケテ簡單ニ茲ニ申上ゲマス、ソレカラ例ヘバ大浦事件ト云フモノガアリマス、大浦内務大

臣ヲ司法大臣尾崎行雄氏ガ起訴シテ居ル、ソレハドウ云フコトカト

申シマス、今申シマシタ檢察總長ダケデ判斷ガツカナイカラ、檢

事大臣デアル所ノ司法大臣ニ相談シタノダ、ソレヲ司法大臣ガ起訴

スル、内務大臣ヲ起訴シタ、私ハ國務大臣ヲ起訴スルト云フヤウ

ナコトハ、是ハ閣議決定ヲシナケレバイカヌト思ヒマス、斷乎トシ

テサウ云フコトヲヤラヌトイカヌト思ヒマス、サウ云フヤウナ大問題ヲ閣議決定セズシテ、墮胎ヲ

シテ居ル小學校ノ先生ノ恩赦ノ決定スルト云フコトヲ閣議ニ付スルト云フコトハ、如何ニ不均衡デアルカト云フコトハ誰デモ分ルト思ヒマス、ソナカ愚カク憲法ノ規定ナラデス、恩赦ノ如キハ天皇ニ直屬サセテ宜シイ、ソレト同時ニ國務大臣ヲ起訴スルガ如キコトハ閣議決定ヲシナケレバイカヌト思ヒマス、ソレノミナラズ、例ヘバ小橋ノ太君ガ文部大臣ヲ罷メタ、ソレヲ起訴シテ居ル、小橋ノ太君ガ罷メタ、現ニ帝人事件デモサウデス、是ハ小山君ガ司法大臣ト相談シテ居リマシタ、併シナガラ閣議

ニ付シテ居リマセヌ、今度ハ連帯責任ニナツテ居ルカラ本人ガ辭職スルト云ツテモ、連帯責任デアルカラ閣議決定ノ必要ハナイカ知レマセヌ、併シナガラ個人ノ犯罪ガアリマス、自分ガ大臣ニナラヌ前

ニ斯ウ云フコトデ犯罪ヲシテ居ツタ、例ヘバ墮胎ノ罪ヲヤツテ居ツタ、ソイツガマダ發覺シナカツ

タ、處方大臣ニナツテカラ墮胎ノ罪ガ發覺サレタト云フ時ニ起訴サ

レマシタカラ相談シテ罷メヨウチヤナイカ、ソレハヤツテモ宜シイ

カラ斯ウ云フコトハ閣議ニ付シテモ宜イノデスガ、此ノ憲法デハ内閣ヲヒツクリ返サヤウナ問題デ

ス、場合ニ依ツテハ大臣ヲ辭職シナケレバナラヌト云フ問題ヲ閣議

ニ付セズシテ、小學校ノ先生ノ墮胎ノ問題ヲ閣議ニ付スルト云フコトハ、斯ノ如キコトハ噴フベキコトト思ヒマセヌカ、私ハ噴フベキ

コトダト斷言シマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、モウ少シ司法權ニ付テ御考ヲ願ヒタイ、サウシマ

スト司法大臣ニ申スノデスガ、豫審ノ奴ヲ公判デ行フト云フコトニナルト、司法官憲ガ令狀ヲ出スト云フヤウナコトハ餘リ行ハレナイデヤアリマセヌカ、ドウデス

○國務大臣(木村篤太郎君) 司法大臣デスカ

○松村眞一郎君 司法大臣ハ司法警察官ヲ人レルト云フ御話デセウ

○國務大臣(木村篤太郎君) 司法大臣デスカ

○松村眞一郎君 午前ノ御答辯ガ私ハ宜クナイト云フノデス、ソレハデス、今迄人権蹂躪ガ行ハレタ

○松村眞一郎君 承リマシタ、午前ニ承リマシタ

○國務大臣(木村篤太郎君) ソレハ確定致シテ居ナイノデアリマス、唯答申案ノ内容ヲ私ガソコデ申上ゲタニ過ギナイノデアリマス、決定ハ後日確定サレルコトハダラウト存ジマス

○松村眞一郎君 午前ノ御答辯ガ私ハ宜クナイト云フノデス、ソレハデス、今迄人権蹂躪ガ行ハレタ

○國務大臣(木村篤太郎君) ソレハ確定致シテ居ナイノデアリマス、唯答申案ノ内容ヲ私ガソコデ申上ゲタニ過ギナイノデアリマス、決定ハ後日確定サレルコトハダラウト存ジマス

○松村眞一郎君 午前ノ御答辯ガ私ハ宜クナイト云フノデス、ソレハデス、今迄人権蹂躪ガ行ハレタ

ノハ、サウ云フ原理ヲ認メナカツ
タカラ行ハレタノダ、ダカラ認メ
テ人権蹂躪ヲ行ハセナイヤウニシ
ヨウト云フコトハ餘程變テ論法デ
アル、從來人権蹂躪シタカラソレ
ヲ嚴罰シタラ宜イデヤナイカ、監
督シタラ宜イ、其ノ濫用ヲ爲スモ
ノニ非常ニ大切ナ權利ヲ與ヘルト
ハドウ云フコトデスカ、與ヘラレ
ナイ時サヘ濫用シタノニ、與ヘタ
ラ尙濫用スル、益々當ルベカラズ
ト云フコトニナルト私ハ斷言致シ
マス

○國務大臣(木村篤太郎) ソレ

ハ抽象的ノ御議論デモウ少シ實際
ノ實務ヲ掘リ下ゲテ行ケバ御了解
ヲ願ヘルト思ヒマス、今日色々ナ
犯罪ガ頻發シテ起ル、其ノ場合ニ
一々判事ノ令狀ヲ要求シテ居ルト
云フコトデアレバ、重大ナ犯人デ
モ之ヲ捜査スル上ニ非常ニ支障ヲ
來ス、是ハ頻發シテ起ルベキ問題
デアラウ、ソコデ從來何ガ故ニ人
権蹂躪ガ跡ヲ絶タナカツタカト云
フト司法警察官ガ、刻モ早ク捜査
シタイト云フヤウナ時、一々判事
ノ令狀ヲ要求スルト云フコトニナ
ルノデ、御承知ノ通り所謂此ノ行
政檢束ト云フモノヲヤツテ、不當
ニ人権ヲ蹂躪シテ居ツタ所デアリ
マス、此ノ人権蹂躪ノ跡ヲ絶タシ
メル爲ニハ、少クとも司法警察官
ニ或程度ノ行政捜査權ヲ持タシテ
ヤレバ左様ナ心配ハナクナルデア
ラウ、但シソレガ度ヲ過ギルト又

復人権蹂躪ノ虞ガアルカモ知レナ
イト云フノデ、其ノ範圍ヲ極メテ
小範圍ニ止メテ、其ノ枠内ニ於テ
行政捜査權ヲ持タセルト云フノ
ガ、司法法制審議會ノ答申案ニ現
レタコトダト思ヒマス

○松村眞一郎君 能ク分リマス、

併シナガラ私ノ要點ハソレハ檢事
カラ獲セラレルモノデナイ、判事
カラ獲スベキモノデアルト云フ立
論デス、或意味ニ於テハ、事前ニ
命令ヲ待タズシテ事後ニ報告シテ
モ宜カラウト思ヒマス、今ノ御話
ハ司法警察官ダケデ宜シイ、檢事
ハ要ラナイ、若シサウ云フコトガ
迅速ニ行カナイト云フナラバ、判
事ヲ増員サレタラ宜イ、此處ニ大
イニ言ハナケレバナラヌコトハ、
非常ニ從來ノ司法省ノ人事ガ悪
イ、何故悪イカト云フト斯ウ云フ
コトニナツテ居ル、司法省デハ裁
判官ニ良シ人ガ見付カルト本省ニ
持ツテ來ル、檢事兼司法省參事官
ニスル私ハ法制局ニ居ル時ニハ、
司法省ノ官制ヲ最も嚴格ニヤツタ
ノデス、檢事兼司法參事官ヲ澤山
作ル、其ノ經費ハ總テ檢事局カラ
出ス、ソレデ檢事局ノ仕事ハ、ツ
モシナイデ本省ノ仕事ベカリシテ
居ラ、檢事兼司法參事官ト云フモ
ノハ司法省ノ罪惡デス、豫算ヲ案
ルコト司法省ガ一番悪イ、サウシ
テ檢事ノ豫算ヲ食ツテ兼參事官デ
居ル、其ノ結果ドウ云フコトニナ
ルカト云フト、總テ良イ人ハ、初

メ司法官ヲ志望シテ裁判所ニ入ル
ト、良イ人ハ皆檢事ニシテ本省ヘ
持ツテ來ル、本省デ局長ニナリ、
次官ニナリ、其ノ人ハ必ず控訴院
長、大審院長ニナツテ出テ行ク、
是ハドウ云フコトデスカ、行政官
ニナツテ、然ル後、裁判ノコトヲ
ヤツテ居ナイ人、ソレガ必ズ控訴
院長、大審院長ニナツテ居ル、此
ノ前ノ大審院長ハ誰カ、其ノ前ハ
誰カ、大阪ノ控訴院長ハ誰カ、高
京ノ控訴院長ハ誰カ、御考ニナレ
バ直グ分ル、皆司法省カラ出テ行
ツテ居ル、是非非常ニ判事ヲ侮辱
シテ居ル、サウシテ判事ノ仕事ハ
チツトモシテ居ナイ、法律ヲ相當
忘レテ居ル人ガ出テ行ツテ、直グ
上ニ乗ツカワテ、控訴院長ニナリ
大審院長ニナツテ居ル、今ノ大臣
ハ辯護士ヲ長クシテ居ラレマシタ
ガ、今日ノ司法省ハ踏々トシテ皆
然リデス、サウ云フコトヲスルカ
ラ立派ナ司法官ガ出來マセヌ、司
法官ハイデケテシマヒマス、出世
セムト欲スルナラバ須ク檢事ニナ
レ、檢事デナケレバ大臣ニナレナ
イ、カラ云フコトデ司法權ノ獨立
ガ出來マスカ、司法裁判所ヲ重要
ニ見テ裁判官ヲ終身官ニシナケレ
バナラヌ、處ガ檢事ハ非常ニ狡
イ、敢テ狡イト申上ゲテモ宜イ、
檢事ノ地位ガ上ルトソレニクツ附
イテ判事ノ地位モ上ル、判事ノ地
位ガ上ルトソレト共ニ檢事モ上
ル、大審院長ハ親任官デアアル、ソ

レハ司法權ノ尊重上當然ノ話デア
ルガ、今度出テ居ル檢察制度ニ其
ノ正體ヲ現シテ居ル、何故カト云
フト、是ハ檢察ノ大臣ハ能ク御覽
願ヒタイ、檢察要綱ト云フモノ
ハ、非常ニ檢察官ノ方ハ横暴デア
ル、檢事ハ親任官ト書イテアル、
檢事ノ親任官ハドウ云フコトニナ
リマセウカ、親任官ト云ヘバ、天
皇ガ命ゼラレルコトニナルガ、斯
ウ云フコトガ許サレマスカ、チヤ
ント此處ニ書イテアリマス、檢事
ハ親任一級、又ハ二級トアル、一
體何デス、是ハ、今度ノ憲法デハ
何處ヘ入りマス、親任ト云フコト
ハ、天皇陛下ガ親任ヲ用サレルト
云フコトデアアル、此ノ檢察要綱ト
云フモノガ、如何ニ檢事ガ側ニ乗
ツテ來タカ、檢察廳ガサウ云フ風
ニ跋扈シテ來ルト、再ビ人権蹂躪
ガ起ツテ來ル處ガアル、併シ私ハ
司法大臣ノ今日ノ明快ナル答辯ニ
依ツテ非常ニハツキリシタ檢察廳
ヲシテ茲ニ考ヘサセルベキ問題ガ
起ツテ居ル、ソレハ從來斯ウ云フ
コトガアルノデアリマス、豫審ヲ
廢スベキカ否カニ付テ二ツノ議論
ガアリマス、即チ裁判所ノ判事ニ
入レルト云フ議論ヨリモ、此ノ檢
察ニ入レルト云フ議論ガアル、豫
審ヲ廢シテ、豫審ハ元來公判ノ準
備チヤナイカ、公判ノ準備ハ或意
味ニ於テ告訴ノ延長チヤナイカ、
故ニ檢事ニ持ツテ來イト云フ議論
ガアルガ、是ハ飛デモナイ間違デ

告訴シタラ裁判所ノ手ニ入ツテ判
事ノ手ニ移ル、告訴シタラ豫審判
事ノ手デヤツテ居ル、ソレヲ檢察
ニヤラウト云フカラ大變間違ツテ
居ル、併シ司法大臣ハ僕ト共鳴デ
アリマシタカラ結構デス、ドウゾ
ソレデ御ヤリ願ヒタイ、ソレノ民
間ノ聲トシテ斯ウ云フコトガア
ル、是ハ御承知ノ東京辯護士會ノ
決議デ、大臣ハ、大臣ニナル前ノ
コトガカラ之ニ賛成シテ居ラレル
譯デスガ、三十條ト、三十二條ノ
第二項ノ、司法官憲ヲ、裁判所ト
改メルト云フコトデスカ、之ヲ出
シテ居ラレル、ソレガ大臣ニナル
ト司法官憲ヘ檢事ガ入ルト云フコ
トニナル、甚ダ奇怪デアルト思ヒ
マス、サウ云フ譯デアリマシタカ
ラ、ドウシテモ私ハ大臣ハ、サウ
云フ檢事大臣ニナラナイデ、最高
裁判所ノ長ニナラレタ方ガ宜イト
思フ、元來其ノ方ノ傾向ノ人デ
ス、司法大臣ト云フヤウナ、檢察
大臣ニナルト云フヤウナコトハ大
變間違デアルト思ヒマス、ソコデ
同ヒタイノデアリマセウガ、今度
出來ル最高裁判所ハ親任官デア
ル、國務大臣ガ下ニナル、ダカラ
私ハ司法大臣ハドウシテモ檢事大
臣ト替ヘナケレバイケナイ、ソコ
デ問題ハ裁判所構成法ニ於テ茲ニ
問題ガ起ル、裁判所構成法ハ今日
福山サンガ色々言ハレマシタガ、
司法行政ノコトヲ書イテ居リマ
ス、司法大臣ガヤツテ居ルノハ司

法行政アツテ司法デハアリマセヌ、ソレハ司法大臣ガ能ク御存ジマス、裁判所構成法ニモ第四編ニハ「司法行政ノ職務及監督權」ト書イテアリマス、大臣ガ監督スルノハ司法行政アリマス、佐々木博士ノ言ハレタ如ク裁判ヲヤル時ニハ、單獨判事ハ何等監督ヲ受ケマセヌ、司法大臣ハ監督ナドシナイ、ソコガ裁判所ノ獨立デス裁判ヲナス以上ハ司法權ノ行使ニ付テハ監督ヲ受クルコトナシ、是ハ明瞭デス、監督ヲ受ケルノハ司法行政、建物ヲドウストカ、豫算ノ分配ガドウトカ、サウ云フコトハ大シタコトデハナイ、裁判所ノ管轄區域ガドウトカ、斯ウトカ、ソレハ何處ヘ入レテモ宜イ、サウ云フモノハ輕イモノデアル、ソレヨリ司法權其ノモノヲ獨立シテヤルコトガ要點デアル、司法行政ノ監督ト司法權ノ監督トハ別々デス、司法權ハ監督ヲ受クルモノニアラズト云フコトガ明瞭デアル、司法權獨立デヤツテ居ル、サウ云フコトヲ司法省ニ居ツタ人ガ、裁判所構成法ガ能ク分ツテ居ナイト云フコトヲ私ハ申シマス、ソレデスカ

○松村眞一郎君 此處迄言ハナケレバ骨身ニ染マナイ問題デアリマス、サウ云フ譯デスカラ、ドウゾサウ云フ趣旨ニ於テヤツテ裁キタイ、次ニハ行政裁判所ノ監督ニ付テ申シマス、今度裁判所ノ中ニ民事部、刑事部、行政部ト云フモノガ出來ル、行政部ハ從來ト行政裁判所ノ評定官ノヤウナヲ採ラナイデ先程高柳サンガ仰シヤツタヤウニ、事實問題ニ付テノ認定ハ、矢張り行政ニ或程度色々苦勞シテ居ル者、ソレハ行政裁判所ノ評定官ハ判事ト行政官ト、兩方カラ探ルコトニナツテ居ル、私ハ行政官トシテ入ツタ、島田鐵吉ト云フ判事モ入り兩方混ゼテ居ル、サウ云フ組織ガ行政部ニ付テハ要リマスカラ、サウ云フ御考慮ヲセラレナイト適切ナ裁判ガ出來マセヌ、司法大臣ノ御意見ハ如何デアリマスカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 其ノ點ニ付キマシテハ、私ハ全然意見ヲ同ジウ致シマス、行政部ニ對スル係リ判事ハ、行政ノ方ニ經驗ノ深い人ヲ起用スベキガ當然ト考ヘテ居リマス

○松村眞一郎君 ソレカラ八十二條ニ「裁判ノ對審及び判決は、公開法廷でこれを行ふ」トアリマスカ、法廷ト云フ字ガアリマス、臨檢ヲシマシタ場合ニ證人訊問ハチヨット困リハシマセヌカ、臨檢ヲシテ、サウシテ證人訊問ヲヤリマス、矢張り其ノ場合ニ對審デヤルダラウト思ヒマス、出張シテ行ク證人訊問デス、其ノ場合ニ對審ハヤレマセヌネ、公開デハヤレマセヌ、實際問題トシテ法廷ト云フ字ガアルト、サウ云フコトデ困リハンナイカト思ヒマスガ

○國務大臣(木村篤太郎君) 法廷ト云フモノハ、必ズシモ、一定ノ建物ヲ指サナイデモ宜カラウカト思ヒマス、裁判所ノ判事ヤ檢事デ構成シタツノ機構デアリマスカラ、必ズシモ裁判所内デヤラナクテモ差支ナイカト思料致シマス

○松村眞一郎君 大變融通ノ利益ヲ解釋ヲナサレマスカラ結構デスガ、併シソレヲ法廷ト申シマスカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 現ニ今デモヤツテ居ルノデス、是ハ斯ウ云フコトヲ話シテ譯々シクナリマスルガ、戰災デ多クノ裁判所ガ燒ケマシテ、甚ダシキニ於テハ、府縣ノ武進道場ヲ使ツタリオ寺ノ一室ヲ使ツテヤツテ居リマスカラソレハ私ハ構成法ヲ組織サレタ裁判官ナリ檢事ガ出テツツノ機構ヲ作ツテヤル時ニハ差支ナカラウト思ヒマス

○松村眞一郎君 大變ニ融通ノ利益ヲ御解釋デ結構デスカ、法廷ト云フコトヲヤカマシク仰シヤラナイト云フコトニナリマス、ソレカラドノ條文ニ關係シマスカ、條文ノ關係ハ分リマセヌガ、口頭辯論主義デ決定サレマスカ、ソレハ行政裁判法ニハ斯ウ云フコトガアルノデアリマス、行政裁判法ノ所ニ、是ハ行政部ヲ若シ御設ケニナルトスレバ、行政訴訟ニハ斯ウ云フ風ニサレタ方ガ宜イノデハナイカト思ヒマスガ、三十三條ノ二項ニアリマスガ、「原告表告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直チニ判決ヲ爲スコトヲ得」是ハ便利ナコトガアル、本人ガ要ラナイト云ツテ居ル、ドウゾ書面デ審理シテ裁キタイト云ツテ居ルノニ態ミドウシテモヤラナケレバナラヌノハシカシイヂヤナイカト思ヒマスガ、ドウカ斯ウ云フ所ハ何トカ御考ヲ願ツタ方宜イノヂヤナイカト思ヒマス、是ハ口頭辯論主義デ、總テ貫イテ居リマスカ、憲法ノ條文ノ何處ノ所デ氣付イタカ、チヨット覺エテ居リマセヌガ、如何デスカ

○國務大臣(木村篤太郎君) 建前トシマシテハ、何處迄モ口頭辯論主義デヤラナクチャナラヌト考ヘテ居リマス、併シ今松村委員ノ仰セニナリマシタ書面審理ニ依ルコトモ、或ハ便利ノ場合モアルカト考ヘテ居リマス、或事件ニ限ツテ、ソレハ十分考慮シテ見タイト思ヒマス

○松村眞一郎君 實質問ハ是デ終リマス

○委員長(安倍能成君) チヨット御諮リシマスケレドモ、前ニ野村嘉六君ガ委員ノ時ニ陪審法及豫審ノコトニ付テ質疑ヲナサレタノデスケレドモ、其ノ所デナイト云フノデ、ソレヲ中止サレタノデスカ、其ノ後委員ヲ辭職サレタノデ、其ノコトニ付テ、是非此ノ司法ノ章デ質疑シタイト云フ御希望デゴザイマスガ、許可シテ宜シウゴザイマスガ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(安倍能成君) 野村嘉六君

○委員外議員(野村嘉六君) 私ハ自分ノ委員デアツタ時ニ、只今委員長ノ申サレタ通りニ、陪審法ニ對スル關係、豫審制度ニ關スル件ヲ申上ゲヨウト致シマシタガ、當時自分ガ、其ノ時ノ順番ニナツテ居ナイト云フコトデ、サウシテ後日ニ讓ルコトニナツタノデアリマスガ、幸ヒ今諸君ノ御同意ヲ得テサウシテ此ノ二ツノ問題ニ對シテ質疑ノ機會ヲ得タイト云フコトハ私ハ議員トシテ大イニ喜ブ次第デアリマス、ソコデ第一ノ豫審制度、此ノ問題ハ先程司法大臣ノ腹案、ソレカラ有力ナル松村委員ノ意見此ノ兩々相合シテ、サウシテ推考致シマスト云フト孰レモ皆豫審制度廢止ノ御意見デアリマス、サウ致シマスケレバ、此ノ問題ニ對シテ再ビ質問スル必要ハアリマセヌ、唯私ハ権カデアリマスルガ豫審判事ヲ當テヤツテ居タノデア

リマス、其ノ體験カラ申シマスル
ト云フト、御承知ノ通りニ犯罪事
件ガアルト云フト、第一番ニ司法
警察官ガ取調ベ、調書ガ出來ル、
第二ニハ檢事ガ取調ベ、調書ガ出
來、第三ニ事件ニ依ツテ豫審ニ廻
ス者ハ、豫審判事ガ取調ベラシテ、
サウシテ調書ガ出來ルノデアリマ
ス、斯ウ云フ順序ニナツテ居ルノ
デアリマシテ、同ジコトヲ三遍モ
繰返シテ居ルノデ、成ル程間違ヒ
ハナイ、念ニハ念ヲ入レヨト云フ
諺カラ申シマシタナラバ誠ニ結構
デアリマスガ、三回同ジコトヲ繰
返シマシテモ別ニ眞實ヲ發見シナ
イノガ多ク、却テ世界中デ言フ豫
審制度ハ惡制ヲ、封建制度ナリト
非難ノ起ル點ハ、長イ間被告人ヲ
勾留シ、サウシテ苦シメ又意思薄
弱ノ被告人ヲシテ無實ノ罪ニ服罪
セシムルト云フヤウナ大ナル弊害
ガアルノデアリマス、ソレカラ又
審理ノ關係ニ於キマシテモ、晚警
察署ニ留メテ置カレルト違ツ
テ、豫審ハ長ケレバ二箇年トカ、
或ハ長イノハ三箇年間モ同ジ事件
デ放リ込シテアル、是ハ私ハ自分
ノ職務上ヤツタ體験カラ申上ゲル
ノデアリマス、斯ウ云フ譯デ長ク
未決ニ置イタナラバ、意思ガ如何
ニ鞏固デアツテモ、遂ニ密口冤罪
ニ服シテ早ク裁判ヲ受ケタ方ガ宜
イデヤナイカト云フ茲ニ人間ノ弱
點ガ出テ、意思ノ脅迫ヲ受ケ、サ
ウシテ冤ノ罪ニ服スル輩モアルノ

デアリマス、是等ハ法曹界ノ一般
論ハ、惡制度ノ豫審制度ハ早ク廢
スベシト云フコトガ今ヤ上下ヲ通
ジテノ輿論デアリマス、幸ヒ此ノ
輿論ニ司法當局ガ鑑ミラレテ、サ
ウシテ豫審制度廢止ノ御意見ヲ洩
ラサレマシタコトハ、誠ニ司法界
ノ爲、國民ノ爲、喜バシイ次第デ
アリマス、理論ノ立テ方ハ違ツテ
居リマスケレドモ、松村君ノ御意
見モ結局歸スル所ハ同ジコトデア
リマスカラシテ、私ハ是ダケ申シ
マシテ是非豫審制度廢止ノ實行ヲ
希望スル次第デアリマス、ソレカ
ラ第二ノ問題ハ、陪審制度、此ノ
陪審制度ハ確カ大正十一年ニ初メ
テ日本ニ於テ行ハレタヤウニ感ジ
ダ居リマス、此ノ陪審制度ノ出來
タ當時ニハ、所謂當時ノ法曹家ト
シテ有名ナル、名前ヲ申スナラバ
江木衷ナシカ言フ刑法ノ大家、又
ソレト肩ヲ竝ベルヤウナ連中共ガ
舉ツテ陪審制度ハ文明國ノ裁判デ
アル、是非トモ實行セラレナケレ
バナラス、其ノ時ニ私等屢々聞キ
マシタガ天來ノ福音ナリト迄法曹
界ニ於テ稱セラレタモノデアリマ
ス、又サウ云フ風ニ見ルノモ是ハ
無理カラヌ、此ノ陪審制度ノ構成
ハドウデアアルカト斯ウ申シマス
「帝國國民タル男子ニシテ三十歳
以上タルコト」、「引續キ二年以上
同一市町村内ニ住居スルコト」、
「引續キ二年以上直接國稅三圓以
上ヲ納ムルコト」、「讀ミ書キヲ爲

シ得ルコト」斯ウ云フ極ク簡易デ
アリ、平易デアツテ、サウシテ國
民全體ヲ裁判ニ參與スルト云フ機
會ヲ與ヘタ制度デ、是コソ本當ノ
民主裁判デアル、ソレデアアルカラ
此ノ民主裁判タルヤ必ズ國民ガ大
イニ歡迎スベキモノナリト斯ウ我
我ハ思ヒ、先輩ガ天來ノ福音ナリ
ト稱シタノモ尤モデアアル、斯ウ云
フ風ニ感ジタ次第デアアルノデア
リマス、詰リ今日ノ普通選舉ノ程度
ト同ジコトデ、「讀ミ書キヲ爲シ
得ルコト」ト云フ程度ガ、詰リ人
民裁判ノ知識ノ程度デアリ、學問
ノ程度デアリマス、ソレデアアルカ
ラシテ、我々ハ必ズ立派ナ結構ナ
效果ヲ得ルモノデアルト思ウテ居
リマシタガ、圖ラザリキ、大正十
二年ニ此ノ法案ガ執行サレマシタ
ガ、扱、執行シタ結果ヲ見ルト云
フト、餘リ芳バシクナイ、陪審法
廷ハ閑古鳥ガ鳴イテ居ルヤウナ次
第デアリマス、何處ノ陪審法廷デ
モ此ノ頃ハ寂寥タルモノデアアル、
ドウ云フ譯デアリマセウカ、是デ
ハ我々ハ政治ヲアル上ニ於テ、實
際ニ國民ノ利害ヲ基礎ニシテ今迄
デモ議論ヲシテ居ル、ソレデアアル
カラシテ、如何ニ名論デアラウガ
卓説デアラウガ、サウ云フコトハ
第二ニシテ、ドウシタナラ國民ヲ
救フカ、再生ノ途ヲ見出スカ、是
ガ我々ノ政治界デ長ク苦勞シタ原
因デアアルノデアリマス、私ハ考ヘ
タ、ドウシテ斯ウ云フ立派ナ福音

的ノ制度、ソレガ國民カラ歡迎サ
レズニ荒レテ居ルノデアラウカ、
此ノ原因ニ付テ考ヘマシタガ、ド
ウモ考ヘ付カナイ、畢竟是ハ一體
國民ニ裁判サセルト云フ制度其ノ
モノガ間違ツテ居ルノデアリカ、
矢張り裁判官ト云フモノハ法服ヲ
著テ衣冠正シク、威嚴正シク、サ
ウシテ司法官試驗デモ受ケタ人デ
ナケレバ、裁判ヲスル所謂資格ハ
無イノカ、國民デ漸ク讀ミ書キシ
得ルガケノ程度ノ人ヲ裁判官ニス
ルノハ、日本ノ國情ニ副ハナイノ
ダ、斯ウ云フコトヲ考ヘタ、併シ
是モラカシイデヤナイカ、副ハナ
イ理由ハ無イコトハナイ、何處カ
ニ缺點ガアリハセヌカ、手續上ニ
アルカ、何處ニアアルカ、内容ハ既
ニ立派ニ豐富デアツテモ、手續上
ナシカデチヨット誤ルト云フト、
立派ナ法律モ效力ヲ發揮シナイ、
譬ヘテ見マスト立派ナ機械器具
デアツテモ、砂ヲ一握リパットソ
レニブツケルト云フト、其ノ立派
ナ精巧ナル機械モ活動ヲ停止シテ
シマフコトガアルノデス、是ハ機
械ノ例デアリマス、ソレト同ジコ
トニ、法律自體ハ民主的政治デ國
民ヲ裁判官ニスルノデアアルカラ、
誠ニ結構デアアル、併シナガラ手續
上ノ何カ缺陷ガナイカ、此ノ點ヲ
私自分デ考ヘテ見タノデアリマス
ガ、司法大臣ニ御伺ヒシタイノハ
私ガ是カラ申上ゲルコトガ事實ニ
當ツテ居ルカ、サウデナイカト云

フ點ニ付テ、ドウカ私ノ疑ヲ解イ
テ戴キタイト云フノハ、此ノ陪審
手續法ノ第四十一條ニハ「第二條
ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ
付アルトキハ裁判長ハ被告人ニ對
シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコト
ヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ」斯
ウ云フコトガ書イテアル、是ハ一
日ニ言ウテ見ルト、扱、オ前ノ方
ガ陪審裁判ヲ請求スル、ソレモ宜
ラウ、宜イガ、併シ是ハ辭退モ出
來ルゾ、斯ウ云フ一面ニハ、陪審
制度ハ結構ト云フ途ヲ開キナガラ
一方デハ其ノ陪審制度ハオ前辭メ
テモ宜イゾ、斯ウ云フ規定デア
ル、言ウテ見ルト、一面ニ於テハ
獎勵シ、一面ニ於テハ押ヘル、是
ハ私ハ民主政治ト官僚政治ノ茲ニ
大イニ差異ガアルデヤナイカ、今
日世間デ能ク謂フ所ノコトデ、當
ツテ居ルカ、當ツテ居ラヌカ知ラ
ヌケレドモ、民主政治ノ衣ヲ著テ
官僚政治ヲヤツテ居ルト云フト
ガアルガ、若シモ一面ニハ陪審制
度宜シイ、據ルベシト言ヒ、一面
ニハ辭メテモ宜シイ、斯ウ云フ勸
告ヲシタ時ニ、サウ云フコトヲ言
ウタ時ニハ、被告人ノ心理状態ハ
ドンナ意思ノ強イ者デモ、裁判官
ガ、裁判長ガオ前辭メテモ宜イ
ゾ、斯ウ言ハレタ時ニハ、是ハ寧
ロ玄人ノ裁判官ガ、言ツタ以上
ハ、先ツ辭メタ方ガ宜イノダ、陪審
制度ハ素人ト素人ノ寄合ダカラド
コニ轉ガツテ行クカ分ラナイ、斯

ウ云フ懸念ヲ起スノハ當リ前、其ノ證據ニハ、私等知ツタ人デモ、何故才前アレタケ申入ラシテ置イテ辭メルノダ、裁判官ノ方デ辭メタラドウカト云フ勸告ガアツタカラ、私ハ裁判官サヘズ、云フ勸告ヲサレタ以上ハ、是ハ辭メタ方ガ却テ自分ノ利益ニナルト思ウテ辭メマシタ、二、三件サウ云フコトヲ聞クノデアリマス、幾人カラモ聞ク、サウスルト云フト、陪審制度其ノモノハ結構ナ法律デアリマスガ、之ヲ運用スル、詰リ手續法ニ於テ缺陷ガアルノデヤナイカシラ、曩ニ申シタ通り、立派ナ機械デモ、ヤリ方方悪イト獨リデ其ノ機械ガ止ルト同ジデ、立派ナ法律デアルケレドモ、手續上ニ於テハ辭メテモ宜イト云フコト、此ノ言葉ハ被告人ノ立場カラ見ルト、頭カラ千鈞ノ石デ押付ケラル、ト同ジダ、是ハ被告人ノ心理状態デアル、此ノ状態ガ分ラナケレバ政治家ニモナレズ、裁判官ニモナレナイ、理窟タケデ行カナイ、斯ウ云フ次第デ、斯ウ云フコトガ重ツテ、サウシテ今日ハ陪審法廷ニ閉子鳥ノ鳴ク有様デアル、併シナガラ此ノ法律ヲ殺シテ宜イカ、斯ウナルト云フト、私ハマダ研究ガ足リマセヌ、足リマセヌカラシテ、ソレデ司法當局ニ伺フノデアリマスガ、私ノ考ハドウシテモ此ノ制度ヲ生カシテ、國民ノ裁判化、今日ハ所謂民主政治デアアル、民主裁判ノ時代デアアル、民主經濟ノ時代デアアルト、總テガ民主ガ頭文字ニナツテ、政治、行政百般ノコトヲ行フ際デアリマスカラシテ、私ハ此ノ制度自體ハ宜イガ、運用ニ於テ間違タ所ガアリヤセヌカト云フノダ、是モ私ハ斷言ハ出來マセヌ、唯茲ニ於テ今迄陪審ヲ申入レタ被告人デ、任意ニドレ程取下ゲタカ、斯ウ云フ點ヲ一ツ御調ベテ願ヒタイ、其ノ取下ゲト云フモノハ、所謂當局者ノ裁判長ノ善意ノ勸告カ、惡意ノ勸告カ、ソレハ第二ノ問題デアリマスガ、勸告ニ基イテ裁判官ヲ信用スル結果、素人ト云人ノ言フコトハ尤ナリト云フ立場カラ取下ゲタ人ガ多イダラウ、斯ウ云フノデアリマス、私等ノ間イテ居ルノデハサウ云フ人ガ多イノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、此ノ陪審法ノ制度ハ十二分ニ活用シタナラバ、司法界ニ於ケル民主政治化滿點デアアル、斯ウ思フシ、又手續問題ニ觸レテ、拘ツテ、サウシテ十分ノ活用ヲセシメナカウタナラバ、立派ナ法律モ死法ニナツテシマフノデヤナイカシラ、斯ウ云フ風ニ思ヒマス、ソレデ私ハ本日ハ豫審制度ノ不都合ナリト云フコトヲ申シマシタガ、幸ヒ司法當局ナリ、又松村委員トノ御話ニ於テ、是ハモウ廢止スルト云フ御意見ガ分リマシタ、ソコデ將來民主主義政治ノ基本ヲ爲ス所ノ陪審制度、之ニ對シテ當

局司法大臣ハドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレルノデアリマセウカ、若シ夫レ私ノ考ガ十分デアリト云フコトデアツタナラバ、ドウカ知識ヲ借シテ戴キタイノデアリマス、是ハ國家ノ大問題デアリマス、自分等個人ノ問題デヤナイ、ソレカラ又唯議論ノ爲ニ議論ヲスルヤウナソノナコトハ始シマセヌ、此處ハ立法府デアリマス、此處ハ本當ノ政治ヲスル場合デアリマス、理論闘争ナシカスル時期デヤナイ、國將ニ倒レムトスル際デアリマスカラ、私ハ心配ノ餘リ問フノデアリマスカラシテ、ドウカ司法當局ニ於テ此ノ點ニ對スル御意見ヲ御漏シテ願フ次第デアリマス

○國務大臣(木村篤太郎君) 今ノ御質疑ニ對シ御答ヘ申上ゲマス、私ガ申ス返モナク、陪審制度ハ我我ノ先輩ガ非常ニ盡力サレタノデアリマス、サウシテ此ノ制度ガ行レタ當初ニ於キマシテハ、全く天來ノ福音ノ如キ叫ビガ起ツタノデアリマス、然ルニ拘ラズ、實際陪審制度ガ行レタ此ノ方約十七年、是ハ確カ昭和十七年ニ停止シナツタカト考ヘテ居リマス、其ノ間陪審ガ實際ニ行レタノハ全國ニ於テ十件ニ滿タナイノデアリマス、何ガ故ニ斯様ナコトニナツタノカ、色々ソレハ原因ハアリマセウ、國民ニ陪審制度ト云フコトニ付テノ理解ガ缺ケテ居ルノデヤナイカト云フコトモ一ツノ原因デアリマス

方、野村委員御承知ノ通り、陪審制度ガ行レタ際ニ相當國民ニ對シテ宣傳モシタノデアリマス、我々弱輩モソレニ呼ビ掛ケモ致シタノデアリマス、然ルニ拘ラズ、今申スヤウナ結果ニ至ツタト云フコトニ付テハ、一ツハ日本ノ國民性ガ未ダ陪審制度ヲ受ケルニ至ツテ居ナイノカト云フ一ツノ疑問モアルノデアリマス、モウ一ツハ、只今ノ陪審法ノ制度ガ餘リニ煩雜ニ過ギヤシナイカ、今御述ニナリマシタヤウニ、裁判長ガ被告ニ對シテ陪審ヲ辭退スルコトノ勸告、左様ナコトモアリマセウ、色々ナコトヲ綜合致シマシテ、研究シテ居ルノデアリマスルガ、又更ニ我々司法當局トシテハ、深ク此ノ問題ヲ掘リ下ゲテナクチヤイカスト考ヘテ居ルノデアリマス、理念ト致シマシテハ、陪審制度ハ何處迄モ復活サセタイト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、唯茲デ問題ニナリマスノハ、此ノ制度ヲ再ビ活スト致シマシテ、急速ニ行カナイト云フコトデアリマス、御承知デモアリマセウガ、戰災ニ依リマシテ、全國ノ裁判所中約五十數箇所ト云フモノハ燒失シタノデアリマス、此ノ復舊ト云フモノハ容易ナラヌコトデアリマス、而モ之ガ陪審制度ヲ復活サセルト云フコトニ至リマスト、龐大ナ設備ヲ要スルノデアリマス、之ニハ我々頭ヲ悩マシテ居ルノデアリマス、併シ陪審制

度ニ付テハ何トカシテ復活スベキデアルト云フ氣持ヲ持ツテ居ルノデアリマス、只今申上ゲマス通り色々ノ觀點カラ之ヲ考慮シナケレバナラヌト云フノデ、折角當局ニ於キマシテハ各方面カラ檢討致シマシテ十分ノ考慮ヲ拂ヒタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○委員外議員(野村喜六君) 只今司法當局ノ答辯デ結構デアリマス、ドウカ十分ニ研究シテ法律ヲ活カシテ、サウシテ國民ノ此ノ裁判ニ満足サセルヤウナ結果ヲ得ルヤウニ一ツ御盡力ヲ御願ヒ致シマス、是デ私ノ質問ハ宜シウゴザイマス

○委員長(安倍能成君) ソレデハ第七章ノ財政ニ移ツテ、四時半位迄續ケタイト思ヒマス、白根委員

○男爵白根松介君 私人修正八八條ニ付キマシテ二三ノ御質問ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、此ノ憲法改正ノ政府草案ガ天下ニ公表セラレマシタ時、色々ナ刺戟ヤ疑惑ヲ國民ニ與ヘタノデアリマスルガ、就中第一條ノ天皇ノ御地位、言ヒ換ヘマスレバ、國體ニ關スルコト、第九條ノ戰爭放棄ニ關スルコト、ソレカラ第三番目ニハ、第八條及ビ第八十八條ニ規定シテゴザイマス所謂皇室財産ノ意味ニ付テ、此ノ三點ニ付テハ非常ナル刺戟ト疑惑ヲ國民ニ與ヘタト云フコトハ私ハ爭ハレナイ事實デアルト思フノデアリマス、第一

第二ノコトハ是ヨリ先ニ御審議ガゴザイマシタカラ別ト致シマシテ此ノ八十八條、第八條ニモゴザイマスガ、所謂皇室財産ノ意義ニ付テハ、之ヲ明瞭ニ致シテ、今申上ゲルヤウナ國民ノ疑惑ヲ解キタイト思フノデアリマス、實際津々浦ニ於キマシテ、此ノ八十八條ノ條文ヲ見マシテ、國民ハ非常ナル心配ト疑惑ニ滿チテ居ルノデアリマス、ソレデ私先ツ最初ニ御尋ネシタイノハ、八十八條ノ所謂皇室財産ト云フノハ如何ナル意味デアリカ、是ハ此ノ八條ヲ御審議ニナリマシタ時ニ、金森國務大臣ノ一應ノ御説明ガゴザイマシタガ、其時ノ御説明ハ、此處ニ所謂皇室財産トハ、三陛下、皇太子殿下並ニ王子殿下ノ御財産、ソレト皇族ノ御財産、此ノ二ツヲ言フモノデアアル、斯様ニ仰シヤツタヤウニ記憶致シテ居リマスルガ、左様解シマシテ宜シイノデゴザイマセウカドウカ、ソレヲ一ツ第一ニ伺ヒタイト思ヒマス、附加ヘマシテ、王族ノ御財産ハ如何様ニ考ヘ宜シイカ、ソレモ併セテ伺ヒタイト存ジマス

○國務大臣(金森德次郎君) 第八十八條ニ於テ皇室財産ト申上ゲテ居リマスルノハ、言葉ト致シマシテハ、幾分新シイ言葉デアリマシテ、其ノ内容ガ文字ノ上ニ直接ニ明カトハナク居ナイノデアリマス、是ハ色々規定ノ持ツテ居リマスル微妙ナ所ヲ考ヘマシタ爲ニ、斯様ト結果ニナツタノデアリマス、此處ニ皇室財産ト申シマスルノハ、廣イ意味ノ皇室全般ノ中ニ於キマシテ、個々ノ天皇及ビ皇族ノ方々ガ、國民一般ガ持ツテ居ルト同ジヤウナ趣旨ニ於ケル私有財産ヲ除キマシテ、其ノ外ニ考ヘラス、財産ヲ言フタ譯デアリマス、言ヒ換ヘマスルト、皇室ト云フツノ財産主體ハゴザイマセヌケレドモ、若シモ皇室ト云フモノニ個個ノ方々ノ私有財産ヲ除イテ、集團ノナル財産ト云フモノガ考ヘラル、トスレバ、其處ニアルガ如キ皇室ノ皇室財産ト云フテ居ルノデアリマス、之ヲ衆議院ノ會議ニ於キマシテハ、私ハ皇室ノ公的財産ト云フ言葉ヲ以テ申シマシタケレドモ、是トテモハツキリシナイ言葉デアリマスルガ、是ハ沿革的ニ考ヘナイト實ハ説明ノ出來ナイ言葉デアリマス、今日ノ皇室ハ從來ノ制度ニ依リマシテ、皇室ノ經費ヲ以テ國ノ政治ニ當ルベキ費用ヲ支辨シテオイデニナルノデアリマスルシ、又其ノ設備ハ同時ニ國ノ政治ノ設備ニ該當シテ居リマス、ト同時ニ、皇室ニハ先ニ申シマシタヤウナ各個ノ方々ノ純粹ノ私有的意義ニ於テ御行便ニナツテ居ル財産ガアル譯デアリマス、此ノ點ニ著眼致シマシテ、前者ノ公的財産、後者ノ私的財産ト味ブコトガ出來ヨウト思ヒマス、併シ或種ノ

財産ハ財源ヲ供給スルヤウナ意味ノモノデアリマスルガ爲ニ、直チニソレガ正確ニ公的財産私的財産ト云フコトハ出來マセヌケレドモ、併シ遠觀ニ依リマシテ、公的經費ヲ支辨スル爲ノ財源ト考ヘラレマスルモノハ、矢張り公的財産ト言フコトガ出來ヨウト思ヒマス、斯様ニ區別致シマシテ、其ノ公的財産此ノ八十八條ニ謂フ皇室財産ト云フ言葉ノ内容トシタ譯デアリマス、先程御質疑ニナリマシタ時ノ御言葉ノ御示シニナル所ハ、ハツキリ聽キ取レマセヌケシタ所ト正反對ノ意味ニナツテ居ハシナイカト云フコトヲ恐レテ居リマス

○男爵白根松介君 最初御尋ネシタノハ、此ノ皇室財政ト云フ中ニハ、今申シマシタヤウニ、三陛下、皇太子殿下、王子殿下ノ御財産ト、ソレカラ皇族ノ御財産モ入ツテ居ルノデゴザイマセウカ、ソレカラ王族ハ如何カト云フ點ヲモウ一度御説明ヲ願ヒタイ

○國務大臣(金森德次郎君) 皇室財産ト申シマスル部分ハ、個々ノ方々ノ財産ハ多分皇室ノ御持チニナル公的財産ト云フコトノ概念ニハ當ラヌモノト存ジテ居リマスルガ、實ハ個々ノ内容ヲ非常ニ正確ニ存ジテ居リマセヌケド、若シモ其ノ中ニ先程申シマシタ私ノ定義ニ依ル公的財産ガアレバ、ソレハ

含マレルコトト存ジテ居リマス、又王族ノコトハ全爲此ノ條文ニ關係ナイモノト考ヘテ居リマス

○男爵白根松介君 マダモウ少シ實ハ分ラナイノデゴザイマセヌケガ、世間デハ所謂皇室財産ニ付テ御心配申上ゲテ居ルト同時ニ、皇族ノ御財産ニ付テモ非常ニ御心配申上ゲテ居ルノデゴザイマセヌケガ、其ノ皇族ノ何々富ノ御財産ハ公的デアレバ矢張り此ノ皇室財産ニ入ルト、左様ニ解釋シテ宜シウゴザイマセヌカ

○國務大臣(金森德次郎君) 若シモ公的ナモノガアリトスレバ、之ニ入ルト云フコトニナラウト思ヒシマシタコトハ能ク了解シマシタ、次ニ御尋ネ致シタイノハ、是ハ御言葉モソレニ觸レタヤウデゴザイマセヌケガ、公的、私的ト云ハレタ、公的ノ方ハ私ハ御尋ネ致シマセヌケガ、私的皇室財産ト云フノハ、若シ御差支ナケレバ例ヲ引クトドントモノデゴザイマセウカ

○國務大臣(金森德次郎君) 是ハ私ガ度々申上ゲテ居リマスルヤウニ、天皇及ビ皇族ノ各位ノ方々モ私的生活ハアル、私人トシテ考ヘラルベキ生活ガアルト云フコトヲ申上ゲマシタ、其ノ私人タル立場ニ於テ御持チニナルト客觀的ニ制斷シ得ベキ財産ト云フノデアリマス、例ヘバ皇族ガ現ニ萬年筆ヲ御持チニナツテ居ルツカ、眼鏡ヲ御掛ケニナツテ居ルツカ、私的の財産ノ最モ的確ナルモノト云フコトガ云ヘマス、此ノ觀念ヲ何處迄押シ及ボシテ行クコトガ出來ルカト云フコトハ、先ニ申シマシタ原則ヲ基本トシテ個々ノモノニ代テ判斷ヲシナケレバナラナイモノト考ヘテ居リマス

○男爵白根松介君 サウ致シマスルト、其ノ私的財産ヲ分ケテ考ヘマスル時ニ、其ノ中ニハ不動産ハ入ラス、斯様ニ解釋シテ間違ヒハゴザイマセヌカ

○國務大臣(金森德次郎君) 私ハ不動産ガ入ラスト云フ解釋ガ必ズシモ出ルモノトスベキ論據ヲ持ツテ居リマセヌ

○男爵白根松介君 其ノ點稍ママダ納得出來マセヌケガ、餘リ細カイコトハ却テ御尋ネシナイ方宜シイカト思ヒマシテ其ノ邊デ打切りマス、唯、ツはモ國民ガ非常ニ心配シテ居リマスコトデアリマスカラ、具體的問題トシテ御尋シタイノデアリマスガ、陛下ノ御住ヒ遊バス宮城ト云フヤウナモノハドウ云フ形ニナリマスルノカ、其國ニ歸屬シテシマツテ、ソレヲ又何等カノ方法デ皇室ガ御使用ニナルト云フコトニデモナリマスルノカ、其ノ邊ハ御差支ガナケレバ御説明ヲ願ヒマス

○國務大臣(金森德次郎君) 具體的ノコトハ實ハ此處デ確定的ニ中

上ゲルダケノ段階ニハ達シテ居リ
マセヌノデ、謂ハバ、種ノ抽象的
ナル形ニ於テ御答ヲ申上ゲタイト
思ヒマス、假リニ具體的ナル言葉
ヲ使ヒマシテモ、ソレハ抽象的ナ
ルモノヲ分リ易ク例ヲ取ツテ言フ
ト云フ意味ニ御取リテ願ヒタイト
思ヒマス、宮殿ノ如キ性質ノモノ
ハ、是ハ公的ニ天皇方御使ヒニナ
ラウト思ヒマス、從ツテソレハ此
ノ八十八條ノ規定ニ依リマシテ、
國ニ屬スルト云フコトニナラウト
思ヒマス、併シ國ニ屬スルト云フ
コトハ、其ノ場合ニ於キマシテハ
所有權方國ニ屬スルト云フコトニ
ナリマス、物ヲ使用スル關係ニ於
キマシテハ公的ナルモノヲ公的ナ
ル方法ニ於テ利用スルコトハ當然
ノコトデアリマスルガ故ニ、天皇
ガ象徴トシテ御使ヒニナル場合ハ
當然、所有權ハ國ニ移ツテ居ツテ
モ御使用ニナルコトト考ヘテ居リ
マス

○男爵白根松介君 尙方面ヲ變ヘ
テ少シ伺ヒタイノデアリマス、皇
室財産ガ總テ國ニ屬スル結果ト致
シマシテ、皇室ノ御費用ハ、豫算ニ
計上シテ國會ノ議決ヲ經ルト云フ
コトニナツテ居リマスルガ、現在
四百五十萬圓ノ皇室費ガ毎年議會
デ協賛サレマシテハソレガ皇室經
濟ノ收入ニ入ツテ居ルノデアリマ
スルガ、今度議會ノ協賛ヲ經マス
皇室費用、何ト云フ名前ニナリマ

スカ、皇室費ナルモノハ、一般ノ豫
算ノヤウニ決算ヲ殘方出マスレ
バ、ソレハ不用額トシテ全部切リ
捨テテシマフモノデアリマスカ、
或ハ何カ皇室費ノ一部ト云フヤウ
ナモノガ今迄ノ四百五十萬圓ト同
ジヤウナ意味デ皇室御經濟ノ方ハ
入ツテ行ツテ、其ノ殘方出マスレ
バ、ソレハ皇室ニ於テ御蓄積ニナ
ルト云フヤウナコトガ可能ナラ
アリマスルカ、ドウ云フ經理ノ方
法ニナリマスルカ、其ノ邊ヲ伺ヒ
タイト思ヒマス

○國務大臣(金森徳次郎君) 御説
ノ如ク皇室ニ要シマスル經費ハ、
此ノ憲法ノ草案ノ定メマスル如ク
豫算ニ計上シテ國會ヨリ之ヲ支辨
スバキコトニナルノデアリマス、
既ニ豫算ニ計上スルト云フコトニ
ナリマスレバ、其ノ言葉ノ示スガ
如ク他ノ一般ノ國費ノ場合ノ豫算
ト同ジデアリマスルガ故ニ、一般
ノ方法ニ依ツテ、請リ會計ノ規定
ニ從ツテ仕事ヲシテ行ク、而シテ
殘リガアレバ、ソレハ豫算ノ殘ト
シテ國會庫ノモノトシテ殘ルト云フ
コトニナルノガ原則デアラウト思
ヒマス、併シナガラ此ノ憲法ノ八
十八條ニ定メテ居リマスル「皇室
ノ費用」ト云フ言葉ハ、可ナリ廣
イ内容ヲ持つテ居ル言葉デアリマ
シテ、此ノ費用ノ一部分ハ國カラ
支辨スルト云フコトニ依ツテ、支
辨ト云フカ、國カラ拂出スト云フ
コトニ依ツテ豫算上ノ目的ノ全部

ヲ果スヤウトモノモアリ得ルト思
ヒマス、左様ナモノニ付キマシテ
ハ殘ルト云フ問題ハ起リマセヌ、
ソレガ皇室ノ方面ノ收入トナリマ
シタ場合ニ、ソレ以後ノ扱ヒ方ハ
皇室ノ私有財産トシテ扱ハレテ行
ツテ宜イト考ヘテ居リマス、シカ
シ左様ナ經費方果シテドウ云フ形
ニ於テ、ドウ云フ限度ニ於テアリ
得ルカドウカト云フコトニ付キマ
シテハ、今日尙未決ノ問題デアリ
マス

○男爵白根松介君 御答辯デ大變
能ク了解シマシタ、尙八十八條
直接ノ問題デハゴザイマセヌガ、
是ハ先般八條ヲ御審議ニナリマシ
タ時ニ、下ナタデアリマシタカ他
ノ委員ノ方カラ、此ノ八條ハ寧ロ
八十八條ノ次、請リ財政ノ章ノ方
ヘ移シラドウカラウカト云フ御
意見ガ出テ居リマシタ、ソレニ對
スル御答辯モアツタノデゴザイマ
スルガ、私モ是ハ左様存ジマスル
ノデ、天皇ノ章ニ八條ノヤウナ、
何ト申シマスカ、天皇ノ章ハ陛下
ノ御地位ナリ權能ヲ規定シテアル
非常ニ尊嚴味ノアル章デアリマス
ルノデ、其處ニ、皇室ノ御財産ニ
屬ストハ言ヘ、何カ此ノ八條ノア
ルコトハ、此ノ第一章トノ尊嚴、
ト申シマスカ、ソレハ汚スヤウナ
氣モ致シマスノデ、此ノ財政ノ章
ノ八十八條ノ次ニ加ヘル方宜イ
ノデヤナイカラウカ、殊ニ八十九
條ノ條文等ヲ讀ミマス、此ノ條

文ノ間ニ挾ムノガ、番宜イノヂヤ
ナイカト云フ風ナ氣ガ致シマス
ガ、是ハ前ニ下ナタカラカ今申上
ゲタヤウナ御質問ガ出タノデアリ
マスガ、恐レ入リマスガ、重ネテ
ソレニ對スル金森國務相ノ御答辯
ヲ御願ヒ致シタイノデアリマス

○國務大臣(金森徳次郎君) チョ
ト其ノ前ニ、先程カラ私ノ言ツ
タコトガ能ク得心ガ出來ナイト云
フ所ニ何かマダツ申上ゲタ所ノ
モノニ殘ツテ居ルヤウナ氣ガシ
テ、言ヒ方ガ惡カツタカモ知レマ
セヌカラ、御分リニナツテ居ルト
思ヒマスレドモ、念ノ爲申上ゲ
マス、請リ不動産ガ皇室ノ私有財
産ノ中ニ入ルベキモノデアルカ、
斯ウ云フ御尋デアツタカト存ジテ
居リマス、其ノ時ノ私ノ答ハ、少
シグル／＼ト廻ツタヤウナ言葉ヲ
申シマシタガ、是ハ已ムニ已マレ
ヌ理由ガアツテサウ申シタノデア
リマスガ、平タク言ヘバ、不動産
ガ皇室ノ各人ノ方々ノ私有財産ニ
ナリ得ナイト云フ理窟ハ私ハ知ラ
ナイ、斯ウ云フコトヲ申上ゲタノ
デアリマス、ナルカナラヌカ、私
ハ知リマセヌ個々ノ財産ニ付テ調
査シナケレバナリマセヌ、併シ原
則トシテ不動産ハ私有財産ニナリ
得ナイ、併シ動産ナラバナリ得ル
ト云フ、斯ウ云フ區別ガ二者ノ間
ニハナイト云フコトヲ申上ゲタノ
デアリマス、ソレハ御分リニナラ
ヌ答ハナイト思ヒマス、御分リニ

ナラヌト仰シタルノハ何カ私ノ申
上ゲ方ガハツキリシナカウタカラ
グラウト思ツテ補足ヲシテ置キマ
ス、次ニ第八條ヲ財政ノ章ニ持ツ
テ行ツタラドウカト云フ御話デア
リマシタ、是等ノ條文ハ多少關係
モアリ、又少シツツ本來ノ章ノ中
ニアルベキ性質ヲハミ出シテ居ル
ヤウナ點モアリマシテ、論理的ニ
何處デナケレバ絕對ニナラヌト、
斯ウ云フ理由ハナイト思ツテ居リ
マス、併シ第八條ノ規定ハ、可ナ
リ含蓄ノ深イ規定デアリマシテ、
單ニ皇室ノ御經費ヲドウスル、斯
ウ云フ趣旨デハゴザイマセヌ、一
面カラ言ヘバ皇室ト國家トノ間ニ
或ハ皇室ト國民トノ間ニ於ケル所
ノ財物ノ關係ニ於キマシテ、從來
ノ憲法政治ノ發達ノ上ニ於テ、幾
分疑惑ヲ強ク招イタ問題ヲ解決シ
ヨウト云フノデアリマシテ、之ヲ
平タイ言葉デアリマシタ、モツト
分リ易ク申上ゲタイガ餘リ適當ナ
言葉ガ見ツカリマセヌ、結局皇室
ノ御權能ヲ限定スルト云フコトニ
密接ナル關係ヲ持つテ居ル次第デ
アリマスルガ故ニ、其ノ章ニアル
コトガ適當デアラウ、斯ウ云フ風
ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、第
八十八條ノ方ハ先ヅ大體純粹ニ皇
室ト國トノ間ニ於ケル財産關係ニ
關スル規定デアリマス、左様ナ所
ニ差別ガアルト思ツテ居リマス

○男爵白根松介君 以上デ私ノ質
問ヲ終ルコトニ致シマス

申シマス。澤田委員、佐々木委員ニ御質問願フゾアリマスガ、是多クノ簡條ニ互ツテ居リマスカラ、便宜上松本委員ノ第八十八條ニ對スル御質問ヲ願ヒマス

○松本學君

私ハ只今白根委員ノ御尋デ大體了承致シマシタガ、簡單ニ一ツ二ツノ點ダケヲ御伺シテ見タイト思フゾアリマス、此ノ八十八條ノ皇室財産ハ只今ノ御話デ、公的ナ財産ガ國庫ニ歸屬スルノデアツテ、私的ノ生活ニ要スル所ノ御財産ハ之ニ含まナイト云フコトノ御答ガアツタゾアリマスガ、八條ニ依ツテ皇室ニ譲リ渡シ又ハ譲リ受ケタル財産ハ是ハ矢張り八十八條ノ皇室財産ト云フコトニ相成ルヤウニ見エルトゾアリマスガ、是ハ如何ナモノゾアリマセウカ、矢張り公的財産ト私的財産ニ分ケテ八條ニ依ツテ譲リ渡シ、又ハ譲リ受ケルト云フ財産ガ區別サレルト云フ風ニモ思ヒマスガドウデセウカ、此ノ點ニ付テ伺ヒタイ

○國務大臣(金森德次郎君)

御説ノ如ク八條ハ皇室ニ財産ヲ譲リ渡スト云フコトノ中味ト致シマシテハ、皇室ノ個々ノ方ノ純粹ノ私有財産トシテ譲リ渡サレルトモアリ得ルゾデアリマス、併シ物ノ性質、分量等カラ客觀的ニ判斷シ致シマシテ、ソレハ皇室ノ私有財産デハナク、所謂公的財産ノ如キ實

ツヲ考ヘルコトガ出來ルゾデアリマス、併シ其ノ結果ト致シマシテ私有財産トシテデアリマスレバ、國會ノ議決ヲ經テ私有財産トシテ譲リ渡サレル、此ノ場合ニ於キマシテハ皇室ニ屬セラル、方々ノ私有財産トシテ殘ルゾデアリマスカラ、何等ノ不審モ何モゴザイマセヌガ、公的財産トシテ若シ其ノ譲リ渡シガ成立スルモノト致シマスナラバ、第八十八條ニ依リマシテソレハ又國ニ屬スルト云フコトニナルゾゴザイマス、從ツテ理論ノ上デハサウ云フ風ニナリマスケレドモ先ツ斯クノ如キ形ニ於テ公的財産ガ八條ヲ經由シテ皇室ニ先ツ行キ、他日國ニ行クト云フノハ、事柄ノ實體トシテハナイモノト考ヘテ宜カラウト思ヒマス、併シ是ハ萬々一サウ云フコトガアツタラ八十八條デ斯様ナ結果ニナルト、斯ウ云フ意味ヲ持ツテ居ル、一ツノサウ云フ場合ヲ防止スル規定ノ如キ意義ヲ持ツテ居ルト云フ譯デゴザイマス

○松本學君

サウシマス。八條ハ概括的規定デゴザイマシテ、議決ニ基ツクト云フコトニ依ツテ法律ガ一ツ數ニ出ルト云フコトニナルト思フゾデアリマスガ、其ノ法律ヲ定メル時ニ只今ノ御話ノヤウニ實效ヲ收メナイヤウナ公的財産ノ譲リ渡シ、譲リ受ケト云フヤウナコトハ其ノ法律ノ内容ニ於テ何カ

○松本學君

トニナリマセウカ、サウ云フ風ノ制限的ナ御規定ガ法律ニ定メラレルト云フコトガ豫想出來ルゾデアリマセウカ

トニナリマセウカ、サウ云フ風ノ制限的ナ御規定ガ法律ニ定メラレルト云フコトガ豫想出來ルゾデアリマセウカ

○國務大臣(金森德次郎君)

今其ノ法律ノ内容ヲ非常ニ具體化サセハハハ考ヘテ居リマセヌガ、大體ハ獻納シテモ宜シト云フコトノハウキリシテ居ルモノヲ法律ニ列舉シタラバドウカト考ヘテ居リマス、例ヘバ日常ノ御調度品ヲ納スル、或ハ何カ輕微ナル物ニ付テ或種ノ緣故ニ依ツテ獻納スルト云フヤウナ、先ツ誰ガ見テモ不思議ナイト云フ種類ノ物ヲ其ノ法律ノ中ニ列舉致シマシテ、サウ云フ物ハ一々特別ニ國會ノ議ヲ經チイデモ宜シト云フ風ニシタイト思ヒマス、其ノ後ドウ云フ羽目デ何カ變ツタ財産ノ獻納ノ申出ノアルヤウナ場合ニ於キマシテハ、ソレハ個々ノ場合ニ於テ國會ノ議決ヲ經ル、斯ウ云フ建前ニシタ方ガ宜イノデヤナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○松本學君

八十八條デモウツ伺ツテ見タイノハ、原案ノ方ニハ「皇室ノ支出ハ、豫算ニ計上シテ」トアリマスガ、修正ノ方ハ、「皇室ノ費用」トナツテ居リマス、是ハ文字ガ違ツテ居リマスガ、内容ニ於テモ大分違ツタコトニナルゾデアリマセウカ、支出ト云ヒマス、是ハ所謂支出デアツタ、

ク、單ニ支出ト云フコトニナツテ收入ガ入ツテ居ナイヤウニ思ヒマスガ、費用トナリマス。ト收入、支出ト云フ所謂經費ト云フヤウナ感ジガスルゾデアリマスガ、何カ此ノ間ニ區別ガアルゾデアリマスカ

○國務大臣(金森德次郎君)

此處ニ費用ト申シマシテモ、矢張り皇室御使ヒニナル費用ト云フ風デアリマスカラ、支出ト云フ言葉ト實質ニ於テハ異ナル所ハナイ譯デアリマス、唯支出ト云ヒマシテモ一々出入リスル段階ヲ押ヘルヤウナ感ガゴザイマシテ、費用ト云フト一々支出スルト云フゾナク、先デ御使ヒニナルト云ヒマスガ、皇室ノ方デ用ヒラレル所迄モ含ンデ居ルヤウナ感ジガアリマシテ、同ジコトデアリマスケレドモ、例ヘバ幾ニ白根委員カラ御尋ニナリマシタヤウニ豫算ノ方デ拂ヒ切ツテシマヒマシテ、實際ハ使ハレテクテモ其ノ金額ハ其ノ儘ニナルト云フ場面ガ何等カノ形デアリ得ルト思ヒマス、サウ云フ所ヲ考ヘマスト廣イ意味デ皇室ノ費用ト云フツタ方ガ宜イゾデアリマシテ、ホント心持ノ影響カラ來テ居ルゾデアリマス

○松本學君

私ノ質問ハ是デ終リマス

○委員長(安倍能成君) ソレデハ松本委員

○子爵松平親義君 私ハ九十餘ニ

十條ノ決算ニ關スル條項ガ現行憲法七十二條ト殆ド同様デアルゾデアリマス、我々毎年政府カラ提出サレル決算ヲ議會デ審議シテ居ルゾデアリマスガ、私ノ僅カナガラノ經驗カラ何時デモ感ジマスコトハ、決算ト云フモノハ既ニ政府ガ出納シテシマツタコトヲ、濟ンデシマツタコトヲ帝國議會ニ會計檢査院ノ報告書ト一緒ニ提出サレレモノシ、我々ガ其ノ政府ノ豫算ノ使途ガ果シテ適正ナリヤ否ヤト云フコトヲ審査スル譯デアリマスガ、モウ既ニ政府ガ使用シテシマツタモノデアリ、ソレニ對シテ我

○松本學君

我ガ唯議會ニ於テ審議ヲシマシテモ混ミ入ツタ使途ニ付テソコニ適正ナリヤ否ヤト云フ判斷ヲ下スコトハ何時モ出來ナイゾデアリマス、正確ニ言ヘバ、矢張り現地ニ我々ガ行クナリ或ハ現地ニ當局者ヲ呼び出シテ其ノ人ニ話ヲ聽クト云フヤウナ事デモシナイ限カギリナカナカ正確ナ豫算、決算ノ審査ト云フモノハ出來ナイニデアリマス、ソレデ何時デモ適正ナリヤト云フコトハ、唯形式的ニ決定スル、サウシテソレニ對シテ又政治的ナ效果ト云ツタヤウナモノモ一體下ノ程度ニ政府ニ對シテ效果ガアルノカト云フヤウナコトモ、是モ私ハ實ハ未ダニハウキリシテ居ラナイゾデアリマス、ソコデマ

○子爵松平親義君

今度ノ此ノ憲法ニ於キマシテモ

大體同様ノ規定ガ此處ニ現レテ來テ居ル譯デアリマスケレドモ、矢張り今後ノ所謂民主政治ト云ツタヤウナコトカラ考ヘマシテモ、矢張り決算ト云フコトハ非常ニ大切ナコトニハ違ヒアリマセスガ、濟ンダコトニ付キマシテ彼此レ言ツテ見テ處ガ、ナカナカ本當ノ支出ガ適正デアツタカドウカト云フコトヲ濟ンダ所見ルト云フコトハ非常ニ困難ガアルノデヤナイカト思フノデアリマス、勿論今度ノ憲法ニ依リマス、此ノ國會ノ章於キマシテ立法府ガ外部ト交渉ヲスルコトガ出其ル規定ガ此ノ六十二條、詰リ「國政ニ關する調査を行ひ、これに關して、證人の出頭及び證言並びに記録の提出を要求することができる」と斯ウシタヤウナコトニ付キマシテ議會ガ外部ト接觸スルコトガ出來ルヤウニナツタノデアリマスカラ、恐ラク此ノ豫算ノ審査ト云ツタヤウナコトニ正確ヲ期スルコトモ出來ルト思ヒマス、併シソレトテモ理想通りニハ參ラヌト思フノデアリマス、ソレト今度ノ帝國議會ヲ通過致シマシタ地方制度ノ改正法案、アレニ於キマシテ御承知ノ通り自治團體ニ於テ都道府縣、ソレカラ大都市、斯ウ云ツタヤウナ自治團體ニ於テ中ニ監査委員ト云フモノガ設ケラレテ居ルノデアリマス、サウシテ是ガ其ノ事業ノ執行狀況、ソレカラ出納ノ狀況ト云フ

ヤウナモノヲ管理スルト云フヤウナ役目ヲ以テ斯ウ云フ監査委員ガ出來タト云フコトデアリマス、詰リ斯ウ云フヤウナ決算ヲ我ガ事後ニ於テ見ルト云フコトモ必要デモアリマセウガ、同時ニ事前ニ、政府ノ經費ノ支出ヲ、事後ニ監督スルノミナラズ、事前ニ於テ之ヲ監督スルト云フヤウナ形デ今後一ツノ考ヲ廻ラシテ置イタ方ガ宜イノデハナイカト云フ考モ致シマス、ソレデ此ノ只今中上ガマシタ地方制度ニ於テ出來タ監督委員、之ヲ國ノ豫算ノ執行ノ上ニ於テモ斯ウ云ツタヤウナモノヲ利用サレテ、事前ニ經費ノ支出ヲ監督スルト云フヤウナコトノ一ツノ考ヘ方ガアルノデヤナイカト私ハ思ヒマス、其ノ邊ニ付キマシテ、政府ハ此ノ九十條ニ付テ何カ御考ガアリマセウカ、若シアレバ承ツテ置キタイト思ヒマス

○國務大臣(金森徳次郎君) 御説

ノヤウニ、第九十條ハ大體現在アリマスル決算ノ規定ト同様デアリマシテ、現在ニ於キマシテハ、決算ヲ帝國議會ニ提出致シマスル時ニドノ議會ニ提出スルト云フ制限ガアリマセウガ、今回ノハ次ノ年度ニ必ズ提出シナケレバナラヌト云フコトニナリマシテ、憲法ノ上デハ可成リ嚴重ニナツテ居リマス、實際決算ト云フモノハ實行者ガ責任ヲ本當ニ負ヒ得ル時代ニ決算ガ審査ヲ了シマセウケレバ、全體ノ方ハ審査ヲ致シマシテモ、政治的ニ非常ニ感情ヲ鈍イノデアリマスカラ、其ノ所ハ早イ時代ニ決算スルト云フコトガ此ノ趣旨デアリマス、憲法ハ其ノ程度ニ止ツテ居リマセウケレドモ、之ヲ現實ニ運營シテ行キマスル場面ニ於キマシテハ、御説ノ如ク此ノ豫算ヲ支出致シマスル段階ニ於キマシテ最善ノ注意ヲシナケレバナラヌコトハ固ヨリト思ヒマス、從來トモ之ニ關シマシテ、色々便法ヲ考ヘテ、斯クノヤウニシタナラバドウカト云フ論ガアリマシタケレドモ、例ヘバ此ノ支出ニ先立チマシテ、事前ニ然ルベキ部局ニ於テ之ヲ調査シテ、果シテ之ヲ支出シテ宜イカドウカヲ審査シテ、其ノ審査ヲ了シタ後ニ支出スルト云フヤウナ風ノ計畫ガ持チ出サレタコトモアルノデアリマスカレドモ、併シ餘リニ之ヲ苦勞シ過ギマスルト、却テ目的ニ合ハナイ、角ヲ縮メテ半ヲ殺スト云フヤウナ、此ノ例ハ度々出シマスルガ、ウマク行カヌ爲ニ事前檢査ト云フ方法ハ實行サレテ居リマセウガ、今回ニ於キマシテハ、ドノ程度迄其ノ實行ノ上ノ注意ヲスルカト云フ點ニ付キマシテハ、今現ニ研究シテ居リマスル、此ノ財政實行ノ方法ト致シマシテハ、大藏大臣ヲ責任者ト致シマシテ、サウシテ豫算實行ノ上ノ適正ヲ期スル爲ニ、各省又ハ各官廳ニ對シマシテ、收支ノ實績

ヲ見込ト云フモノニ付テ報告ヲ取リ、又ソレヲ基トシテ財政上適當ナル指示ヲ與フル、斯ウ云フ方法ヲ採ツテ行ツタラドウカト云フ考ノ下ニ案ヲ設ケタイト存ジテ居リマス

○子爵松平親義君 大藏大臣ヲ中心ニシテ一ツノ監査的ナ機關ヲ設ケルト云フコトニ付テ御研究中デアルト云フコトデアリマスガ、一ツ尙御研究ヲ願ヒタイ、私モサウ思ヒマス、唯サウキモ申シマシタ通り今度ノ改正サレタ地方制度、都道府縣其ノ他大都市ニ於ケル所ノ自治行政ニ於キマシテハ、監査委員ト云フモノガ特ニ設ケラレタノデアリマス、此ノ考カラスレバ、此ノ國ノ豫算ヲ實行スル場合ニ於テモ矢張りサウ云ツタヤウナモノガ出來得ル可能性ハ十分ニ私ハアルト考ヘテ居リマス、併シ此ノ程度ノコトハ只今モ今モ御話ヲ伺ヒマシタカラ、是デ私ハ其ノ點ノ質疑ハ打切りマス、ソレカラ其ノ第二項ノ此ノ「會計檢査院ノ組織及び權限は、法律でこれを定める」是ハ現行法ト全ク同様デアルト思フノデアリマスルガ、私ハ此ノ現行法デ法律デ之ヲ定メルト云フ風ニ書イテアルノト、今度ノ此處デ、「法律でこれを定める」ト書イテアルノトハ、文字ハ同じデアリマスガ、此處ニ書イテアル文字ハ同じデアツテモ、此ノ現レタ所ノ考ヘ方ト云フモノハ違ツテ居

ルノデヤナイカト云フカンジガスルノデアリマス、斯ウ云ウコトハモウ申スマデモナイコトデアルト思フノデアリマス、現行憲法ニ於テハ詰リ會計檢査院ト云フモノハ官制大權ノ一ツノ例外ト云フカ、制限ノ一ツノ規定デアルト云フ風ニ私共解シテ居ツタノデアリマス、詰リ同じ是ハ行政官廳デアリマスケレドモ、會計檢査院ノ職務ノ性質上、之ヲ官制大權ノ下ニ置カズニ一ツノ法律デ之ヲ構成シテ、國務大臣ニ對シテ一ツノ獨立ノ地位ヲ會計檢査院ニ與ヘルト云フ爲ニ此ノ法律ト云フ措置ガ必要デアルト云フ風ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、「會計檢査院法ノ第一條ニモ會計檢査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シテ獨立ノ地位ヲ有ス」と云フ規定ガアルノデアリマシテ、其ノ點カ行ケバ會計檢査院ヲ特ニ獨立セシムル、一般ノ行政官廳ニ對シテ之ヲ獨立セシムルト云フ其ノ考ヘ方ガアルカラコソ現行憲法ニ於テ之ヲ法律デ定メルト云フ風ニ書イテアルノデアルト私ハ解釋シテ居ルノデアリマス、併シナガラ此ノ第八十六條ノ新憲法ノ「法律でこれを定める」ト云フ意味ハ恐ラクサウ云フ風ニ意味カラ、此處ニ「法律でこれを定める」ト云フ風ニシタノダトハ、私ハ思ツテ居リマセウ、是ハモウ金森國務大臣ガ度々仰シヤツテ居ラレル通り「法律でこれ

を定める」ト云フノハ此ノ憲法ノ根本ノ一ツノ考ヘ方カラ來テ居ルコトデアルト私モ解シテ居ルノデアリマス、サウシマス、此ノ「法律でこれを定める」其ノ他ノ行政官廳モ總テ原則トシテ政令ヲ定メナイデ、全部之ヲ法律ヲ以テ定メルト云フコトニナリマス、會計検査院ト云フモノノ職務ノ性質上カラ、是ハドウシテモ他ノ官廳ニ對シテ獨立ノ立場ヲ執ラナケレバナラヌト思フノデアリマスルケレドモ、ソレガ此ノ「法律でこれを定める」ト云フコトニナリマス、他ノ行政官廳ト何等ソコニ獨立ノ立場ト云フモノガ現レテ來ナイト云フ考ガ茲ニ出テ來ルト思フノデアリ、ソコデ若シドウシテモ會計検査院ト云フモノニ、他ノ官廳ニ對シテ獨立ノ地位ヲ與ヘヨウトスルナラバ、是ハ法律トカ政令トカ云ツク點ニ於テ獨立ノ立場ヲ與ヘルト云フコトハ、私ハ出來ナイノデアツテ、寧ロ是ハ會計検査院ノ組織ト云ヒマスカ、其ノ構成員ヲ如何ニスルカト云フ、其ノ點ニ於テ他ノ行政官廳ニ對シテ獨立ノ地位ヲ與ヘサセルコトガ出來ルノデアリナイカト、斯ウ思フノデアリマス、詰リ其ノ組織、構成員ヲ官吏ニスルカ、サウデナケレバ之ヲ寧ロ帝國議會ノ議員ヲ以テ此ノ會計検査院ノ構成員ニ充テルト云フヤウナ、何カソコニ普通ノ官廳ト違ツタ、普通ノ官廳ノ勢力

ト云ヒマスカ、普通ノ官廳ノ専ラ影響ヲ受ケナイ所ノ一ツノ獨立シタ地位ヲ之ニ與ヘル爲ノ一ツノ構想、考トシテ、何等カソコニ考ヘテ置カケレバナラナイコトガアルヤウニ思ヒマス、其ノ點ニ付キマシテ、實ハ國務大臣ニ御質問ヲシタイト思ヒマス
○國務大臣(金森徳次郎君) 此ノ九十條二項ノ「法律でこれを定める」ト云フコトハ、御説ノヤウニ色々ナ意味ノ説明ハ出來ルト思ヒマスケレドモ、私自身ハ、其ノ動機ガ何デアツタカト云フコトヲ後カラ考ヘテ見ルヤウナモノデ、チヨウト妙ナ説明ニナリマスルガ、本來ハ斯ウ云フモノハ憲法デ書クベキモノデアアル、併シ憲法デ書クニハ少シ不十分不便ナ點ガアルカラ、ダカラ法律ニ委シタノダ、斯ウ云フ趣旨デアリマス、可ナリ重大ナル意味ヲ以テ之ヲ決メタモノト考ヘテ居リマス、但シ其ノ趣旨ガ別ニ文字ノ上ニハツキリ現ハレテ居ル譯デモ何デモゴザイマセヌ、デ、兎ニ角私ハサウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、サウ考ヘマスレバ、會計検査院ノ重要ナルコトハ、此ノ憲法ハ明カニ之ヲ主張シテ居ルノデアリマシテ、ソコデ例ヘバ是カラ更ニ法律ヲ決メル代リニ委任命令デモ出セルトスレバ、其ノ委任ノ範圍ガ妥當デアルカドウカト云フ委任命令ニ關スル法理ノ適用ノ上ニ於テ、相當ノ意味ヲ

持ツテ來ル、手輕ニ委任ガ出來ナイト云フ、斯ウ云フ趣旨ガ出來ルモノト考ヘテ居ル譯デアリマス、ソコデ次ニ會計検査院ノ中ノ組織ヲドウ云フ風ニスルカト云フコトハ、今迄ノ會計検査院ハ可ナリ政府ニ對シテ獨立ノ立場ヲ取ツテ居リマシタ、是ハ如何ナル批評家ノ言ヲ聞キマシテモ、政府ニ對シテ先ツ望ミ得ベキ程度ノ獨立性ヲ持ツテ居ルト云フコトハ言ハレテ居リマス、他ノ點ハ別ト致シマシテ、其ノ點ダケハ言ハレテ居ルヤウニ思ヒマス、從ツテ其ノ點ヲ尊重致シマスナラバ、現在ノ如キ方針ガ基本トナツテ考ヘラレテ行ツテ宜イノデアリナイカト思ツテ居リマス、ソコデ検査院ノ例ヘバ此ノ國會ノ方ニ結ビ付ケテ考ヘテ見タナラバ、ドウカト云フコトモ考ヘラレマスガ、ソレモ一ツノ考トハ存ジマスケレドモ、是ハ國會ニ對シテ決算ノ報告書ヲ出スモノデアリマシテ、幾分國會ト獨立性ヲ持ツベキ立場ニ居リマス、又内閣トモ獨立性ヲ持ツベキ立場ニ居リマス、從ツテ國會ト餘リ緊密ナ關係ヲ結ビマスコトハ、内閣ト緊密ナ關係ヲ結ビマスト同ジ位奇妙ナモノニナルノデアリナイカト、斯ウ云フ風ニ考ヘマシテ、只今ノ所ハソコニ變ツタ構想ヲ持ツテ居リマセヌ次第デアリマス
○委員長(安倍能成君) 今日ハ是デ閉會致シマス、明日ハ休會ニ致

午後四時三十三分散會
出席者左ノ如シ
委員長 安倍 能成君
副委員長 伯爵橋本 實斐君
委員
公爵岩倉 具榮君
侯爵細川 護立君
侯爵中山 輔親君
伯爵後藤 一藏君
三土 忠造君
子爵大河内輝耕君
男爵白根 松介君
子爵高橋 是賢君
子爵三島 通陽君
子爵松平 親義君
平塚 廣義君
牧野 英一君
佐々木惣一君
松村眞一郎君
男爵今園 國貞君
村上 恭一君
男爵飯田精太郎君
霜山 精一君
川村 竹治君
岩田 宙造君
高柳 賢三君
男爵松田 正之君
男爵渡邊 修二君
男爵松平 齊光君
田所 美治君
澤田 牛麿君
松本 學君
瀧川 儀作君
委員外議員
國務大臣
司法大臣
國務大臣
政府委員
法制局長官
法制局次長
司法事務官
同
木村篤太郎君
齋藤 隆夫君
金森徳次郎君
入江 俊郎君
佐藤 達夫君
佐藤 藤佐君
奥野 健一君
小山 完吾君
淺井 清君
渡邊 甚吉君
高木 八尺君
野村 嘉六君

昭和二十一年十月十七日印刷

昭和二十一年十月十八日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局